

明瞭ナルヲ以テ負債主カ返金ノ義務ヲ盡ス能ハサル時ハ債主ニ於テ差押ニヘキモノハ監獲ニ止リテ地所ニ及ホスヲ得ス然ルモハ假令長ク分離スヘカラサル方法ヲ以テ構造シアルモ到底地所ト獲ハ分離スヘキモノナルヲ以テ即チ一箇ノ動産物ニ外ナラサレハ原裁判所ニ於テ本件被告ノ所爲ヲ以テ已ニ抵當トナシタル動産物ヲ欺隠シテ他人ニ賣與シタルモノト認メ法律上之ヲ罰スヘキ正條ナキニヨリ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡シタルハ相當ナリトス右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也

○第四千二十三號

判文〔詐欺取財〕明治十六年六月四日上告

同 十七年十一月十八日發付

福岡縣豐前國企救郡矢山村平民

農業

光 井 平 内

明治十六年五月

三十八年

同縣同國同郡同村平民農業

木 村 吉 右 衛 門

明治十六年五月

三十七年

右平内吉右衛門カ詐欺取財被告事件豫審終結ノ言渡ニ對シ民事原告人カ爲シタル故障申立ニ付明治十六年五月十二日福岡輕罪裁判所小倉支廳會議局ニ於テ審理ノ末豫審判事ノ言渡ヲ認可シ該故障ハ相立タストノ判決ヲ爲シタルニ之ヲ不當ナリトシ民事原告人上村鶴市ハ

上告セリ其要領ハ第一民事原告人カ犯罪ノ證據トスヘキヲ證據充分ナラストシ免訴シタル豫審終結言渡ハ越權ノ處分ナルヲ以テ治罪法第二百四十六條第二項ニ抵觸スルモノトシ故障申立ヲ爲シタルニ原會議局ハ民事原告人ハ治罪法第二百四十六條第二項ノ場合ヲ除クノ外故障ヲ爲スヲ得ストノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリ第二本件ニ關スル事情精シク承知スル眞淳逸ヲ證人トシ治罪法第二百六十一條第二項ニ依リ請求シタルニ原會議局ハ何等ノ判決ヲ與ヘサルハ不法ナリ第三故障ノ判決ハ治罪法第二百三十六條ニ依リ判事三名以上ニテ爲スヘキモノナルニ判事補ニ換フルノ明文ナキニ判事補ノミニテ判決シタルノミニナラス判事補土方千種ハ豫審掛ニテ會議局ノ判決ニ加入シ得ヘカラサルモノナルニ之ニ加入シ爲シタル判決ハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

對手人被告平内吉右衛門ハ原裁判相當ニシテ上告理由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ理由トスル第一ハ要スルニ原裁判官カ治罪法第四百四十六條第二項ノ明文ニ依リ特任セラレタル職權ヲ以テ證據トスルニ足ラスト認メ免訴シタル事實ノ判定ト探證ノ當否トニ對シ不當ヲ唱ヘ越權ナリト云フニ過キサルヨリ原會議局ハ私訴ニ對シ越權アリトノ故障ニアラサルヲ以テ棄却スト言渡シタルモノナレハ毫モ不當ト云フヲ得ズ又第二訴旨ニ依リ治罪法第二百六十一條ノ法文ヲ案スルニ民事原告人カ證人トシ請求シタルモノヲ召喚スヘシトノ明文アルコトナキノミナラス第一訴旨ニ對シ辯明スル如ク私訴ニ對シテ爲シタル故障ニアラス原ト民事原告人カ容喙シ得ヘカラサル公訴ニ對シテ請求シタル證人ナレハ之ヲ召喚

セサルトテ敢テ不當ナリト云フヲ得ズ其他治罪法第二百三十六條ニ故障ハ其裁判所ノ會議局ニ於テ判事三名以上ニテ云々之ヲ判決ス可シトアルノミヨテ判事補之レニ換フルノ明文ナシト雖モ治罪法第五十七條ニ判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職權ヲ行フトノ規定アルヲ以テ爲シタル判決ナレハ違法ニアラサルナリ又本件ニ干預シ豫審シタル判事補ハ原英清ヨシテ判事補土方千種コアラサレハ其干預セサル土方千種カ會議局ニ干預シテ判決爲シタルトテ是亦越權ト云フヲ得ズ因テ上告趣旨總テ其効ナシ

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千二十四號

判文〔詐欺取財〕明治十六年七月十三日上告
同 十七年十一月十八日發付

京都府上京區第八組栞屋町平民

山本治輔

明治十六年六月二十六日九月生

明治十六年六月十六日京都輕罪裁判所ニ於テ右山本治輔ハ詐欺取財ノ所爲アリト判定シ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ照シ重禁錮二月ニ處シ罰金拾圓ヲ附加シ監視一年ニ附スル旨宣告セリ山本治輔ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告ガ中野治良兵衛ト帶地ノ取引ヲナシタルハ正當ノ取引ニシテ詐欺ノ所爲アリシニ非ラス然ルチ原裁判所ニ於テ前記ノ如ク判定シタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢察官原裁判所檢事補小室確爾ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ本案上告論旨ハ其原由ナキ旨ヲ述ヘ且附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告ガ故テニ笹屋町山本ト記シタル書翰ヲ以テ云々ト判文ニ明記スルヲ視レハ山本「スヘ」ヨリ出シタル書翰ヲ偽造シタル罪アルカ如クナレハ原裁判所カ其罪ヲ論セサルニ依レハ或ハ罪トナラサル事實アルヤモ量リ難ク果シテ然ラハ是レカ事實ヲ明示セサルヘカラス且書翰ヲ以テ中野治良兵衛ヲ欺キトシ記シテ其欺キタルハ何等ノ手段ヲ用ヒタルヤチ明記セズ是共ニ事實ノ理由ヲ附セサル不法ノ裁判ナリト云フニアリ因テ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ要旨ハ事實判定ヲ論難シ徒ラニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ原由ナキモノトス然レハ本院檢事附帶上告論旨ニ基キ原判文ヲ閱スルニ「故テニ笹屋町山本ト記シタル書翰ヲ以テ中野治良兵衛ヲ欺キ博多帶七本騙取云々」ト明記スレハ則チ博多女帶ヲ騙取シタルハ本案ノ事實ニシテ故テニ笹屋町山本ト記シタル書翰ヲ以テ中野治良兵衛ヲ欺キタルハ其手段ナリトス然ラハ其詐欺ノ手段ニ供シタル笹屋町山本ト記シタル書翰ハ則チ犯罪ノ具ニシテ文書偽造ノ罪ヲ免レサルモノ、如シト雖モ原裁判所ニ於テ其罪ヲ論セサルノミナラス其罪トナラサル理由ヲ付セサレハ原判決ノ當否ヲ見ルニ由ナク本院檢事附帶上告論旨ノ如ク事實ノ理由ヲ附セサル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ被告人上告ハ之レヲ棄却シ本院檢事附帶上告ニ基キ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ正當ノ判決ヲ受ケシメン爲メ大津輕罪裁判所ニ移ス者也

○第四千二十五號

判文〔無届不參〕明治十六年九月二十六日上告
同 十七年十一月十八日發付

茨城縣常陸國東茨城郡水戸上市

白銀町寄留平民

石川 伊三郎

年齡不詳

明治十六年八月二日水戸治安裁判所ニ於テ右伊三郎カ無届不參事件ニ對シ明治十年第五號公布ニ照ラシ罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告伊三郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ曾テ召喚狀ヲ一見セシ事之レ無キニ依リ罪セラルヘキモノニアラス然ルニ罰金ノ刑ニ處セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

檢事補若井平世ハ上告ノ理由ナキヲ駁シ原裁判相當ナル旨答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由ハ被告ニ於テ召喚狀受ケタル事之レ無キニ處罰セラレタルハ不當ナリト云フト雖モ事實ノ判定ハ裁判官ノ職權上ニアリテ既ニ判文ニ舉示スル如ク所管戸長ノ上申書等ニ依リ被告ハ召喚ノ當日明治十六年八月一日無届不參セシヲ以テ罰スヘキ事實アリト判定シタル以上ハ之レニ對シ徒ラニ非難スルモ上告ノ原由ト爲スヲ得ス今試ミニ該戸長ノ上申書ヲ査閱スルニ(右ノ者本日)出頭可仕旨御達シ有之候ニ付當役場ヨリ昨三十一日夕刻呼出狀指遣シ候處今ニ出頭無之候云々)トアルニ依レハ戸長役場ヨリ出廷ノ前日召喚狀ヲ送達シ

タル事明瞭ニシテ上告ノ趣旨ハ謂レナキ論告ニ過キス因テ該上告ハ適法ノ理由ナキニ依リ相立タルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ之レヲ棄却スルモノ也

○第四千二十六號

判文〔無届不參〕明治十六年十月三日上告
同 十七年十一月十八日發付

茨城縣常陸國新治郡土浦中城町

平民

鈴木 俊平

年齡不詳

右俊平カ無届不參被告事件ニ付明治十六年九月十八日土浦治安裁判所ニ於テ審理ノ末明治十年第五號及明治十四年第七十二號公布ニ依リ罰金五圓ヲ科スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告俊平ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ土浦治安裁判所ヨリ勸解事件ニ付明治十六年七月三十日出頭スヘキノ召喚ニ應シ被告ハ當日出頭シタルモ當該官ニ於テ病痾ノ爲メ闕勤セラレタルヲ以テ猶ホ來七月一日出頭スヘシトノ受付官吏ノ口達ニヨリ空シク退廷シタル事實ナルニ原裁判官ニ於テ被告ハ無届不參シタリトノ推定ヲ下シ處斷セラレタルハ不服ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手ハ檢察官山口重理ハ原裁判相當ナリトノ答辯ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ召喚ノ當日出頭シタルモ當該官ニ於テ闕勤セラレタルヲ以テ止ヲ得ス空シク

退廳シタル事實ナルニ原裁判官ニ於テ故ナク無届不參シタルモノトノ推定ヲ下シ罰金ノ刑
ヲ科サレタルハ不當ノ裁判ナリト云フニアレモ要スルニ原裁判官ノ判定シタル事實ニ對シ
徒ラニ不服ヲ唱フルモノニシテ是ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第百
四十六條第二項ニ規定シアル如ク證據ヲ取捨シテ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ職權ナレハ
ナリ況ンヤ該掛官ニ於テ闕勤セシヲ以テ退廷シタルモノト見ルヘキ事蹟ナキニ於テテヤ因
テ本案上告ハ相立タサルモノト判定ス

○第四千二十七號

明治十七年七月二日哀訴
判文(證券印稅規則犯)同 年十一月十八日發付

東京府本所區龜澤町二丁目十番
地平民

兒島幸吉
明治十六年十二月三十四年

明治十七年六月二十五日本院ニ於テ右兒島幸吉カ證券印稅規則違反被告事件ノ上告一件ヲ
審理シ其上告ハ事實ノ認定ヲ非難シ覆審ヲ求ムルニアリテ正當ノ理由ナキヲ以テ棄却スト
言渡シタル判決ニ對シ被告幸吉ノ代理人平塚有ハ哀訴ヲ爲シタリ其要領ハ明治十七年六月
二十五日例刻午前八時ヨリ代官届委任狀并受任届書ヲ本院ニ提出シ受付係リニ於テ正ニ
受理相成退院ヲ允許セラレタルニ依リ退出シタルニ本院ニ於テ何等ノ報知ナク即日判決ヲ

下サレタルハ治罪法第四百二十四條ノ規定ニ背キ從フテ同第四百三十六條第一項ニ適合ス
ル理由アルヲ以テ哀訴スト云フニ過キス

本院檢事長渡邊驥ハ答辯書ヲ差出サス
茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ踐行スルニ立會檢事池上三郎ハ哀訴ノ趣
旨ヲ賛成シ且ツ本件ニ立入り附帶上告ヲ爲シテ曰ク原裁判言渡シハ事實理由ノ不備アルヲ
以テ哀訴ヲ受理シ之ヲ破毀セラレシコト望ムト依テ之ヲ判決スル左ノ如シ
抑治罪法第四百二十四條ニ依リ開廷ノ三日前ニ代官人ハ報知ス可キモノハ必ス其以前ヨリ
代官人ヲ差出シ置キタル場合ニアルモノニシテ本案ノ如ク代官人届出ノ日ト判決ノ日ト同
日ニアル場合モ亦該條ニ依ル可キモノト概論スルヲ得サルモノトス何トナレハ其開廷三日
以前ハ尙ホ未ダ代官人ヲ差出シ置カサレハ之ヲ報知シ得可キ理ナケレハナリ故ニ如斯場合
ニアリテハ其果シテ代官人届アルニモ拘ハラス裁判言渡シヲ爲シタル等ノ事由アリテ初メ
テ其裁判ノ瑕瑾ヲ見ル可キモノナレモ本案ノ如キハ其哀訴ノ趣旨ニ依ルモ只單ニ午前八時
ヨリ九時迄ノ内受付係へ届書ヲ提出シタリトアルノミニシテ他ニ一ノ事由アルニアラサレ
ハ既ニ其届書ノ未ダ刑事局ニ達セサル以前ニアリテ辯論ヲ終結シ裁判言渡シヲ爲シアル上
ハ其裁判ハ固ヨリ正當ノ効力ヲ有スルモノナルヲ以テ今ヤ唯其代官人届出ト裁判言渡シト
ノ日ヲ同フスル一點ノミニ依リ之ヲ無効ニ歸セシムルヲ得サルモノトス依テ本案哀訴ハ到
底相立タサルヲ以テ之ヲ棄却スルモノ也

但立會檢事ノ附帶上告アリト雖モ既ニ本案哀訴ノ成立セサル上ハ本件ニ論入スルノ謂レ
三九九

ナキヲ以テ之レカ判決ヲ與フル限リニ非ラストス

○第四千二十八號

判文〔證券印稅規則犯〕明治十七年三月十一日上告
同 年十一月十八日發付

福井縣越前國敦賀郡三島村平民

太物商

岡部 仁兵衛

明治十七年二月
十五年九月

明治十七年二月二十日敦賀治安裁判所ニ開キタル福井輕罪裁判所小濱支廳ニ於テ右岡部仁兵衛カ證券印稅規則違犯被告事件ヲ審理シ刑法第五條ニ基キ證券印稅規則第二則第一條第二類同第四則第二條及ヒ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ仍ホ被告ハ犯時十六歳ニ滿サルモ是非ノ辨別アルモノトシ刑法第八十條第二項ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ罰金六圓貳拾錢ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告仁兵衛カ上告ヲ爲シタル要領タルヤ本件ノ證書ハ固ヨリ遺殘無効ニ屬セシモノニシテ其手續書及ヒ證據書ノ寫且ツ被告ノ答辯等ハ篤ト審理ヲ遂ケナカラ其緊要ナル効ノ有無ニ於ケル更ニ之レカ理由ヲ明示セズ通常契約證ト看做サレ處斷セラレタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事代理警部補心得巡查西地重眞ハ原裁判允當ニシテ被告ノ上告ハ其理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ趣旨タル之ヲ要スルニ承審官ノ職權内ニ侵入シ其認定シタル事實ヲ動かサントスルモノニ過キサルヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス何トナレハ事實ノ認定ハ法律上裁判官ニ任從スル所ナレハナリ依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

○第四千二十九號

判文〔證券印稅規則犯〕明治十七年二月廿八日上告
同 年十一月十八日發付

新潟縣越後國三島郡寺泊町坂井

丁平民穀物商

柳 下 健藏

明治十七年二月
二十七年六月

右健藏カ被告事件ニ付明治十七年二月八日新潟輕罪裁判所ニ於テ被告ハ金高貳百圓ノ預リ證書ニ證券印紙ヲ貼用セス之ヲ青木正ニ差入レタルモノトシ證券印稅規則第四則第二條第二則第一條及ヒ明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ脫稅高貳拾倍ノ罰金四圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告健藏ハ上告ヲナシタリ其要領ハ本案證書ハ被告ニ於テ青木正ヘ交付セシモノニ無之右ハ正ニ於テ偽造セシモノナリ而シテ該證書ノ全文及健藏氏名ノ如キ共ニ自筆ニ非ラス又名下ニ押捺シアル印影ハ自印ニ類似スルモ右證書ニ押捺セシ覺エナシト云フニ外ナラス

對手人檢事補小原朝忠ハ原裁判適當ニシテ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ニ則リ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ主旨タル原判官カ職權ヲ以テ判定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ上
告ノ理由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ該上告ヲ棄却スル者也
○第四千三十號

判文(證券印稅規則犯)明治十六年九月廿四日上告
十七年十一月十八日發付

長野縣信濃國東筑摩郡和田村平
民

藤澤馬十
年齡未詳

古畑淺吉
年齡未詳

同縣同國同郡同村平民農

赤羽吉藏
年齡未詳

右馬十外二名カ被告事件ニ付明治十六年九月三日長野縣罪裁判所松本支廳ニ於テ審理ノ末
被告馬十淺吉ハ松田吉三郎ヨリ赤羽吉藏ヘ宛タル地所賣渡シ代金三百貳拾圓ノ證書ニ證券
印紙ヲ貼用セサルモノニ證人ニ相立又吉藏ヘ宛タル金百八拾圓ノ預リ證書ニ證券印紙ヲ貼

用セサル者ト認メ刑法第五條明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則第九條同第三條
同第二則第一條第二類明治十四年第七十二號布告第三條同第五條ニ依リ第一ノ所爲ニ對シ
テハ罰金四圓九拾錢第二ノ所爲ニ對シテハ脫稅高拾八錢ノ印稅貳拾倍ノ罰金參圓六拾錢ニ
處シ被告吉藏ハ刑法第五條明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則第三條同第二則第
一條第二類明治十四年第七十二號布告第三條同第五條ニ依リ第一ノ所爲ニ對シテハ脫稅高
三拾貳錢ノ印稅拾倍ノ罰金三圓貳拾錢第二ノ所爲ニ對シテハ其脫稅高拾八錢ノ印稅拾倍ノ
科料金壹圓八拾錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告馬十外二名ハ上告ヲ爲シタリ馬十淺
吉カ上告ノ要領ハ第一被告淺吉ハ松田吉三郎ヨリ赤羽吉藏ニ宛テタル證書ノ請人タルコモ
拘ハラス證人トシテ裁判セラレタルノミナラス證人トセラル、理由ヲ明示セサルハ不當ナ
リトノ事第二其證書ハ地所賣買約定書ナルコ之ヲ賣買證トシ其理由ヲ明示セス過當ノ罰金
ニ處セラレシハ不當ナリトノ事第三ハ金百八拾圓預リ金證書ハ其實地代ノ受取金ナル旨證
書受取人及ヒ被告等ノ申供スルニモ拘ハラス預リ證トシ其理由ヲ明示セス裁判セラレタル
ハ不當ナリトノ事吉藏カ上告ノ要旨ハ第一松田吉三郎ヨリ受領セシ地所賣渡シトアル證書
ハ賣買約定書ニ過キサルモノナルニ原裁判官ハ効力ノ如何ヲ問ハス又規則ニ背キタル證書
ナリヤ否ヤヲ顧ミス又事實ヲ明示セス證券印稅規則第二則第二類ニ背キシモノト認メ處
罰セラレシハ不法ナリトノ事第二ハ松田吉三郎代理藤澤馬十古畑淺吉ノ兩名ヨリ領收シタ
ル預リ金證書ハ地代金ヲ交附セシ受取證ニシテ預ケ金ノ證書ニ非ラサルナリ然ルコ之レヲ
預ケ金證書トセラレ其理由ヲ明示セス處罰セラレシハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ

在リ

對手人原檢事補江水温直ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理無キ旨ヲ答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
 被告淺吉カ第一ノ論點ニ付明治十六年二月二十三日付松田吉三郎ヨリ赤羽吉藏ヘ宛テタル
 地所賣渡證ヲ閱スルニ證人藤澤馬十同斷古畑淺吉トアリテ淺吉カ證人タルコト判然タレハ之
 ナ證人トシテ罰シタルハ不當ニ非ラサルナリ其他被告等カ上告ノ理由トスル所ハ要スルコ
 裁判官ノ特有スル職權内ニ侵入シ事實及ヒ探證ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ治罪法第四
 百十條ノ項目外ニ涉ルナリ以テ上告ノ理由ト爲スチ得ス又原判文ヲ查スルニ事實及ヒ法律ノ
 理由ハ明示シアリテ毫モ瑕瑾ノ廉アルナ親ス因テ上告趣旨ハ總テ相立タサル者トス
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也

○第四千三十一號

判文〔賣藥規則犯〕明治十六年九月廿四日上告
 同 十七年十一月十八日發付

長野縣信濃國東筑摩郡東川手村
 平民賣藥營業人

等々力三十郎

明治十六年九月
 三十二年一月生

右三十郎カ被告事件ニ付明治十六年九月七日長野縣裁判所松本支廳ニ於テ賣藥規則違犯
 ノ罪アリト認メ明治十年第七號公布賣藥規則第二章第二十一條第二十三條及明治十四年第

二十六號公布刪除追加條第二十三條ニ依照シ其無鑑札ニテ賣藥シタル藥劑十八方ニ付罰金
 百八拾圓ニ處シ又無鑑札ニテ製藥シタル藥劑三方ニ付七拾五圓ノ罰金ニ處シ猶賣得金四拾
 五錢五厘五毛ハ沒入スト裁判言渡シタル被告三十郎ハ之ニ服從セス上告ヲ爲シタル其要領
 ハ長野縣賣藥檢査員ヘ提供シタル始末書ハ檢査員ノ強迫シタルカ故ニ被告任意ノ白狀ナリ
 ト證明スルニ足ラサルモノトス而シテ藥劑十八方ノ内奇驗保生丸外七方ハ製藥主ヨリ取置
 キタレモ無鑑札ナルヲ以テ他人ヘ賣渡シタルモノニアラス其證憑ハ大福帳ニ代價ノ記載ア
 ラサリシヲ以テ知ルヘキナリ又藥劑ノ不足ナルハ自己ノ自用ニ供セシト同業者ヘ品貸シタ
 ルトニ依リテ其不足ヲ生セシモノニテ決シテ賣渡シタルモノニアラス然ラハ則賣藥規則ニ
 背反シタルト云フチ得サルモノトス又荆防敗毒散外二方ハ醫師波塲泰輔ノ處方書ニ依リテ
 調劑シタルモノナレハ毫モ規則ニ背反セシモノニアラサル而已ナラス別冊第二號ノ如ク長
 野縣廳ハ明治十四年八月十九日乙第百十九號ヲ以テ醫師ノ處方書ヲ以テ調劑スルヲ許容ア
 レハナリ右ノ理由ナルニモ拘ハラス原裁判所ハ藥劑十八方ニ付テ罰金百八拾圓ノ言渡シテ
 爲タルハ不當ノ裁判ニシテ十方ノミノ罰金ヲ科スルニ止マルモノトス又無鑑札ニテ荆防敗
 毒散外二方ヲ藥劑シタルモノト妄信シ罰金七拾五圓ヲ科シ及賣得金ヲ沒入シタルハ實ニ不
 當ノ甚タシキモノト云ハサルヲ得ス何トナレハ該條ハ無鑑札ニテ藥劑ヲ調製セシ者ヲ罰ス
 ル規則ニシテ醫師ノ處方書ニ依リテ製藥者ヲ罰スルト云フモノニアラサレハナリ況ヤ長
 野縣廳ノ許容スル所ナレハナリ然ラハ則罰金ヲ科シ賣得金ヲ沒入スト言渡シタルハ擬律ノ
 錯誤ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ要求シ尙追申書ヲ差出シ前趣意ヲ擴張セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ理由トスル所ハ被告人カ曩ニ長野縣廳檢査員ニ差出シタル始末書ハ其強迫ニヨリ成
 立セシモノニテ自由任意ノ白狀ニ非ラス然ルヲ原裁判所ハ該始末書ニ依據シ眞ニ事實ノ存
 スル所ヲ探究セラレス且長野縣廳ノ許容スル所ニモ拘ラス賣藥規則ニ照ラシ罰金ヲ科シ賣
 得金ヲ没入スト判定サレシハ擬律ノ錯誤ナリト云フト雖モ訴訟書類ヲ查閱スルニ該始末書
 ハ曾テ強迫ニ成立セシモノト認ム可キ廉更ニ無之原裁判所ハ正當ノ公式ヲ踐ミ被告人カ公
 廷ノ陳述及各證據等ニ據リ賣藥規則違犯ノ罪アリト認メ之ニ對スル相當ノ刑ヲ言渡シタル
 モノニシテ毫モ擬律ノ錯誤アルニ非ラサルナリ被告人カ所謂擬律ノ錯誤ト云フハ啻ニ自己
 ノ思想上ニ出タル所見ニシテ法律上何等ノ影響ヲ及サ、ルモノトス抑上告ヲ爲シ得ヘキ場
 合ハ治罪法第四百十條第一乃至第十一ニ明掲アリ即チ本件上告ノ如キハ治罪法ニ定メタル
 上告ヲ爲スノ成規外ニ渉ルヲ以テ破毀ノ効ナキモノト判定シ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ
 之ヲ棄却スルモノ也

○第四千三十二號

判文〔酒造稅則犯〕明治十六年十月廿三日上告
 同 十七年十一月十八日發付

山口縣長門國阿武郡明木村居住
 平民酒造營業

原 要 治
 明治十六年九月
 四十一年四月

右原要治カ被告事件ニ付明治十六年九月二十五日裁治安裁判所ニ開キタル山口輕罪裁判所
 ニ於テ審理ノ末被告人ハ明治十六年八月二十五日檢査未濟ノ新製桶ニ火入酒ヲ容レ使用シ
 タルモノト認メ酒造稅則第二章第二十條及ヒ明治十五年第六十一號公布酒造稅則改正追加
 第三十四條ニ照シ科料金壹圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢察官山口
 縣警部補南方政輔ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告人カ所爲ハ明治十六年第二十六號布告酒
 造稅則改正第二十條第一項及ヒ第三十五條第二項ニ照シ處分スヘキヲ原裁判所ニ出テス既
 ニ削除セラレタル法律ヲ適用處斷シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ上告ニ及フト云フニアリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ本案被告事件ハ
 所犯明治十六年第二十六號布告施行以後ニ在ルヲ以テ酒造稅則改正第二十條同第三十五條
 第二項ニ依照シ處斷ス可キハ論ヲ俟タス然ルニ原裁判所カ現行ノ法律ヲ適用セズ改正前ノ
 規則ヲ以テ處斷シタルハ上告趣旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ所謂擬律錯誤ノ裁判ナ
 リトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡シテ破毀シ本院ニ於テ直チニ
 裁判言渡シテ爲ス左ノ如シ

原 要 治

原裁判所カ認定シタル事實ニ據リ酒造稅則違犯ノ所爲明瞭ナリトス之ヲ法律ニ照スニ明
 治十六年第二十六號布告酒造稅則改正第二十條第一項ニ酒造用諸器械ハ使用以前管廳ニ
 申出檢査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ニ届出ツ可シ同第三十五條第二項ニ第二十

條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ストアルニ依リ貳圓ノ罰金ニ處シ其桶ヲ沒收スル者也

○第四千三十三號

判文(私書偽造)明治十七年二月四日上告
同 年十一月十九日發付

茨城縣常陸國鹿島郡城ノ内村平
民

藤 枝 儀 三 郎

右儀三郎カ證書偽造被告事件ニ對スル民事原告人早乙女耕造外三名ノ故障ニ付明治十六年十二月十四日水戸輕罪裁判所會議局ニオイテ治罪法第二百四十六條第二項ニ依リ故障ノ申立ヲ爲スノ限ニ非ラストシ該申立ヲ棄却シタリ民事原告人早乙女耕造矢板定右衛門萩原源介小橋新五郎ハ右言渡シテ不當トシ上告シテ破毀ヲ乞フノ要旨ハ抑被告儀三郎カ所持スル貸金證書ハ根原明治十二年四月中地所名稱引直シ願ニ際シ茨城縣廳ヘノ願書正副二通外ニ戸長役場扣ニ爲ス可キ分ハ白紙ヘ「茨城縣令人見寧殿」ト名宛而已チ記入シ其文ハ追テ記入ス可キ積リニテ當時村民總代タル藤枝六左衛門即チ被告儀三郎ノ長男ヘ渡シ置タリ是レ本訴偽造證書ノ根基ト成リタルモノナリ依テ民事原告人ハ之レヲ水戸輕罪裁判所ヘ告訴シ併セテ之レヨリ生スル費用ノ私訴ヲ提起シタリ然ルニ豫審判事ハ偽造ノ痕跡著明ナルニモ拘ラス事實ノ審糾ヲ度外ニ措キ偽造シタリト認ム可キ證據ナシト論過シ被告ヘ免訴言渡サレタルニヨリ民事原告人ハ更ニ會議局ニ向ツテ故障ノ申立ヲ爲シタリキ其要點ハ本訴證書

ハ親子通謀ノ成立ニ付被告ノ長男藤枝六左衛門ノ喚問ヲ乞フタルニ豫審判事ハ之レヲ容サズ其他數個ノ證明ヲ付シタルニ會議局ハ恰モ大審院宣告ノ如ク故障ノ趣意如何ヲ顧ミテ豫審判事ノ認定ニ一任セラレタルハ越權ノ處分ナリト云々スルニアリ

對手人被告藤枝儀三郎ハ答辯書ヲ差出サズ

大審院ニオイテ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シタルニ民事原告代官人長谷川深造ハ上告趣旨ヲ擴張シ且云フ抑公訴ト私訴ハ密着シテ離ル可ラサル者ナルカ故原告人カ公訴ニ對スル故障ハ即チ私訴ノ權利ニ關スルモノナリ故ニ治罪法第二百四十六條第二項私訴ニ付越權ノ處分云々トアルハ公訴ヲモ含蓄セルヤ論ヲ俟タス何トナレハ公訴ノ免否ハ即チ民事原告人ノ利害ニ大關係ヲ持ツモノナレハナリト論告シタリ依テ立會檢事安藤源五郎ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ抑モ民事原告人ノ故障ヲ爲スヲ得ルハ治罪法第二百四十六條第二項法文ノ如ク私訴ニ付越權ノ處分アル時ニ限ルモノトス故ニ豫審ニアツテ其判事カ爲シタル終結言渡ニ越權ノ處分アリテ其爲メ私訴ニ害ヲ及ホシタル場合ニオイテハ該法文ニ據リ故障ヲ爲スヲ得之レヲ受ケタル會議局ニオイテハ同法第二百三十六條ノ規定ニ從ヒ判決ス可キモノナリトス本案原告人カ故障ノ趣旨タル被告儀三郎カ所持ノ證書ハ告訴狀ニ叙述スル如ク親子通謀ノ成立ナルヲ被告ノ長男藤枝六左衛門カ口供并ニ同人カ治安裁判所ヘ濟方延期ヲ呈出シタル等ニテ明瞭ナルニ豫審ニオイテ六左衛門ノ審問ヲ遂ケス單ニ儀三郎カ片言ヲ採テ免訴ヲ與ヘタルハ不當ナリト云ヒ其他縷々ノ故障點ハ概ネ公訴ニ對スルモノ、如シト雖モ原來本件私訴ハ公訴ト密着シタルモノナルカ故會議局ニ在テハ其趣意書及ヒ

一切ノ書類ニ依リ事實ヲ審究シ相當ノ判決ヲ與フ可キカ當然ナリ然ルニ原會議局ハ故障ノ
主意ニ對シ何等ノ取調ヲ爲サス一概ニ治罪法第二百四十六條第二項ニ依リ故障ヲ爲スノ限
リニ非ラスト論過シタルハ所謂越權ノ處分ナリトス但本案ハ此點ニ付原言渡シノ全部ヲ破
毀スルヲ以テ上告論旨及ヒ代言人ノ辯論ニ對シ逐一辯明ヲ要セス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判ヲ受ケシ
メシカ爲メ枋木輕罪裁判所會議局へ移スモノナリ

○第四千二十四號

判文(私書偽造) 明治十六年八月七日上告
同 十七年十一月十九日發付

東京府本所區松井町三丁目拾番
地平民

多田カ
明治十六年一月
四十七年八月

右「タカ」カ私印盜用私書偽造詐欺取財未遂ノ被告事件ニ付明治十六年七月三日東京輕罪裁
判所ニ於テ審理ノ末刑法第三百條第三項ニ從ヒ一ノ同第二百十條同第二百十二條ニ依リ一年
六月ノ重禁錮ニ處シ拾五圓ノ罰金七月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告
「タカ」ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ曾テ被害者瀧本「ムメ」亡夫長吉ニ金貳百八拾圓ノ預ケ金
之アリシコト同人實姪瀧本「サタ」ナル者小谷健司ト俱々自宅ニ來リ右金員ノ内三拾圓ヲ勘辨
シ貳百五拾圓ノ新規證書ニ更改致シ吳レ度旨強テ頼談アリ且實姪ヨリノ義ナレハ相違ノ事

モ之レアル間敷キト信シ其意ニ應シ新規證文ト交換シテ古證書ハ目前ニ於テ毀棄シ而シ
テ後日新規證書ヲ以テ出訴ノ上長吉相續人瀧本「ムメ」カ身代限リトナリタルモノニシテ自
分カ偽造シタルニアラサルヤ明カナリ然ルニ小谷健司千津和由藏等ト共謀シ長吉ノ印影ヲ
盜用シ證書ヲ偽造シタルモノ、如ク認メラレタレハ該新規證書タルヤ「サタ」ニ於テ調製ノ
上持參セシモノニシテ自分ハ毫モ關リ知ラサルモノナルニ原裁判官ハ充分ノ審理ヲモ遂ケ
ス前掲ノ如ク處斷セラレタルハ事實ニ違フノミナラス事實ノ理由ヲモ付セサル頗ル不法ノ
裁判ナリト云ヒ猶又代言人好見祐次ハ上告趣意擴張書ヲ提出シ陳述スル所ハ權利義務ニ關
スル證書ヲ偽造變換シテ行使スル如キハ財物ヲ騙取セントスルノ手段即チ手續ニ過キサレ
ハ其財物騙取ノ情狀ノ重キヲ多辯ヲ要セスシテ明白ナリ然ラハ則チ刑法第三百條第二項ノ明
文ノ如ク情狀ノ重キ同第三百九十條ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ原裁判ノ茲ニ出テサルハ
其意ノアル所ヲ知ラストノ事又原裁判言渡書ニ刑法第三百條第三項ニ依リ處斷ストアレハ情
狀ノ重キ同第三百九十條同第三百九十七條同第一百十二條ヲ適用セラルヘキモノナルニ同第
二百十條ニ依リ處斷セラレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト擴張セリ
對手人檢察官菊池武夫ハ上告理ナキヲ以テ棄却セラレシコトヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事薄井龍之ノ報告ニ依リ上告代言人好見祐次ハ上告趣意ヲ擴張シテ云
フ明治十六年七月三日公判開廷ノ際被告ハ耳遠ナルヲ以テ辯護人ヲ撰任シ辯論セシコトヲ請
求セシニ之ヲ採用セスシテ處斷セラレタルハ違法ノ裁判ナリト開陳セリ因テ立會檢事堀田
正忠ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ノ有無ヲ判定スルハ裁判官ノ特有スル職權ニ屬スルモノナルハ治罪法第四百十六條第二項ノ明文ニ依テ明瞭ナリトス今被告カ本件證書ハ正當ニ成立タルモノナルニ偽造セシモノト認メラレタルハ不當ナリト云フト雖モ要スルニ裁判官ノ職權内ニ侵入シテ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス又代言人カ情狀ノ重キ刑法第三百九十條ニ依リ罰スヘキモノナルニ刑法第二百十條ニ依リ罰セラレタルハ不當ナリト云フニアルモ刑法第百條第三項ニ規定スル如ク情狀ノ輕重ヲ審案判定スルハ是亦原裁判官ノ權内ニ付キ原裁判官ニ於テ證書偽造ノ所爲ヲ以テ情狀重シトナシ刑法第二百十條ニ依リ處斷シタルハ固ヨリ相當ノ擬律ニシテ毫モ錯誤ノ點アルヲ見ス又辯護人撰任ヲ採用セストノ趣意ニ依リ今原一件書類ニ就キ公判始末書ヲ閱スルニ「タカ」答自分ハ少々耳遠ニテ御訊問ヲ聞キ取リ難キ間本案事實ノ陳述ハ辯護人ヲ以テ願度旨ヲ述フ「裁判官曰最早公判開廷ニ及ヒテハ辯護願ハ採用セス開廷以前ナレハ格別ナレハナリ」トアリテ若シ被告ニ於テ辯護人ヲ要セハ宜ク開廷前ニアリテ之ヲ指名請求スヘキモノナルニ其手續ヲ盡サス辯論中途ニアリテ指名モセス請求スルノミナラス良シ之ヲ必要ナリトセハ其棄却ノ言渡ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スヘキ筈ナルニ其申立ヲモ爲サスシテ今更喋々スルモ之ヲ以テ破毀ノ理由トナスニ足ラサルモノトス因テ上告趣意總テ其効ナシ

○第四千三十五號
 明治十六年九月七日上告
 判文(賭博)同 十七年十一月十九日發付

三重縣伊賀國阿拜郡東村平民農

繁地源四郎

明治十六年八月

四十九年七月

同縣同郡波野田村平民飲食

店營業

法花庄次

明治十六年八月

六十五年五月

明治十六年八月八日上野治安裁判所ニ開キタル安濃津輕罪裁判所ニ於テ右被告源四郎庄次ヲ刑法第二百六十一條ニ依リ各重禁錮三月罰金拾圓ヲ附加シ現場ニ在ル骰子三箇外三點ハ刑法第二百六十一條末項ニ照シ沒收シ稗天貳枚外六點ハ所有主不知ニ付遺失物取扱規則ニ照シ沒收スト裁判宣告ヲ爲シタリ檢察官檢事代理警部堀部萬興ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ノ要領ハ稗天貳枚外六點ハ被告カ共犯ナル矢柄熊吉外五名ノ者共カ現場逃走スルニ際シ其場へ捨置キタルモノナレハ證據ノ爲メ上野警察署へ領置シ該物件ニ對シテハ素ヨリ裁判ヲ請求セサルナリ請求セサル物件ニ對シ判決シタルハ治罪法第四百十條第七項ニ該當スル不法ノ裁判ナリ又遺失物ト見做モ此處分ヲ爲スハ行政權内ノ事件ナルニ行政權ヲ犯シタル越權ノ處分ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ
 刑法第四十三條左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但云々一法律ニ於テ禁制シタル

物件二犯罪ノ用ニ供シタル物件三犯罪ニ因テ得タル物件トアリテ本案ノ如キハ則チ此三個ノ物件ノ外刑事ニ於テ宣告シテ官ニ沒收シ得ヘカラサルヤ論ヲ竣タス然ルニ原裁判所ハ被告カ共犯數名現場逃走ノ際捨置キタル袷天外數品ヲ遺失物取扱規則ニ照シ沒收シタルハ原檢察官上告論旨ノ如ク不當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス
因テ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判所カ被告ニ對シ袷天貳枚外六點ハ所有主不知ニ付遺失物取扱規則ニ照シ沒收スト言渡シタル一部ヲ破毀シ取消スモノ也

○第四千三十六號

判文〔毆傷〕明治十六年八月十六日上告
同十七年十一月十九日發付

福岡縣筑前國福岡區博多柳町平

民

青柳宗次郎

明治十六年七月
三十八歲九月生

同縣同國那珂郡馬出村士族

伊藤七三郎

明治十六年七月
四十二歲十月生

同縣同國同郡雜餉隈村平民

阿部萬吉

明治十六年七月
二十八歲三月生

明治十六年七月十日福岡輕罪裁判所ニ於テ右青柳宗次郎伊藤七三郎阿部萬吉カ毆打創傷被告事件ヲ審判シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル能ハサル者ト認定シ刑法第三百一條第三項同第三百五條ニ照依シ仍ホ酌量シテ一等ヲ減シ拘留五日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補大崎利八郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領第一毆打創傷ノ事實ヲ掲ク疾病休業ノ有無ヲ明示セサルハ事實ノ理由ヲ付セサルナリ第二刑法第三百一條第三項ヲ本刑トセシテ見レハ疾病休業ニ至ラサルモノト認メシ如シ果シテ然ラハ最輕傷ニシテ法律上重輕ノ差ナキモノナルニ尙ホ輕重アリトシ第三百五條ニ照シ減等シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ
原裁判言渡書ニ被告八等ハ共ニ松崎道安ヲ毆打創傷シ其傷ヲ成スノ輕重ヲ知ル能ハサル事實ハ云々トノミ掲載シ其創傷ノ模様如何ヲ明示セサルモ刑法第三百一條第三項ヲ適用セシニ依レハ疾病休業ニ至ラサル最輕傷ニ止マルモノ、如シ然ルニ仍ホ同第三百五條ヲ適用セシテ見レハ他ニ重傷アリタルモノ、如シ之ヲ要スルニ事實ノ理由ヲ明示セス及ヒ法律ノ理由ニ齟齬アルモノニシテ即チ治罪法第三百四條ノ明文ニ違背セシ不法ノ裁判ナリトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ佐賀輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

○第四千三十七號

判文〔毆傷〕明治十六年七月廿三日上告
同十七年十一月十九日發付

滋賀縣近江國愛知郡北古屋村平

民

藤田善平

明治十六年六月
四十二年七月生

明治十六年六月二十日大津輕罪裁判所彦根支廳會議局ニ於テ右善平カ豫審終結ノ故障ニ對シ被告カ故障ノ趣意ハ豫審判事補ニ於テ法律ノ適用並ニ事實ヲ誤認セリト云フニ外ナラサルヲ以テ治罪法第二百四十六條第三項ニ定メタル故障シ得ルノ場合ニ適當セサルモノナレハ其故障ハ成立サルモノトシ棄却ノ言渡ヲ爲シタリ被告善平ハ右言渡ヲ不法ナリトシ上告シタル要領ハ會議局ニ故障ヲ爲セシ趣意タルヤ別紙第二號趣意書ニ詳陳スル如ク確タル證據ニ憑ナキニ己レカ妄想ヲ以テ事實ヲ推測シ由テ罰スヘキ法律ノ適條ヲ誤リ毆打ノ所爲ニ對シ曾テ犯セシ事モナキ出入ヲ禁シタル場所ニ立入タルモノヲ罰スルノ法條ヲ擬セラレ其違警罪ナルヲ判然タル所爲ヲ認メテ輕罪トナシ刑法第百條ニ依據サレタルハ豫審判事カ越權ノ處分ニシテ治罪法第二百四十六條第三項ニ定メタル故障シ得ルモノナリ然ルチ會議局ハ其越權ナルヤ否ヲ取調ヘス唯故障シ得ル場合ニ適當セサルモノトシ棄却ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリト云フニ在リ

檢察官檢事補吉川雅都ハ會議局カ故障ノ成立ヲサルモノトシ棄却シタルハ越權ノ處分ニシテ上告ノ原由アルモノト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

抑會議局ハ豫審ノ覆審ヲ爲ス所ナレハ其故障ヲ爲シ得ヘキ期限内之レカ故障ヲ爲シタル時

ハ即チ故障ハ當然成立タルモノナレハ其求メタル故障ノ事項ニ對シ逐一之レヲ審究シ以テ相當ノ判決ヲ爲サルヘカラサルハ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原會議局ハ速了ニモ故障ノ趣意ハ豫審判事補ニ於テ法律ノ適條并ニ事實ヲ誤認セリト云フニ外ナラサルヲ以テ治罪法第二百四十六條第三項ニ定メタル故障シ得ルノ場合ニ適當セサルモノナレハ故障ハ成立タルモノト爲シ之レヲ棄却シタルハ被告カ上告論旨ノ如ク越權ノ處分ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原會議局ノ言渡ヲ破毀シ適法ノ判決ヲ受ケシメン爲メ京都輕罪裁判所會議局ヘ移ス者ナリ

○第四千三十八號

判文〔毆傷〕明治十六年七月三十日上告
同 十七年十一月十九日發付

千葉縣上總國山邊郡神房村平民
農業

飯田勝五郎

明治十六年六月
三十二年

右同人父農業

飯田七左衛門

明治十六年六月
六十六年

同村平民農業

飯田良助

明治十六年六月三十九年

同村平民農業

飯田德三郎

明治十六年六月二十四年

同縣同國同郡小中村平民農業

齋藤三五郎

明治十六年六月二十八年

同縣同國長柄郡下太田村平民農業

水鳥川七之助

明治十六年六月十九年

右勝五郎外五名カ毆打創傷被告事件豫審終結言渡シニ對シ檢察官及民事原告人カ爲シタル故障申立ニ付明治十六年六月二十九日千葉輕罪裁判所八日市場支廳會議局ニ於テ審理ノ末治罪法第二百五十二條ニ從ヒ被告カ倉持又三郎ヲ毆傷セシ犯罪ノ證據充分ナラサルニ付治罪法第二百二十四條ニ照シ免訴スト言渡シタル判決ヲ不當ナリトシ民事原告人倉持又三郎ハ上告ヲ爲シテ其要領ハ第一曩ニ會議局ハ證人高山「カネ」等ノ證言ヲ新ナル證據ト判決シテ再審ヲ許シナカラ之ヲ證據トスルヲ得スト判決シ又ハ其判決ヲ爲スニ當リ高山「カネ」

等ノ證言ヲ排斥スルニ信用シ難キ云々トハ如何ナル場合ナルヤ毫モ其理由ヲ付セサルハ治罪法第四百十條第九項ニ適合スルトノ事第二高山「カネ」山田勝藏飯田豐吉等ノ證言ヲ豫審判事カ採用シタルヲ不當ナリトシ判決ヲ請求シタル者之レナキニ原會議局ハ職權ヲ以テ判決シ得ヘキ場合ニモアラサルニ強テ之カ判決ヲ爲シタルハ同法第四百十條第七項ニ該ルトノ事第三本件全體ノ證據物ニ依ル時ハ被告人等ノ有罪タルヘキハ炳然火ヲ觀ルカ如クナルニ之ヲ免訴シタル豫審終結言渡ハ越權ノ處分ナリ然レトモ高山「カネ」外二名ノ證言ヲ採用シタルト又民事原告人倉持又三郎カ身體ノ創傷ハ被告人等ノ所爲ナリト認メタルハ豫審判事カ當然ノ職權ナリ故ニ之カ認定ヲ取消シ得ヘキモノニアラサルニ原會議局ハ漫ニ正當ナル處置ノ部分ヲ取消シタルト此ノ如キ有罪者タルヲ明カナル所ノ被告人等ヲ免訴シタルハ治罪法第四百十條第十一項ニ該ルト云フニ在リ
對手人被告勝五郎外五名ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ逐一辯駁シ原判決允當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ
治罪法第二百四十六條第二項ニ民事原告人ハ私訴ニ付キ越權ノ處分アルニ因リ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲ストヲ得トアリ又同法第四百十二條ニ民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル理由ニ付キ上告ヲ爲ストヲ得トアル如ク民事原告人カ上訴ヲ爲シ得ヘキ場合ハ私訴ニ付テ不當ノ處分アルニ對スルノ外之ヲ許サ、ルヤ明瞭ナレハ公訴ニ對シタル言渡ニ付テ之ヲ非難スルモ上告ノ理由トナラサルモノトス然ルニ今民事原告人カ上告ノ理由トスル所ノ三個ハ何レモ原裁判官

カ被告人等ノ公訴即チ犯罪斷定上ニ付テ爲シタル所ノ證據ノ取捨又ハ之カ理由或ハ犯罪ノ證據充分ナラサルコト付免訴スルトノ判決ニ對シ不當ヲ訴フルニ止レハ上告ノ原由トナラサルモノナルヤ明カナリ因テ上告趣旨相立タサルモノトス

以上ノ理由ナルヲ以テ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ノ明文ニ法リ之レヲ棄却ス

○第四千二十九號

判文〔誣告〕明治十六年八月廿八日上告
同 十七年十一月十九日發付

大坂府河内國澁川郡正覺寺村平

民

彦野 駒吉

明治十六年七月

二十四年

同府同國同郡同村平民

柳 寅吉

明治十六年七月

三十二年

同府同國同郡同村平民

高野 正吉

明治十六年七月

二十八年

同府同國同郡同村平民

八野 房吉

明治十六年七月

二十三年

同府同國同郡同村平民

田中 虎吉

明治十六年七月

二十三年

右駒吉外四名カ被告事件ノ豫審ニ付民事原告人久保田政吉山口卯之松カ故障ニ依リ明治十六年七月二十七日大阪輕罪裁判所會議局ニ於テ被告駒吉外四名カ民事原告人ニ對シ誣告ヲ爲シタル證據充分ナラサルモノトシ無罪言渡シタル裁判ニ對シ民事原告政吉及ヒ卯之松カ上告爲シタル要領ハ明治十五年八月十八日夜盆躍リアリテ村民集合ノ際被告等ニ於テ田中虎吉ヲ毆打シタルモノト誤認セラレ刑法第三百一條第三項ニ依リ重禁錮十一日ニ處セラレタリ是乃チ駒吉外四名カ誣告ニ原因スル證據明瞭タルニ會議局カ證據充分ナラスト判定セラレタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人駒吉外四名ハ右上告ニ對シ答辯ヲ爲サス

茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告趣旨ノ歸スル所ハ原裁判ノ事實判定ニ對シテ其當否ヲ非難スルニ過キス抑モ諸般ノ證據ヲ取捨シテ事實ノ判定ヲ下スハ裁判官ノ職權ナルヲ治罪法第四百十六條第二項ノ文詞ニ依テ明白ナリ故ニ原裁判官カ其認メタル事實ニ於テハ輒々之ヲ動カシ得ヘカラサルモノトス因テ本件ハ治罪法第四百十條外ニ渉ル上告ノ原由ナキモノナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千四十號

判文(誣告) 明治十六年八月十一日上告
同 十七年十一月十九日發付

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡山下町

平民小間物商

山口 庄助

明治十六年七月
四十一年

右庄助カ被告事件ニ付明治十六年七月七日鹿兒島輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未誣告及ヒ詐欺取財ノ事實アリト認メ刑法第三百五十五條同第二百二十條同第三百九十條同第三百九十四條同第一百十二條ニ依リ二罪俱發スルモノトシ同第一百條ニ照シ重キ一ノ同第三百五十五條同第二百二十條ニ從ヒ重禁錮六月ニ處シ罰金四圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服從セス上告セリ其要領ハ先ニ踊駒十郎ニ係リ詐欺取財ノ告訴ヲ鹿兒島旭通警察署ニ爲シタルモ證據上悉サ、ル所アリシヲ以テ願下ケテ爲シタルモノナレハ終ニ告訴ノ成立ヲ爲サス司法警察官ニ於テモ未ダ捜査ニサヘ取掛ラレサル者ナレハ未ダ告訴構造ハナサ、ル者ナリ然ルチ駒十郎ハ道理ノ如何モ知ル能ハサルヲ以テ之レヲ喋々誣告ニ出ルモノナリト告訴シタルモ素ヨリ先ニ告訴ノ成立ヲサル者ナルヲ以テ檢察官ハ之ヲ棄却スルコソ法理ニ適スルモノナルニ駒十郎ト思想ヲ共ニシ之ヲ誣告ト見テ告訴ヲ爲シタルハ治罪法第九條第二ノ法文ニアル被害者ノ棄權ト云フノ見解ヲ誤リタルモノニテ云々被害者ノ棄權ハ法律上告訴ノ消滅スルモノナリ是消滅シタル公訴ヲ受理シテ裁判ヲ爲シタルハ治罪法第四百十條第五ニ云フ所ノ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ刑ヲ言渡サレタルハ刑法ヲ濫用シタル不當ノ裁判ナリト云ヒ退テ代

言人池田有恒ヲ以テ辯明書ヲ差出シタル要略ハ第一誣告罪ハ被告人カ推問ヲ始メラレサル以前自首スル者ハ刑法第三百五十六條ニ依リ其罪ヲ全免セラルヘキモノナリ今被告庄助ハ明治十六年五月二十三日ヲ以テ告訴シ同六月九日ヲ以テ告訴願下ケテ爲シタルハ自己不取調ヲ悟リタルモノニテ即チ自首シタルモノナルニ原裁判玆ニ出テサルハ不當ナリト事第二久木田伊兵衛ヘ預ケ金取立方ヲ駒十郎ニ委託シタルニ駒十郎中間ニテ費用セリト誣告シタルモノト認メ刑法第三百九十條ヲ援用シ二罪ナリト斷了セラレタルハ擬律錯誤ナリト事第三誣告罪ナリト認メナカラ果シテ其輕罪違警罪又ハ重罪ヲ誣告シタルモノナルヤ亦唯第二百二十條トノミニシテ其第何項タルヤ示サ、ルハ事實及ヒ法律ニ依リ理由ヲ明示セラレサル裁判ナリトノ第四公判廷ニ於テハ警察署ノ調書ヲ讀聞ケラレタルノ外何等ノ證據ヲモ示サレス且迭ヒニ辯論ヲ爲サシメス加ルニ最終ノ發言ヲ爲サシメサルハ重要ナル公判手續ニ背キタル越權ノ處分ナリトノ事以上ノ理由ナルヲ以テ破毀ヲ要請スト云フニア

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ代言人池田有恒カ上告及ヒ上告辯明書ノ陳述立會檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルコ

原裁判所カ認メタル事實理由ハ(被告人山口庄助ハ曾テ久木田伊兵衛ヘ預ケ金アルヲ以テ右金取立方ヲ踊駒十郎ヘ依頼シタル末同人カ悉皆受取リ來リ五拾三圓受取タル内ヨリ其々被告ニ於テ支拂フタルニ却テ未ダ返金ハ受取ラスト主張シ踊駒十郎カ中間ニ費用セシ者ト

爲シ鹿兒島警察署ニ告訴セシ者ト判定ス。トアリ又其法律ノ理由ハ刑法第三百五十五條第
 二百二十條第三百九十條第三百九十四條第百十二條第百條ニ照シ所犯一ノ重キ刑法第三百
 五十五條第百二十條ニ照シ云々トアリテ被告庄助ハ輕罪違警罪又ハ重罪ニ陥ラシムル
 爲メ誣告シタルモノナルヤ否ヤノ事實理由ヲ認メス加之刑法第二百二十條ニ照シトノミ
 リテ其第一第二第三ノ中何レニ擬シタルモノナルヤヲ見ルニ由シナク事實及ヒ法律ノ理由
 共ニ付セサルハ治罪法第三百四條ニ違背シタル不法ノ裁判ナリトス假ニ被告庄助ハ詐欺取
 財ノ罪ニ陥ラシメント誣告シタルモノナリトスルモ擬律錯誤ノ瑕瑾アリトス何故トナレハ
 刑法第三百九十條ノ罪ヲ誣告シタルモノナレハ輕罪ヲ誣告シタルモノニテ單ニ刑法第三百
 五十五條同第二百二十條ニ依リ擬斷スヘキモノナルニ刑法第三百九十條ト二罪ナリトシ同
 第百條ニ照シ斷了シタルニ因ル而シテ公判始末書ヲ見ルニ警察署ニテ爲シタル調書朗讀ノ
 外他ノ證據書類ヲ讀聞カセ又ハ迭ヒニ辯論ヲ爲サシメタル事ナク又被告人ニ最終ノ發言モ
 爲サシメサルハ治罪ノ順序ヲ履マサルモノナルモ其當時被告人ニ於テ之カ異議ヲ申立テサ
 レハ至要ナル上告點ニアラサルモ到底越權ノ處分タルヲ免カレサルナリ既ニ前辯明スル如
 シ破毀スヘキ裁判タルヲ認メタレハ他ノ上告趣旨ノ當否ヲ判定スルヲ要セス因テ治罪法第
 四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ宮崎輕罪裁判所ニ
 移スモノ也

○第四千四十一號

判文〔官林盜伐〕明治十六年八月十六日上告
 同十七年十一月十九日發付

新瀧縣越後國刈羽郡瀧谷村平民
 農

石垣 貞二

明治十六年七月
 五十九年十月

右貞二カ官林盜伐被告事件ニ付明治十六年七月二十日新瀧輕罪裁判所長岡支廳ニ於テ審理
 ノ末刑法第三百七十三條同第三百七十二條同第三百七十六條ニ依リ一月十日ノ重禁錮ニ處
 シ六月ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告貞二ハ上告ヲ爲シタリ其要領
 ハ玉泉寺地内へ長瀧校ヲ新築セシコト神林市太郎等ト協議決定セリ然ルニ其際同寺住職佐
 藤日也ニ於テモ該寺所有ノ杉木拾壹本ヲ寄付スルトノ事ニ付伐採シタルモノナリ然ルニ爾
 後該杉木ヲ伐採セシ地界ハ官有地ナル事ヲ知リタルニ付事發前自首シタルコト明カナルノミ
 ナラス該伐採セシ杉木ハ新瀧縣八等屬小笠原某ノ指揮ニ從ヒ官有地ノ標柱トナシタルモノ
 ナレハ決シテ惡意アリテ爲シタルモノニアラサルニ證人ノ僞言ヲ信シ處斷セラレタルハ治
 罪法第四百十條第九項第十項ニ該當スル破毀ノ原由アル裁判ナリト云フニ在リ
 對手人檢察官小原朝忠ハ原裁判相當ニシテ上告理由ナシト答辯セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
 上告ノ理由トスル所ハ前掲ノ如クニシテ其訴旨タル要スルニ原裁判官カ法律上特有スル所
 ノ職權ヲ以テ各種ノ證據ニ依リ認メタル事實ノ判定ト採證ノ當否トニ對シ漫ニ左右セント
 スルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得サルモノトス又被告ハ事實發覺前ニ在テ

自首シタルカ如ク喋々スレ原裁判言渡書ヲ閱スルニ總テ其事實ハ認メアルヲナキノミナ
ラス今一件書類ニ就キ審案スルモ自首シタリト見ルヘキ證據ナケレハ是亦謂レナキ趣旨ナ
リトス其他原裁判ハ治罪法第四百十條第九項第十項ニ該當スル破毀ノ原由アルモノナリト
云フニ在ルモ今原裁判言渡書ヲ閱スルニ毫モ該兩項ニ該ルヘキ不當ノ點アルヲ見サレハ旁
上告訴旨總テ其効ナキモノトス以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上
告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千四十二號

判文〔竊盜〕明治十六年八月六日上告
同 十七年十一月十九日發付

和歌山縣紀伊國西牟婁郡上野浦
平民鍛冶職

村 上 善 吉

明治十六年六月
四十八年

右善吉カ被告事件ニ付明治十六年六月二十七日和歌山輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末持兇器竊
盜及毆打創傷ノ罪アリト認メ刑法第三百七十條同第三百七十五條同第三百七十六條同第六
十九條同第二百一條ヲ適用シ二罪俱發スルヲ以テ刑法第百條ニ從ヒ其重キ竊盜未遂罪ヲ以
テ論シ仍ホ刑法第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮一年ニ處シ監視一年
ニ付スト言渡サレタル裁判ニ服從セス被告村上善吉ハ上告ヲ爲シタリ其趣意書ノ要領ハ原
判文中(被告ハ賭博ニ家産ヲ失フタルヨリ盜心ヲ生シ)トアルモ是レ如何ナル證據ニ依リ其

心證ヲ資リスノ如キ斷定ヲ爲シタルモノナルヤ其證據ヲ舉示セサルヲ以テ之ヲ知ルニ由ナ
シト雖モ被告人カ曾テ賭博ヲ爲シ失敗ヲ執リタリトノ供狀アルニ依リスノ如ク臆想ノ斷定
ヲ下サレタルモノナルカ其盜心ヲ生シタルモノトハ何ニ依テ以テ之ヲ知ルヤ是所謂模樣ニ
因テ推測セラレタルモノニシテ治罪法第四百十六條ニ乖背シタルモノナレハ同第四百十條
第十一項ニ定メタル上告ノ原由アルモノナリ加旃證據ヲ舉示セラレサルハ是又治罪法第三
百四條ニ違背セシ不法ノ裁判ニシテ同第四百十條第九項ニ定メタル上告ノ原由アルモノナ
リ又判文ニ(兇器ヲ携帶シ森島嘉兵衛方石垣ヲ乘リ越ユ垣ヲ破リタル場合同家ノ雇人濱野
留吉川口奕之助ニ見認メラレ右兩名ヘ負傷セシメタルヲハ證據書類及ヒ證據物件ニ照シテ
犯情充分ナリトス)トアルモ被告人カ森島嘉兵衛ノ屋敷地内ニ入りタルハ怪火ノ爲メ精神
喪失シ知ラス識ラス同家ニ逃レタルモノナリ決シテ竊盜ヲ爲サント忍ヒ入りタルモノニ非
ラサルナリ然ルニ原裁判所カ竊盜ヲ爲サント忍ヒ入りタルモノト斷定シ其證據ト爲ス可キ
ノ事實ニ依リ理由ヲ明示セラレサルハ治罪法第三百四條ニ乖背シタルモノニシテ即チ治罪
法第四百十條第九項ニ定メタル上告ノ原由アルモノナリ以上開陳セシ如クナルヲ以テ原裁
判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ立會檢事澄川拙三ハ附帶上告ヲ爲シタ
リ曰ク被告村上善吉カ主罪ハ持兇器竊盜ナル者ノ如シト雖モ竊盜罪ノ本質即チ竊取セント
スル物件ヲ認メサル而已ナラス毫モ物件ニ觸手セサルヲ以テ被告カ目的ハ果シテ何レニ在
ルヤ之ヲ知ルヘカラサルモノトス故ニ是等ノ犯罪ハ其本條即チ刑法第七十二條夜間故ナ

ク人ノ住居シタル邸宅ニ入りタル者ヲ以テ斷了ス可キ者トス然ルニ之ヲ持兇器竊盜ヲ以テ論了シタルハ擬律錯誤ノ裁判ト思考ス又被害者森島嘉兵衛雇人濱野留吉等ニ負傷セシメタルハ右ノ主罪ヲ免カル、爲メ犯シタル附帶罪ノ如シ果シテ然ラハ刑法第三百三條第三百二條等ヲ適用ス可キ者ナルニ其擬律茲ニ出テサルハ畢竟事實ノ理由不備ナルヨリ其法律ノ適用ヲ失シタル者ナラン乎又被害者カ負傷シタル爲メ疾病休業ノ如何ヲ明示セサリシモ俱ニ事實ノ理由不備ナル者ニシテ即チ治罪法第四百十條第九項ノ理由ニ觸ル、裁判ト思考スルヲ以テ附帶上告シテ原裁判ノ破毀ヲ求ムト開陳セリ茲ニ之ヲ審案スルニ

被告善吉カ上告ノ理由トスル所ハ竊盜ニ忍入リタル事ナク又毆傷シタル事ナキニ何等ノ證據ニ依リタルヤ之ヲ明示セス又其證據物件云々トアル其如何ナル證據タルノ理由ヲ付セス臆想ノ斷定ヲ下サレタルハ不服ト云フニ在リト雖モ原判文ニ被告村上善吉ハ賭博ニ家産ヲ失フタルヨリ盜心ヲ生シ明治十六年五月三日兇器ヲ携帯シ森島嘉兵衛方石垣ヲ乘リ越エ垣ヲ破リ忍入タル場合同家ノ雇人濱野留吉川口奕之助ニ見認メラレ右兩名ハ負傷セシメタルヲ破リ忍入タル場合同家ノ雇人濱野留吉川口奕之助ニ見認メラレ右兩名ハ負傷セシメタルモノナル事ハ云々トアリテ要スルニ諸般ノ證據ヲ採擇シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ノ職權内ニ任從シタル所ナレハ事實裁判官カ認定シタル事實ノ判定ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フル上告ハ破毀ノ原由ト爲スニ足ラス附帶上告ノ理由ニ付原判文ヲ見ルニ(被告ハ賭博ニ家産ヲ失フタルヨリ盜心ヲ生シ明治十六年五月三日兇器ヲ携帯シ森島嘉兵衛方石垣ヲ乘リ越エ垣ヲ破リ忍入タル場合同家ノ雇人濱野留吉川口奕之助ニ認メラレ云々)トアリテ豫備ノ所爲ヲ放レ意思ヲ發露シ外面ニ妨害ヲ生スル場合ニ至リタルモノナレハ原裁判

所カ竊盜未遂犯ナリト認メタルハ敢テ擬律錯誤ナリト云フヲ得ス然レ共被告人カ留吉奕之助ニ負傷セシメタル所爲ハ附帶上告理由ノ如ク其主罪ヲ免カル、爲メ犯シタル毆打創傷ノ事實ナリト云ハサルヲ得ス然ラハ則刑法第三百三條同第三百二條ニ問擬スヘキモノナルニ原裁判茲ニ出テサルノミナラス留吉奕之助カ負傷ノ輕重即チ疾病休業ノ如何ヲ明示セス轉ク刑法第三百一條第二項ヲ適用シ裁判セシハ治罪法第三百四條ニ違背シタル事實理由ヲ付セサル同第四百十條第九項ニ適當スル原由アル附帶上告ナリト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ被告人カ上告ハ之ヲ棄却シ附帶上告ニ付同第四百二十八條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメン爲メ大坂重罪裁判所へ移スモノナリ

○第四千四十三號

判文(竊盜) 明治十六年八月廿一日上告
同 十七年十一月十九日發付

新潟縣新潟區西堀通八番町二番
地平民穀物仲買營業

吉田千次郎

明治十六年七月
三十八年八月

右千次郎カ被告事件ニ付明治十六年七月二十五日新潟縣輕罪裁判所ニ於テ被告ハ鈴木林次郎方入口ノ錠前ヲ外シ宅内へ忍入り唐棧夜具ヲ竊取シタルモノトシ刑法第三百六十八條及ヒ第三百六十七條ニ依リ重禁錮八月ニ處シ七月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告千

次郎カ上告爲シタル要領ハ第一唐棧夜具ハ兼テ林次郎妻「キン」ヨリ貰ヒ受クヘキ約アルニ
因リ林次郎宅ヨリ之ヲ持テ歸タルモ「キン」ニシテ竊取シタルモノニ非ラス第二若シ之ヲ竊取シ
タルモノトナルモ錠前ヲ外シ忍ヒ入タルモノニ非ラス然ルチ林次郎及ヒ同人妻「キン」等カ
不實ノ申立ニ依リ錠前ヲ外シ忍ヒ入り該品ヲ竊取シタリトノ判定ハ不法ノ裁判ナリト云フ
ニ在リ

同裁判所檢事補石部雄海ハ被告上告ハ不當ニシテ其理由ナキ旨ヲ以テ答辯ヲ爲シタリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本案上告趣旨ノ歸スル所ハ原裁判ノ探證方ト事實判定ニ對シテ不服ヲ唱フルニ過キス抑諸
般ノ證憑ニ依リ事實ヲ判定スルハ裁判官ノ職權ナル事治罪法第四百十六條第二項ノ文詞ニ
依テ明瞭タリ故ニ原裁判官カ其認メタル事實ニ於テハ輒ク之ヲ動カス可ラサルモノトス因
テ本件ハ治罪法第四百十條外ニ渉ル上告ノ原由ナキモノナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ
依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千四十四號

判文〔竊盜〕明治十六年八月十六日上告
同 十七年十一月十九日發付

德島縣阿波國板野郡東馬詰村平
民

新田 貞太郎

明治十六年七月
三十六年

右貞太郎カ被告事件ニ對シ明治十六年七月十七日德島縣裁判所ニ於テ證憑不充分ナルヲ
以テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪ト宣告ヲ爲シタリ檢察官檢事補川久保亮太ハ右裁判
ヲ不法ナリトシ上告ノ要旨ハ被告貞太郎ハ中川五平留守宅へ忍入貳圓紙幣壹枚ヲ竊取シ其
金圓ヲ以テ同日富永彌平方ニテ物品購求セシニ依テ其所爲發覺シタリ其證憑ハ被害人カ盜
難ニ罹ル前五六日間風邪ノ爲メニ平臥シタル節徒然ノ餘リ右紙幣ノ裏面ニ在ル番號又ハ鳥
ノ模様ヲ反古へ謄寫シタル其番號ニ符合スルノミナラス證人ノ證言當時ノ實況等ニ於テ明
白ナル事ハ此一件書類ヲ一讀スレハ忽チ被告入カ所業タル事疑フヘカラサルニ證據不充分
ナリトシ無罪判定シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
治罪法第四百十六條第二項ニ被告入ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申
立其他諸般ノ證憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ諸般ノ證憑ヲ取捨シテ事實ノ判定ヲ爲ス
ハ原裁判官ノ特有スル所ノ職權ニシテ其判定ノ事實ニ對シテハ他ヨリ之レヲ動カシ得ヘカ
ラサルモノトス今原檢察官カ上告ノ理由トスル所ハ總テ原裁判官カ事實ノ認定ニ對シ非難
スルニ過キサレハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ原由ナキモノニ付同法第四百二
十七條ニ依リ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノ也

○第四千四十五號

判文〔官金竊取〕明治十六年十二月廿一日上告
同 十七年十一月十九日發付

滋賀縣近江國野洲郡三上村士族

高野文三郎

明治十六年十一月

同縣同國高島郡勝野村士族

藏田為太郎

明治十六年十一月

右文三郎外一名カ官金竊取被告事件ニ付明治十六年十一月二十四日大津重罪裁判所ニ於テ
 刑法第二百八十九條ニ據リ文三郎ハ輕懲役七年爲太郎ハ輕懲役六年ニ處シタリ被告共ハ之
 ナ不當トシ上告セリ文三郎カ趣意ノ要領ハ第一該署ノ官金九拾壹圓八拾九錢ヲ竊取シタリ
 ト警吏カ故造ノ言ニ掛ルモ別途金五拾壹圓八拾九錢ヲ私借セリ此別途金ハ從來一人一己ノ
 融通支出ヲ許スモノナル故被告ハ之レヲ私借シタルナリ第二別途金ノ性質ハ糞尿紙屑拂代
 ナ蓄藏セシモノニテ署員ノ懇親會或ハ旅費等ニ充ル署内ノ私有金ニテ官金ニアラス第三豫
 審公判廷臣官金竊盜セシト明言セシニアラサル而已ナラス私借金ハ親屬ヨリ已ニ辨償シタ
 リ爲太郎カ要領ハ被告ハ該署ノ受付ヲ擔當セシモ署長ノ口達而已ナレハ官吏ニアラス且被
 告カ郵便電信料ヲ受込ムモ之ヲ監守スルノ責任ナシ況ヤ從來ノ慣習ニテ一時私借セシモ已
 ニ親屬ヨリ返納シ敢テ竊盜ノ惡意アリタルニアラス旁官金竊盜ヲ以テ論スヘキモノニアラ
 スト云ヘリ高野文三郎ハ明治十七年七月十五日十月二十日辯明書ヲ呈出シ上告趣意ヲ擴張
 セリ

對手人檢事平川楨ハ上告ノ不理ナルヲ駁撃シテ原裁判相當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行セシニ上告代理人齋藤孝治カ辯論ノ要旨
 タルヤ高野文三郎カ被告事件ハ常備別途ノ金種ヲ區別セサレハ結果亦異ナルナキヲ保シ難
 シ何トナレハ常備金ニ掛ル部分ハ官金竊取ヲ免カレサルモノトスルモ別途金ノ成立ニ至テ
 ハ糞尿紙屑代ヲ蓄藏シ署内ノ諸雜費ニ充ツルモノナレハ官金ト云フヲ得サレハナリ故ニ官
 私ノ二途ヲ細別シ二罪俱發ヲ以テ論セスンハ有ル可カラス藏田爲太郎ニ掛ル分ハ上告ノ趣
 主ヲ擴張シタルニ止ル而シテ原裁判ハ事實ノ齟齬且越權ノ處分アリ夫證人横江九十郎カ證
 言ニ因レハ五拾壹圓八拾九錢即チ被告文三郎カ費用高ナルニ原判文ニ都合九拾壹圓八拾九
 錢トアル是レナリ且警部武久克造御用掛横江九十郎ヲ證人トセシニ宣誓ヲ爲サシメサルハ
 治罪法第百八十條ニ違背セル是レナリ爰チ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云ヘリ

立會檢事澄川拙三ハ之ヲ駁シテ曰ク常備別途ノ名目ヲ異ニスルハ該署會計ノ便宜ニ供スル
 迄ニテ等シク官署ノ金員ナリ然シテ被告等ハ看守ノ位置ニ立チ該金ヲ竊取セシ者ナレハ原
 裁判相當ナリ將又警部武久克造外一名ニ對シ宣誓ヲ爲サシメサルハ相當官吏ノ資格ヲ以テ
 訊問セシニ依リ敢テ越權ト云フヲ得サル旨意見ヲ述ヘタリ依テ判決スル左ノ如シ

被告兩名カ上告ノ理由トスル所ハ從來ノ慣習ニテ私借セリト云フト雖モ之ヲ明許セル者ア
 ラサルニ於テハ竊取ノ所爲タル言ヲ竣タス而シテ該金種タルヤ暫ク上告論旨ノ如ク別途金
 或ハ一人ノ受込金ト假定スルモ其種質官衙ノ金ニテ之カ出納ニ從事スル者ハ則官金ノ監
 守者ナルヲ以テ原裁判所カ刑法第二百八十九條ニ問擬セシハ適當ナリ依テ上告代理人カ擴
 張ノ論辯ト共ニ其理由ナキモノトス又事實齟齬ノ論點ニ付尙一件書類ニ徴スルニ金員立會

勘査スルニ方リ被告文三郎カ多少入金ヲ爲セシモノニテ當初竊取ノ金員九拾壹圓八拾九錢ナレハ毫モ事實齟齬ニアラス又警部武久克造御用掛リ横江九十郎ニ對シ宣誓有否ノ論點ハ明治十五年三月二十一日司法省丙第十號同年十月二十八日同省丙第三十二號達ヲ以テ宣誓セシムルニ及ハサルカ故ニ是又越權ノ處分ニアラス旁本案上告及ヒ代言人カ辯論ニ原裁判ヲ破毀スル材料ト爲スニ足ラス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四千四十六號

判文(持兇器強盜)明治十七年二月二十六日上告
年十一月十九日發付

東京府下谷區南稻荷町五十二番
地平民木板摺渡世

高橋松五郎

明治十七年三月

右松五郎カ第一竊盜第二持兇器強盜第三持兇器強盜未遂犯第四毆打創傷ノ罪アリトシ明治十七年二月九日東京重罪裁判所ニ於テ第一ノ所爲ニ對シ刑法第三百六十八條第三百六十七條第二ノ所爲ニ對シ第三百七十八條第三百七十九條第三ノ所爲ニ對シ第三百七十八條第三百七十九條第四ノ所爲ニ對シ第三百二條第三百一條第三項數罪俱發セルヲ以テ第百條ニ照ラシメ一ノ重キ第三百七十八條第三百七十九條ニ依リ重懲役九年ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル脇差壹本ハ沒收スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ檢事長岡本豐章ハ上告セリ其要領ハ原裁判

第三第四ノ所爲即チ被告カ強盜未遂犯及ヒ殺傷罪ノ二罪集合シテ一罪タリ夫被告カ被害者ヘ負傷セシメタルハ強盜ノ所爲絶了シタル後ニアラス苟モ強盜ヲ爲ス際人ヲ殺傷シタルカ如キハ刑法第三百八十條ニ問擬セサル可カラサルニ原裁判所ハ被告カ逃脫ヲ圖ル機ニ生シタルヲ以テ云々シ業已ニ故意ヲ以テ人ヲ創傷シタル者ト爲シタルニモ拘ハラス之ヲ分離シテ強盜ノ一罪毆打創傷ノ一罪トセシハ擬律錯誤モ亦甚シ及其他ノ竊盜罪ニ監視ヲ付セサルモ亦同シト云ヘリ

對手人高橋松五郎ハ趣意書受取りタル證アルモ答辯セス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行セシニ立會檢事澄川拙三ハ原檢事長ノ上告ヲ贊成シテ原裁判ノ破毀ヲ求メタリ被告代理人北田正董ハ之カ反對ノ辯論ヲ爲シタリ其要旨ハ上告點ノ第三第四ニ就テハ初メニ事實ノ如何ヲ審查シ而シテ如何ナル刑ヲ適用スヘキヤ論究セサル可カラス夫レ公判始末書其他ノ調書ニ據レハ事主タル長吉カ被告ヲ捕縛セントセシニ被告ハ之ヲ遁レントシ互ニ爭鬪揉合中長吉カ該刀ヲ奪取ントシテ自カラ負傷セント自由任意ニ供出セシハ明瞭ナリ如斯反對ノ位地ニ立タル被害者カ申供ニ據レハ無論被告ガ目的ヲ遂ケン爲ニ出タル所爲ニアラサルヤ疑フ所アラサレハ此所爲ニ對シ刑法第三百八十條ヲ適用スル能ハサルナリ故ニ原裁判所カ毆打創傷ニ問擬セラレタルハ相當ナリト云々スルニアリ依テ之ヲ審案スルニ原判文第三第四ノ事實ヲ公判始末書其他ノ調書ニ就テ之ヲ徵スルニ被告カ抜刀ヲ提携シ長吉宅ニ押入り刀ヲ疊ニ突立老母ヲ脅迫シ財物ヲ強取セントスルニ及テ長吉及ヒ妻稻共ニ被告ニ組付揉合中長吉夫婦該刀ヲ捻取ル際負傷セシメタ

ルモノナリ現ニ同一ノ場所ニ於テ強盗ト負傷ト密着シ毫モ間隔アラサル所爲ナレハ之ニ對シ其目的ヲ成就センカ爲ニ出タルト或ハ捕縛ヲ免カレン爲ニ出タルトナリ別シ能ハサルハ言ヲ竣タス然ルニ原裁判所ハ被告カ第四ノ所爲偏ニ逃脫ヲ圖ル機ニ生シタルモノトシ已ニ強盗ノ區域ヲ脱シタルモノ、如ク各個ノ罪トナシ一ハ刑法第三百七十八條第三百七十九條一ハ同第三百二條第三百一條ニ問擬セシハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス已ニ此點ニ就テ原裁判ヲ破毀スル上ハ代言人カ辯論ニ就テ説明ヲ與フルヲ要セス因テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スル左ノ如シ

高橋 松五郎

右被告カ犯罪ハ原裁判所カ認メタル事實ト證據トニ因リ明確ナリトス之ヲ法律ニ照ラスニ第一ノ罪ハ刑法第三百六十八條第三百六十七條第三百七十六條第二ノ罪ハ同第三百七十八條第三百七十九條第三ノ罪ハ第三百七十八條同第三百七十九條未遂犯ナルヲ以テ同第三百十二條第三百十三條ニ照シ一等ヲ減ス第四ノ罪ハ同第三百八十條ニ該當ス已上數罪俱發セルヲ以テ同第三百條ニ照シ一ノ重キ同第三百八十條ニ依リ無期徒刑ニ處スルモノ也但犯罪ノ用ニ供シタル脇差ハ同第四十三條ニ因リ沒收シ現在ノ贓金九拾貳錢九厘並ニ女半纏ハ取上被盜人竹尾宗助へ還付ス

○第四千四十七號

判文〔詐欺取財〕明治十七年三月十三日上告
年十一月十九日發付

岡山縣備中國阿賀郡奥山村平民

栗本 甚次郎

明治十七年一月

五十二年

同縣同國同郡小坂村平民

栗本 久吉

明治十七年一月

二十四年

明治十七年一月二十九日岡山輕罪裁判所ニ於テ右兩名ハ詐欺取財ノ罪アルモノトシ刑法第三百九十三條第三百九十條第三百九十四條ニ照シ各重禁錮四月罰金七圓ニ處シ監視八月ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ其要領第一第二論旨ハ被告カ伊勢眞喜太ヨリ巖鐵製鍊ノ委託ヲ受ケタルハ三月ニシテ四月ニアラス又石田祐平ニ爲替ヲ爲シタルハ八月ニシテ九月ニアラス第三人ハ賣拂ヒ其代金ヲ以テ償却スヘキ契約ニテ云々トアルモ被告ハ決シテ契約ヲ爲セシトナシ只證人ニ於テ岡山カ大阪ニ於テ賣拂フト話シタルヲアリト云フモ是ヲ以テ直チニ契約ヲ爲シタリト云フヲ得サレハ是レ皆理由ニ齟齬アルモノナリ第四原來被告ハ營業者ニ非ラス又鉄製鍊ニ關係シタルモノニ非ラス只久吉カ被告ノ名ヲ以テ荷爲換ヲ爲シタルモノナレハ原裁判ハ擬律ニ錯誤アリ第五民事原告人ノ請求ニ依リ製鐵錠五十束ヲ眞喜太へ返還スヘシト言渡サル、モ原來民事原告人ハ被告ノ行爲ニ依リ損害ヲ被リタルモノニ非ラス且ツ巖鐵製鍊費ヲ支拂ハサル間ハ該品ヲ差押ユルモ素ヨリ妨ケアル可カラスト云ヒ尙ホ退申書ヲ以テ喋々詐欺取財ヲ犯シタルモノニ非ラスト論辯スルニ在リ

對手入檢察事友野信平ハ被告兩名カ上告趣旨ヲ遂一辯駁シ原裁判妥當ナリト答辯セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ以テ判決スル左ノ如シ
 被告甚次郎久吉カ上告ノ理由トスル所ハ第一四月中巖鉄製鍊方ノ委託ヲ受ケタル事ナシ第
 二九月中爲換ヲ受取タル事ナシ第三人へ賣拂ヒ其代金ヲ以テ償却スヘキ契約ヲ爲シタル
 事ナシ第四被告ハ原來營業者ニ非ラス又鉄製鍊ニ關係シタル事ナシ第五民事原告人ニ於テ
 製鍊費ヲ支辨セサル間ハ該品ヲ差押ユル權利アリト云々スルモ皆以テ原裁判官ガ認メサル
 事實ヲ喋々シ理由ニ齟齬アリ擬律ニ錯誤アリト云フニ過キスシテ一モ上告ノ原由ト爲スニ
 足ラス仍ホ試ニ訴訟書類ヲ檢閱スルニ被告等ハ第一四月中巖鉄製鍊方ノ委託ヲ受ケタル事
 第二九月中爲換ヲ受取タル事第三人へ賣拂ヒ以テ償却スヘキ契約ヲ爲シタル事第四鉄製
 鍊及運搬ニ關係シタル事等明晰ナリトス又民事原告人ニ於テ製鍊費ノ支辨ヲ爲サハル間ハ
 該物品ヲ差押ルモ妨ケアルヘカラスト云フト雖モ刑法附則第五十四條ニ贓物犯人ノ手ニア
 ル時ハ直チニ被害者へ還付ス云々トアルアレハ假令ヒ民事原告人ニ於テ製鍊費ノ支辨ヲ爲
 サハルモ之ヲ以テ返還ヲ拒ムコト得サルモノトス
 右ノ如クナルニ依リ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ
 ○第四千四十八號

判文(詐欺取財及私書偽造)明治十六年九月七日上告
 同 十七年十一月十九日發付

埼玉縣武藏國高麗郡飯能町三丁目二十九番地平民

大河原章平

明治十六年八月

三十五年生月不詳

右章平カ被告事件ニ對シ明治十六年八月十日浦和輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百十條第一項
 同第三百十二條同第三百九十四條同第三百九十九條同第四百一十條第一項第三項ニ依リ同第八十九
 條第九十條ニ照シ重禁錮二月罰金貳圓ヲ附加シ監視六月ニ付スト裁判宣告ヲ爲シタリ被告
 章平ニ於テハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ノ要旨ハ更改證ヘ大河原政五郎ノ記名ハ長男大河
 原彌助ノ筆記セシモノニシテ必竟政五郎ノ指圖ニ從フタルモノナルニ公判ニ於テ彌助ハ翻
 然上告人等カ云フカ儘ニ書類ノ何タルヲ知ラス記名シタリト申立強テ事實ヲ彌縫スト雖モ
 政五郎ハ曩ノ保證者ナルノミナラス明治十五年十二月二十二日ヲ以テ獎業社ニ對シ上告人
 等ノ爲メ延期ヲ申入タル書翰ニ徵スルモ該更改證ノ記名ハ政五郎カ承諾上附記シタルモノ
 ナル事推知シ得ルコモ拘ハラス原裁判官ハ刑法第三百九十條同第二百十條ニ適當スル罪ア
 リト判定セラレシハ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル不法ノ裁判ナリ又假リニ詐欺取財
 及私書偽造ノ罪アリトスルモ刑法第三百九十條第二項ニ因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減
 變換シタル者ハ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷スヘシトアルニ從フヘキモノナルニ原
 裁判官ハ刑法第百條第一項第二項ニ據リ數罪俱發例ヲ適用セラレタルハ是亦擬律ノ錯誤ナ
 リト云フニ在リ

對手入檢察官檢察補高田輝孝ハ上告ノ趣旨不當ニシテ原裁判ハ允當ナリト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十六條第二項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ諸般ノ證憑ヲ取捨シテ事實ノ認定ヲ爲スハ原裁判官ノ職權ニシテ其認メタル事實ニ對シテハ越權其他法律ニ定メタル所ニ背反シタルニアラサル限りハ之ヲ他ヨリ動カシ得ヘカラサルモノトス今被告カ第一上告ノ理由トスル所ハ事實ノ判定ヲ非難シ之ヲ左右セントスルニ過キサレハ上告ノ理由ナキモノトス又刑法第三百九十條ニ偽造ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ストアルハ即チ其總則ニ定メタル數罪俱發例ヲ適用スヘキ旨ヲ示シタルモノナレハ原裁判所カ刑法第百條第一項第三項ニ依リ處斷シタルハ適當ナルヲ以テ被告カ第二上告ノ趣旨ハ相立タサルモノトス

右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者ナリ

○第四千四十九號

判文(重典賣) 明治十七年二月一日上告
同 年十一月十九日發付

秋田縣羽後國河邊郡牛島村平民

柳 原 百 松

年齡不詳

右百松カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月二十八日秋田輕罪裁判所ニ於テ抵當ニ差入置ク建家ヲ欺隱シテ他ヘ賣渡シタルモ建物賣渡規則第四條民事處分ニ止マルトシ闕席ノ儘無罪ヲ言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ對手人檢事補上倉繁藏ハ上告ヲ爲タリ其要領ハ被告柳原百松ハ建家一棟抵當公證ノ證書ヲ若木嘉右衛門ヘ差入レ金七圓三拾錢ヲ借用シ仍ホ已

ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シ之ヲ輕部源吉ニ賣渡シタル事ハ原裁判所ニ於テ認定シタル事實ナリ其賣渡シタルハ公證ヲ受ケサルモ債主負債主ノ間ニハ賣買ノ効ヲ失スル者ニ非ラズ他ノ債主若クハ其不動産ニ就テ權利ヲ有スル者ニ對シ初メテ先取特權ノ効ヲ失フモノナレハ豈始メヨリ無効ノモノト爲スヲ得ンヤ其所爲ハ刑法第三百九十三條第二項ニ該ルヲ以テ同第三百九十條第三百九十四條ニ照シ處斷スヘキ者ト認ム然ルニ原裁判所ニ出テ建物賣買讓渡規則第四條民事處分ニ止ルヘキモノトシ無罪ヲ言渡シタルハ治罪法第四百十條第九項ニ當ル擬律錯誤ノ裁判ナリ因テ原裁判所ハ破毀アラフヲ求ムト云フニ在リ

本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ加納久宜ハ本案ノ裁判ハ原檢察官上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ナルヲ明カナル旨辯明シ尙ホ附帶上告ヲ爲シテ曰ク原判文ニ於テハ毫モ被告カ所爲ニ對スル證憑ヲ明示セサレハ果シテ何等ノ證憑ニ據テ此ノ如ク事實ヲ認定シタルヤナ知ルニ由ナク到底治罪法第三百四條ノ規定ニ背キタル越權ノ裁判ナリト思料スルニ付原裁判所ノ破毀ヲ求ムル爲メ玆ニ意見ヲ付スト依テ判決スルニ被告柳原百松カ所

有ノ建家一棟ヲ既ニ公正ノ證書ヲ以テ若木嘉右衛門ヘ抵當ニ差入置キ尙ホ其情ヲ隱シ輕部源吉ニ賣渡シタル所爲ハ原判文ニ認メシ事實ニシテ刑法第三百九十三條第二項ニ該當スル輕罪ナルニ原裁判所カ單ニ民事ノ處分ニ止マル者トシ無罪ノ言渡シタルハ原檢察官上告ノ如ク治罪法第四百十條第十項ニ當ル擬律錯誤ノ裁判ナリトス又該判文ニ被告ノ所爲ニ對スル證憑ヲ明示セサルヲ以テ其事實ヲ認定シタルハ何等ノ證憑ニ據リシヤ識別ス可カラズ是又檢事附帶上告ノ如ク同法第四百十條第十一項ニ相當スル越權ノ處分ナリトス依之同法

第四百二十八條ニ從ヒ該裁判言渡シテ破毀シ弘前輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

○第四千五十號

判文〔水利妨害〕明治十六年十月十八日上告
同 十七年十一月十九日發付

和歌山縣紀伊國名草郡西田井村
農

川崎平吉

明治十四年九月
三十四年

右川崎平吉カ被告事件ニ付明治十六年九月十日和歌山輕罪裁判所ニ於テ被告人ハ渡瀬傳吉
所有宇大西ノ畑地ニ灌溉スヘキ水路ヲ塞キ妨害ヲ與ヘタルモノト認定シ刑法第四百十三條
ニ依リ重禁錮一月ニ處シ罰金貳圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人カ上告爲シタ
ル要領ハ元ヨリ渡瀬傳吉ト共用ノ水路ナレハ隨テ其水費ヲモ支出セリ然ルニ該裁判ヲ與ヘ
ラレタルハ事實理由ノ齟齬ヨリシテ擬律ノ錯誤ニ出タルモノナリト云フニ在リ

原裁判所檢事補速水良明ハ上告ノ理由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ趣旨ハ事實ノ理由ニ齟齬アルヨリ擬律ノ錯誤ニ出タリト云フニ在ルモ之ヲ要スルニ
原裁判所カ爲シタル事實ノ判定ニ對シ徒ラニ不服ヲ唱フルニ過キサレハ以テ上告ノ理由ト
爲スコト得ヌ何ントナレハ事實ノ判定證據ノ取捨ハ法律ニ於テ裁判官ニ特任スル所ニシテ
他ヨリ之ヲ非難スルコト得サルモノナレハナリ因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告

ヲ棄却スル者也

○第四千五十一號

判文〔無届不參〕明治十六年八月十八日上告
同 十七年十一月十九日發付

茨城縣常陸國多賀郡伊師村字伊
師濱平民

椎名儀平

年齡不詳

右儀平カ無届不參ノ被告事件ニ付明治十六年七月二十七日水戸治安裁判所ニ於テ審理ノ末
明治十年第五號及明治十四年第七十二號公布第三條ニ依リ料料金壹圓五拾錢ニ處スト言渡
シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告儀平ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ水戸治安裁判所ノ召喚ニ應
シ該召喚當日明治十六年七月二十六日萩原金一郎へ代人相頼ニ事故ノ爲メ出廷シ能ハサル
旨ノ延期願書ヲ捧呈セシメタルモノナルニ無届不參トナシタルハ不當ナレハ之カ破毀ヲ求
ムト云フニアリ

對手人檢察官若井平世ハ原裁判允當ニシテ上告理由ナシト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ理由トスル所ハ召喚當日事故アルヲ以テ代人ヲシテ延期願ヲ呈出セシメタルニ無届
不參シタルモノト認メラレタルハ不當ナリト云フニアルモ原裁判官カ正當ノ職權ヲ以テ無
届不參シタルモノト認メタル事實ノ認定内ニ侵入シ之ヲ非難スルニ過キサレハ破毀ノ理由

トナスヲ得ス殊ニ一件書類中召喚當日ニ至リテ延期ヲ願ヒタルモノト見ルヘキ證據ナケレハ旁原裁判ハ相當ナレハ上告ノ趣旨其効ナシ
以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ明文ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

○第四千五十二號

判文〔證書毀棄〕

明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月十九日發付

高知縣土佐國長岡郡植田村平民
農業

大塚 嘉七

明治十六年八月
二十三年

右嘉七カ證書毀棄被告事件豫審終結ノ言渡シニ對シ被告カ故障ヲ爲シタルニ付明治十六年八月八日高知輕罪裁判所會議局ニ於テ被告カ故障ノ申立ハ治罪法第二百四十六條第三項ニ適セサルヲ以テ棄却スト言渡シタル判決ヲ不當ナリトシ被告嘉七ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ長岡郡植田村平民岡林兵藏ニ差入レタル米借證書ハ既ニ其義務ヲ了シタルモ其當時米借證書ノ兵藏ノ手元ニ見エサルヨリ之カ結了ノ受領證ヲ取置キ其證書見當リ次第ニ破毀スヘキ約ヲ爲シタルモノニテ該米借證書タル既ニ無効ニ屬シタル一ノ反古タルニ過キサレハ之ヲ破毀シタリトテ刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス然ルニ豫審掛判事補ニ於テ刑法第四百二十四條ノ犯罪者ナリトシ終結ノ言渡シヲ爲シタルハ越權ノ處分ニシテ會議局カ其終結言渡シヲ認可シタルモ亦タ失當ノ判決ナリト云ヒ仍ホ追申書ニ證據物ヲ添付シテ前意ヲ擴

張シ無罪ナル旨主張セリ

對手人檢察官相原市之丞ハ原判決相當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル所ハ被告カ毀棄シタル證書ハ既ニ無効タルハ受領證ノアルアリテ明晰ナレハ之ヲ毀棄スルモ刑法ノ問フヘキモノニアラスト云フニアルモ要スルニ事實裁判官カ判定シタル採證ノ當否ヲ論難スルニ過キヌシテ治罪法第四百十條ニ規定シタル各項目ニ適當ナル原由ナケレハ其効ナシトス殊ニ受領證書ナリトテ追申書ニ添付シテ提出シタル證據物ノ如キハ果シテ真正ノモノナルヤ否ヤ未タ原裁判官ノ認メサルモノナレハ之ヲ以テ直チニ上告ノ原由ト爲スヲ得ス因テ上告ノ趣旨總テ成立タストス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千五十三號

判文〔證券印稅規則犯〕

明治十六年八月廿一日上告
同 十七年十一月十九日發付

茨城縣常陸國東茨城郡水戸上市
田見小路士族無職業

小澤 寅吉

明治十六年七月
五十年

同縣同國那珂郡南酒出村平民

袴塚 勘右衛門

年齡不詳

右寅吉勘右衛門カ證券印稅規則違犯被告事件ニ付明治十六年七月三十日水戸輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末證券印稅規則第四則第二條ニ依リ寅吉ハ科料金五拾錢ニ處シ勘右衛門ハ科料金壹圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官立花敏ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ本案被告等カ所爲タル明治十六年二月十八日付金百貳拾圓ト記載シタル金員貸借證書ヲ無印紙ノ儘授受シタルヤ明カナレハ其證書上ニ記載アル金額ニ依テ罰スヘキモノナルニ其實五拾圓ノミ貸與シタルトノ陳述ヲ信シ五拾圓ノ印紙脫稅高ヲ科シタルハ治罪法第四百十條第十項ニ該當スル破毀ノ原由アル者ト云フニ在リ

對手人被告寅吉外一名ハ之ニ答辯セス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ證券印稅規則第四則第二條ニ類第一類第二ノ證書類ニ證券印紙ヲ貼用セサル者ハ云々トアル其律意タルヤ例ヘハ金錢借用證文ノ如キハ其證書ニ記載ノ金額ニ相當スル印紙ヲ貼用スヘキモノナルニ其手續キヲ爲サ、ルモノハ之レヲ罰スルノ精神ナルヤ明カナレハ假令其證書ニ記載スル所ノ金額ヲ授受セサルコモモセヨ其記スル金額ニ依リ相當ノ罰金ヲ科スヘキモノナリトス然ルニ原裁判官ハ被告人等カ金高百貳拾圓ト記載アル金錢貸借證書ヲ授受シタルノ事實ヲ認メナカラ右證書ヲ差入レ金五拾圓ノミヲ授受シタルトテ其五拾圓ニ相當スル脫稅ヲ科シタルハ上告論旨ノ如ク擬律錯誤タルヲ免カレストス因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

小澤寅吉

袴塚勘右衛門

被告等ノ所爲ハ原裁判官ノ認メタル事實ニ依リ所犯證券印稅規則改正前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ基キ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ在テハ同規則第四則第二條ニ依リ本件證書記載ノ金額百貳拾圓ノ脫稅高拾貳錢ノ貳拾倍貳圓四拾錢其證書ヲ受取タル者ハ脫稅高拾貳錢ノ拾倍壹圓貳拾錢ノ科料トス新則ニ於テハ同則第十九條ニ依リ脫稅高六錢ノ貳拾倍壹圓貳拾錢其證書ヲ受取タルモノ亦同シトアリ因テ輕キ新則ニ從ヒ被告等ヲ各壹圓貳拾錢ノ科料ニ處スルモノナリ

○第四千五十四號

判文〔證券印稅規則犯〕明治十六年七月二十三日上告
同 十七年十一月十九日發付

長野縣信濃國東筑摩郡北深志町

士族代官職

新海治安

明治十六年六月二十五日長野輕罪裁判所ニ於テ右新海治安ハ證券印稅規則違犯ノ所爲アリト判定シ刑法第五條明治七年第八十一號布告證券印稅規則第四則第八條明治十四年第七十二號布告第三條ニ照シ罰金八圓ニ處スル旨宣告セリ新海治安ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告ハ詞訟代官ノ依頼ヲ受ケ起訴ニ際シ詞訟本人ノ依頼ニ依リ不足印紙ノ證書ニ印紙ヲ貼用シタル者ナリ故ニ假令貼用ノ印紙ニ捺印漏アリトモ被告ハ詞訟ノ代官人ニ

過キサレハ科罰セラル、ノ理由ナク素ヨリ證券印稅規則中右等ノ明文アルナシ然ルチ原裁
 判所ニ於テ前記ノ如ク被告ニ罰金ヲ科シタルハ不當ナリト云フニ在リ
 對手人檢察官原裁判所檢事補小川俊一ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 證券印稅規則第二則第二條ニ曰ク「證書ハ總テ證書渡主ニテ印紙ヲ貼用ノ上必ス實印ヲ以
 テ其印紙ノ全面滅却セサル様第壹號圖ノ通り調印致ス可キ事」トアリテ證書渡主ニ於テ貼
 用消印セサレハ他人貼用消印スルモ無効タルヲ論テ俟タヌ本案ノ如キ代言人ニシテ假令印
 紙ヲ貼用消印シテ餘ス所ナキモ此貼用ノ印紙ハ則チ無効ニシテ無印紙ノ證書ト異ナルヲナ
 ク其罪ハ獨リ證書渡主ト受取主トニ歸スル者ニシテ證券印稅規則中代人ヲ罰スヘキ明文ナ
 シ然ラハ犯則罪ノ成立スヘキ理由ナシトス然ルチ原裁判所ハ受理スヘカラサル公訴ヲ受理
 シ前記ノ如ク論斷シタルハ不法ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破
 毀シ取消ス者也

○第四千五十五號

判文〔賣藥規則犯〕明治十六年九月七日上告
 同 十七年十一月十九日發付

富山縣越中國上新川郡惣曲輪町
 平民賣藥受賣營業

山崎竹次郎

明治十六年八月
 三十九年

右竹次郎カ賣藥印紙稅規則違犯ノ被告事件ニ付明治十六年八月六日鳥取輕罪裁判所米子支
 廳ニ於テ審理ノ末賣藥印紙稅規則第六條ニ依リ拾五圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不
 當ナリトシ被告竹次郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ第一飛田瀬平外一名ヘ萬金丹外拾壹品ヲ
 賣却シタルハ明治十五年以前ニアリテ明治十六年度ニ賣却シタル事ナシ尤モ自用毎斤ニ於
 テ不用ナリトテ返戻セラレタル分ハ直チニ之ヲ國元ニ送付シタルモノナルニ原裁判官ハ飛
 田瀬平カ自分ヲ陷害セントシタルノ陳述ヲ採用シテ違犯者ナリト判定セラレタルハ不當ナ
 リ假リニ違犯ノ所爲アリトスルモ金岡勝亮ノ賣子ナレハ自分ヘ對シテ罰金ヲ科サル、理由
 ナシ是レ事實上ト理由ト齟齬スルモノナリトノ事第二ハ原裁判官ニ於テ自分カ無印紙賣藥
 ナ所持シタリト認メラレタルハ自分ハ決シテ所持シタル事ナク又證人ニ於テモ所持シタリ
 トノ陳述ナキニ斯ク認定シタルハ被告事件ノ模様ニ依リ推測セラレタル越權ノ處分ナリト
 ノ事第三凡ソ裁判官ハ公庭ニアル所ノ證據物件等ハ一々被告ニ示シテ之カ辯解ヲ爲サシメ
 而シテ裁判言渡書ニモ之レヲ明示スヘキモノナルニ原裁判官ハ藥劑拾貳品ヲ現ニ公庭ニ陳
 列シナカラ之カ辯解ヲナサシメヌ又ハ裁判言渡書ニ證據トシ明示セサルハ越權ノ處分ナリ
 ト云フニ在リ

對手人檢察官黒部陳平ハ上告趣旨ノ理ナキヲ逐一辯駁シ原裁判允當ナリト答辯セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ
 上告ノ理由トスル第一ノ趣旨ハ無印紙ノ儘藥劑ヲ販賣シタル事ナキニ自分ヲ陷害セントス
 ルモノ、陳述ヲ採テ販賣シタルモノト判定セラレタルハ不當ナリト云フニ在リト雖モ其訴

旨タル要スルニ原裁判官カ正當ノ職權ヲ以テ無印紙ノ藥劑ヲ販賣シタルモノト認メタル事實ノ判定ト採證ノ當否トニ對シ漫ニ左右セントスルニ過キサレハ之レヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス又違犯者ナリトスルモ賣子ナレハ罰セラルハノ理由ナシト云フモ一件書類中果シテ金岡勝亮ノ雇人ナリト見ルヘキ事跡ナケレハ是亦謂レナキ訴旨ナリトス故ニ原裁判官カ被告ヲ直チニ罰シタルハ相當ニシテ事實ト齟齬スル不當ノ裁判ナリト云フヲ得ス第二ノ趣旨ノ如キモ亦其効ナキモノトス何ントナレハ原裁判官カ證據ノ具ニ供シタル所ノ告發書及ヒ證人等ノ調書ヲ見ルニ無印紙ノ藥劑ヲ販賣シタルノ事跡顯然タレハナリ故ニ原裁判官ハ被告事件ノ模様ニ依リ推測シタルモノニアラサレハ越權ナリト云フヲ得ス其第三訴旨ニ依リ一件書類ニ就キ公判始末書ヲ閱スルニ(裁判官ハ此ニアル藥五服ハ黒田治郎入ニ賣リタルモノニ相違ナキヤト訊問シタリ)(被告人ハ相違ナシ云々)トアリテ該證據物件タル藥劑ヲ示シ辯解セシメタルヲ明カナルノミナラズ原裁判官言渡書ニ飛田瀨平外一名ハ萬金丹外拾壹品ヲ無印紙ノ儘賣却シタル事實理由ヲ掲ケ而シテ其事實ヲ確ナラシムル所ノ證據調書等ヲ明示シアレハ其藥品ナ一々明示セサルテ之レヲ指シテ越權ノ處分ナリ事實理由ノ不備ナリト云フヲ得ス因テ上告趣旨總テ其効ナシ

○第四千五十六號

明治十六年九月廿四日上告
 判文(毒藥販賣)同 十七年十一月十九日發付

佐賀縣肥前國東松浦郡唐津村平

民

江川儀助

明治十六年八月

三十三年

明治十六年八月二十七日唐津治安裁判所ニ開キタル長崎輕罪裁判所ニ於テ右江川儀助カ被告事件ヲ審理シ礬石ニ熬煉ヲ混和シ蠅殺ト稱シ販賣シタル所爲アリトシ賣藥規則第二十三條同第二十五條ニ依リ二罪俱發ニ係ルヲ以テ刑法第百條ニ照シ犯情重キ第二十五條ノ罪ニ從ヒ百圓ノ罰金ニ處シ製藥貳百三拾八包礬石貳袋及ヒ賣得金貳拾貳錢四厘ハ沒入スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢察官佐賀縣警部補吉田喜二カ上告シタルノ要旨本案ノ製藥ハ蟲類ヲ鑿殺スルニ在テ人畜治病ノ目的ヲ以テスルニアラス醫師ノ鑑定ニ依ルニ人若シ之レヲ服用セハ直チニ生命ヲ傷害スヘシトアリテ固ヨリ出願免許ヲ受クヘキ藥劑ニアラスシテ賣藥規則ノ範圍ヲ脱シタルモノナレハ藥品取扱規則及ヒ明治十四年第七十二號布告第六條ニ照シ刑法第二百五十四條ヲ適用スヘキ所爲ナルニ原裁判所カ賣藥規則ヲ適用セシハ不當ナリ假リニ賣藥規則ヲ犯シタルモノトスルモ明治十四年第七十二號布告第五條ノ明文アルニ拘テス數罪俱發例ヲ用ヒタルハ到底擬律ノ錯誤タルヲ免カレサル不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ
 原裁判言渡書ニ被告人ハ姓名知ラサル賣藥者ヨリ購求シタル礬石即チ藥品取扱規則第二類
 毒藥ヲ熬煉ニ混和シ蠅殺藥ト稱シ販賣シタル始末云々トアリテ其規則ニ違背シテ毒藥ヲ販

賣セシ所爲明白ニシテ刑法第二百五十四條ニ該當スル犯罪ナルニ原裁判官ハ此事實ヲ認メ
ナカラ賣藥規則第二十三條同第二十五條ヲ適用セシハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤アル不法
ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判官言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ
直チニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

江川儀助

原裁判官言渡書ニ明示シタル事實ニ依リ被告人ハ藥品取扱規則ニ違背シ私ニ毒藥ヲ販賣シ
タルモノト確認ス其所爲ハ明治十四年第七十二號布告第六條ニ照ラシ刑法第二百五十四
條ノ規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタルモノハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアル
ニ依リ被告人ヲ拾圓ノ罰金ニ處スルモノナリ

但現在ノ製藥貳百三拾八包礬石貳袋及ヒ賣得金貳拾貳錢四厘ハ刑法第四十三條第一第
三項ニ依リ之ヲ沒收ス

○第四千五十七號

判文(煙草稅則犯)明治十六年十月十五日上告
同十七年十一月十九日發付

福岡縣筑前國夜須郡下秋月村平

民煙草小賣營業人

手塚勘三郎

明治十六年九月二十五歲

明治十六年九月二十七日福岡縣裁判所ニ於テ右手塚勘三郎カ煙草稅則違犯事件ヲ審判シ
無鑑札ニテ煙草貳拾五斤ヲ製造シタル所爲ハ煙草稅則第三十四條ニ依リ營業稅三倍ノ罰金
四拾五圓ニ處シ現在ノ煙草貳拾五斤ヲ沒收シ其無印紙及ヒ不足印紙ノ煙草ヲ店頭ニ陳列セ
シ所爲ハ同第二十五條ニ依リ拾圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人ハ上告ヲ
爲シタリ其要領被告人ハ已ニ營業稅鑑札料共上納シテ鑑札ノ下付出願中ノ者ナレハ假令煙
草ヲ製造セシモ無鑑札ノ營業人ト同視ス可キ所爲ニ非ラス又改正ノ印紙ヲ貼用センカ爲メ
賣捌人へ受下ケ方ヲ依頼スルモ所轄郡役所ニテ賣切レ下渡シ無之ヨリ已ムコト得ス印紙ヲ
貼用セサリシ者ニシテ故意ニ出タルニ非ラス然ルニ稅則違犯ノ罪アリトシ處斷セラレシハ
不當ナルヲ以テ破毀ヲ請願スト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ檢事澄川拙三ノ意見ヲ聽クニ上告ノ趣
旨ハ不當ナルニ因リ棄却セラル可キ者ト思考スルモ被告人カ無鑑札營業ノ所爲ハ半年度ノ
營業稅金高ヲ以テ罰金ヲ算定ス可キニ原裁判所カ一年度ノ營業稅金額ノ三倍ヲ科シタルハ
失當ナルニ付キ此一部ノ改正ヲ求ムル爲メ附帶上告ヲ爲スト陳述セリ依テ之ヲ審察スルニ
上告ノ要旨ハ被告人ニ於テ營業稅及ヒ鑑札料ヲ納メタルニ因リ無鑑札ヲ以テ論ス可キ者ニ
非ラス印紙ヲ貼用セサルモ故意ニ出タルニ非ラスト云フニ在ルモ徒タニ自己ノ苦情ヲ陳述
シテ原裁判ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キス而シテ被告人カ煙草稅則違犯ノ所爲ハ原裁判官言渡
書ニ掲載スル如ク其事實明白ナルヲ以テ裁判官ニ於テ稅則第三十四條第三十五條ヲ適用シ
タルハ相當ニシテ上告ノ趣意相立タス然レモ稅則第三十四條ニ營業稅逋脫ニ係ル金高三倍

ノ罰金トアリテ營業稅ハ年々兩度ニ區分シ其半額ヲ納ム可キモノナレハ被告人ノ所爲ハ製造營業稅一個年拾五圓ノ半額七圓五拾錢ヲ逋脱セシニ因リ其三倍貳拾貳圓五拾錢ノ罰金ニ處ス可キニ原裁判所カ四拾五圓ノ罰金ヲ言渡シタルハ附帶上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤アル不當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ被告人ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却シ本院檢察官附帶上告ノ趣旨ニ因リ同第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡中無鑑札ニテ煙草ヲ製造セシ事件ニ係ル一部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡シヲ爲ス左ノ如シ

手塚勘三郎

被告人カ無鑑札ニテ煙草貳拾五斤ヲ製造シタル所爲ハ煙草稅則第三十四條ニ營業鑑札ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ煙草ヲ沒收シ云々トアルニ依リ同第十一條第十二條ニ照シ製造營業稅一個年拾五圓ノ半高七圓五拾錢ノ三倍貳拾貳圓五拾錢ノ罰金ニ處シ現在ノ煙草貳拾五斤ヲ沒收スルモノナリ

○第四千五十八號

判文(限月米取引) 明治十六年七月二十三日 上告
同 十七年十一月十九日 發付

兵庫縣播磨國加東郡大門村平民

田中覺五郎

明治十六年六月
二十六年九月生

同村平民

田中虎之助

明治十六年六月
三十五年十一月生

明治十六年六月二十九日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ右田中覺五郎外一名ハ竊ニ限月米取引ヲナシタル所爲アリト判定シ明治十三年第二十一號布告ニ照シ各罰金拾五圓ニ處スル旨宣告セリ田中覺五郎外一名ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ被告等ハ竊ニ限月米取引ヲナシタルハ相違ナシト雖モ共犯等各處分ヲ受ケ被告兩人ハ爾後何等ノ沙汰ナキヲ以テ未タ官ノ知り得サル所ト信スルモ共犯等已ニ處分ヲ受ケタルニ被告兩人其處分ヲ逃ルルモ心易カラサルヨリ右所爲ヲ自首シタル者ナリ故ニ明治十三年第二十一號布告末文ニ基キ發覺前自首シタルヲ以テ其罪ヲ全免セラルヘキニ原裁判所カ前記ノ如ク處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補河野通信ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ原裁判所ノ簿冊ヲ審閱スルニ本案ハ被告人ノ自首ニ依リ發覺シタル者ノ如シ果シテ然ラハ明治十三年第二十一號布告末文ニ基キ其罪ヲ全免スヘキモノナリト雖モ原判文ニ其自首シタルハ發覺ノ前ナルヲ將タ後ナルヲ又有効ナリヤ無効ナリヤ明示セス輒ク前記ノ刑ヲ言渡シタルハ其刑ノ當否ヲ見ルニ由ナク即事實ノ理由不備ニシテ破毀ノ原由アル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ正當ノ判決ヲ受ケ

シメン爲メ大坂輕罪裁判所ニ移ス者也

○第四千五十九號

判文〔牛馬賣買規則犯〕明治十六年八月十六日上告
同 十七年十一月十九日發付

靜岡縣駿河國富士郡北山村四十

五番地平民農

小岱與總右衛門

明治十六年七月

四十九年

明治十六年七月二十日沼津治安裁判所ニ開キタル靜岡輕罪裁判所ニ於テ右小岱與總右衛門
カ被告事件ヲ審理シ被告人カ營業鑑札ヲ借り受ケ牛馬ヲ賣買シタル事實ハ犯罪ノ證據不充
分ナルモ被告人カ無鑑札ニテ渡井宗七郎ヨリ牛壹頭ヲ買受ケ之ヲ他ノ馬ト交換シタル事實
明瞭ナリトシ明治五年第三百二十號布告牛馬賣買規則第六條ニ照シ罰金拾圓ニ處スト言渡
シタル裁判ニ服セス被告人カ上告ヲナシタルノ要旨ハ渡井宗七郎ヨリ牛壹頭ヲ買受ケ居
タルモ耕作上不便ナルヨリ新助ナル者ノ馬ト交換シテ自用ニ供シタル者ニテ賣買營業ヲナ
シタル者ニ非ラス然ルチ原裁判官ハ之ヲ牛馬賣買規則ニ照シタルノミナラス本案ノ公訴ハ
營業鑑札ヲ借り受ケ賣買ヲナシタルニ在リテ無鑑札賣買事件ハ公訴モナク附帶ノ犯罪又ハ
公廷内ノ犯罪ニモ非ラサルニ原裁判官カ之ヲ裁判シタルハ治罪法第四百十條第七項ニ相當
スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判所ノ檢察官靜岡縣警部補江坂鎮八郎ハ附帶上告ヲ
ナシ原裁判官カ公訴モナキ事件ニ付裁判ヲナシタルハ不當ナルニ因リ破毀ヲ求ムト論告セ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ

裁判所ニ於テ附帶ノ事件及ヒ公廷内ノ犯罪ヲ除ク外ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲナス
可カラサルハ治罪法第二百七十六條ニ明示シタル所ニシテ本案被告事件ニ付檢察官公訴趣
旨ハ被告人カ影島良吉ノ牛馬賣買營業鑑札ヲ借り受ケテ牛馬ノ賣買ヲナシタリト云フニ
リテ其渡井宗七郎ヨリ牛ヲ買ヒ受ケ之ヲ他ノ馬ト交換シタルノ事件ニ至リテハ公訴ヲナシ
タル事ナク而シテ其事件ハ本案ニ附帶シタル者ニ非ラス又ハ公廷内ノ犯罪ニモ非ラサルニ
原裁判官ハ其公訴ナキニモ拘ハラズ直チニ裁判言渡シナシタルハ上告論旨ノ如ク訴ヲ受
ケサル事件ニ付キ裁判ヲナシタル者ニシテ即チ治罪法第四百十條第七項ノ場合ニ相當スル
不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルチ以テ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ
甲府輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

○第四千六十號

判文〔故殺〕明治十七年三月十五日上告
同 年十一月廿日發付

福岡縣筑後國三池郡三池町平民

野田幸八養子野田末藏事

中原末藏

明治十七年二月

二十四年二月

四五七

明治十七年二月十五日福岡重罪裁判所ニ於テ被告未藏ハ謀殺ノ罪アルモノト認定シ刑法第
二百九十二條ニ依リ死刑ニ處スヘキ處所犯情狀原諒スヘキアルヲ以テ刑法第八十九條第九
十條ニ照シ一等ヲ減シ無期徒刑ニ處スト言渡シタリ被告ハ右裁判ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲
シタリ其要旨ヲ節約セハ被告ハ阪田藤五郎ニ無法ノ暴行ヲ受ケタルニ付同人ヲ威シ將來ヲ
懲サンカ爲メ出刃庖丁ヲ携ヘ行キタル處藤五郎ヨリ先キニ組付キ被告ノ携ヘタル庖丁ヲ取
ラントシ互ニ爭鬪ノ際該庖丁ノ表裏ヲ辨セス毆打シタルモノナレハ其所爲刑法第二百九十
九條ニ該當スヘキモノナルニ原裁判所ニ於テ刑法第二百九十二條ニ依テ處斷セラレタルハ
不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

原裁判所檢事澁谷文毅ハ上告ノ不當ナル趣旨ヲ答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行スルニ代言人渡部小太郎ハ上告趣意
ヲ擴張シテ曰被告カ藤五郎宅ニ行キシハ同人ヲ威サンカ爲メニシテ殺意ヲ決シタルヲ見ル
ヘキ所ナシ然ルニ原裁判ハ寧ロ彼レヲ害セント殺意ヲ決シ云々ト掲ケ謀殺ノ罪アルモノト
斷定シタルハ實際ノ事實ト齟齬スルモノニシテ即チ事實ノ理由ニ齟齬セルモノナリ又原判
文ニ被害者ノ妻「ミヨ」ノ陳述ヲ證據トシテ採用セラレタレハ公判始末書ヲ閱スルニ同人ヲ
シテ宣誓式ヲ行ハシメタルニアラサレハ其陳述ヲ證據トシタルハ越權ナリト云フニ在リ立
會檢事池上三郎ハ上告趣旨并ニ代言人ノ論旨ハ共ニ其理由ヲシト意見ヲ陳述セリ因テ之ヲ
判決スル左ノ如シ

本人上告ノ趣旨ハ要スルニ原裁判官ノ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定ニ不服ヲ訴フルモノ

ニシテ一モ治罪法第四百十條ニ定メタル理由ニ適當セサレハ其訴旨不相立又代言人カ擴張
辯論ノ第一點ハ被告カ藤五郎宅ニ行キタルハ同人ヲ威サンカ爲メナルニ殺意ヲ決シタルモ
ノト判定シタルハ實際ノ事實ト齟齬セリト云フニ在レハ是又事實ノ判定ヲ非難スルニ過キ
サルモノトス何トナレハ被告カ豫メ殺意ヲ決シタルヤ否ヤヲ判定スルハ裁判官ノ權内ナレ
ハナリ而シテ裁判官ニ於テ實際ノ事實ト認定スル所ヲ判文ニ掲載セシモノナレハ此點ヲ論
難シテ實際ニ齟齬セリト云フヲ得ス況ヤ事實理由ノ齟齬トハ本件ノ如キモノナク云フニアラ
サルニ於テチヤ又代言人辯論ノ第二點ハ被害者ノ妻「ミヨ」カ宣誓セシメテ爲シタル陳述ヲ
證據トシタルハ越權ナリト云フニ在レハ一件書類ヲ調査スルニ事實參考人トシテ訊問セシ
ト明白ナレハ宣誓ヲ爲サシメサルハ不當ニ非ラス又事實參考人ノ陳述ト雖モ裁判官ノ心證
判斷ノ資料ト爲シ得ヘキモノナレハ之ヲ判文ニ掲載スルモ越權ニ非ラストス因テ代言人ノ
論旨モ亦不相立者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千六十一號

判文(毆傷)同 明治十六年十月一日上告
十七年十一月廿日發付

富山縣礪波郡松尾村平民農

柴田小四郎

明治十六年九月
二十二年

同村平民農

明治十六年九月

二十五年

右小四郎平藏カ毆打創傷被告事件ニ付明治十六年九月四日富山輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末
 刑法第三百一條同第三百五條同第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ヨリ三等ヲ通減シ被告兩
 名ヲ各重禁錮四月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告小四郎外一名ハ上告ヲ爲シ
 タリ其要領ハ被告等兩名ハ明治十六年八月二日ハ他行シテ不在ナルニ付居村字福田島ト稱
 スル所ニテ宮豐吉ヲ毆打シ創傷セシムヘキ道理之レ無シ其不在ナル證據ハ松本彌次兵衛福
 江與左衛門ノ證言ニテ明カナリ然ルニ原判文ニ被告等ハ豐吉ヲ毆打シ傷ヲ負ハセ云々認定
 ストアリテ年月日及ヒ鬪毆ノ模様等事實ノ理由ヲ付セサルハ治罪法第三百四條ニ背キタル
 不當ノ裁判ニシテ同法第四百十條第九項ノ原由アルヤ明カナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
 對手人原檢事補伊藤甫彦ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理無キ旨ヲ答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
 被告等カ原判文ニ年月日及ヒ鬪毆ノ模様等事實ノ理由ヲ付セサルハ不當ナリトノ論點ニ付
 原判文ヲ閱スルニ被告兩名ハ同村字福田島ト稱スル箇所ニ於テ西又吉宮半右衛門宮豐吉ト
 用水上ノ事ニ付爭論ヲ爲シタル末被告兩人ハ宮豐吉ヲ毆打シ傷ヲ負ハセ云々トノミアリテ
 其年月日ノ明記之レ無ク又公判始末書ヲ查スルニ檢察官ノ陳述中被告兩名ハ本年八月四日
 云々トアリ又告訴狀ニハ本月初二日トアリテ何レカ信實ナルヤ之ヲ知ルニ由ナシ到底被告
 等カ上告論旨ノ如ク事實ノ理由ヲ缺キタル裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス右ノ論

點ニ付破毀スル上ハ其他辯明ヲ與フルヲ要セス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ基キ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ更ニ適法ノ
 裁判ヲ受ケシムル爲メ金澤輕罪裁判所ニ移ス者也

○第四千六十二號

判文(毆傷)明治十六年十月三日上告
 同十七年十一月廿日發付

廣島縣安藝國山縣郡戸河内村千
 五百八十二番邸居住平民

松本早太郎

明治十六年九月

三十年十月

明治十六年九月五日廣島輕罪裁判所ニ於テ右松本早太郎カ毆打創傷被告事件ヲ審理シ刑法
 第三百一條第二項ニ照シ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處スヘキ所自首シタルヲ以テ同第八
 十五條ニ照シ酌量スヘキ情狀アルヲ以テ仍ホ同第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ
 通減シ重禁錮十五日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ原裁判所檢事補林經二カ上告シタルノ
 要領刑法第八十五條ニ事發覺トハ官ニ發覺シタル場合ヲ謂フノミナラス被害者ニ於テ其誰
 タルヲ確認シタル場合ヲモ合著シタルモノナリ本案被告人ハ現ニ被害者ト宴席ニ同坐セ
 ル際ニ於テ毆傷ヲ行ヒタルモノナレハ其模様ト場合トニ依テ推測スルモ被害者ハ己レヲ毆
 傷シタル者ハ被告人ナルヲ確認シタルハ明瞭ニシテ被害者訊問調書ニモ害ヲ加ヘタル者
 ハ早太郎ナルヲ明陳シアリ然ルニ原判文ニ其調書ヲ本案ノ證據ニ供シナカラ刑法第八十

五條ニ照シ減等シタルハ被害者カ犯人ノ誰タルヲナ確認シタルモ未タ官ニ發覺セサル時ハ自首減輕ノ例ヲ適用スヘキモノト誤解シ即チ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ

本案犯人ノ被告人ナルヲハ毆傷ヲ行ヒタルノ登時被害者ノ認知スル所タルハ訴訟書類ニ徴シテ明白ナレハ被告人カ自首ハ素ヨリ其効力ナキモノナルヤ亦明カナルニ原裁判官ハ被害者及ヒ證人ノ調書等ニ依リ其無効ノ自首タル事實ヲ認メナカラ刑法第八十五條ニ照シ減輕シタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤アル不合法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決ヲ爲ス左ノ如シ

松本 早太郎

原裁判言渡書ニ明示シタル事實ニ依リ被告人ハ人ヲ毆傷シ二十日ニ至ラサル時間疾病休業ニ至ラシメタル者ト確認ス其所爲ハ刑法第三百一條第二項ニ依リ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ該當スルモ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條同第九十條ニ照シ酌量シテ本刑ニ二等ヲ減シ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキモノトス仍テ被告人ヲ二十日ノ重禁錮ニ處スルモノナリ
但自首スルモ事發覺ノ後ニ係ルヲ以テ減等ノ限ニ在ラス其犯罪ノ用ニ供シタル板壹枚ハ所有主城根與助ニ還付ス

○第四千六十三號

判文〔毆傷〕明治十六年九月廿四日上告
同 十七年十一月二十日發付

兵庫縣攝津國有馬郡二郎村平民

藤田 八十松

明治十六年八月二十五日

右八十松カ毆打創傷被告事件ニ付明治十六年八月二十日神戸輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末刑法第三百一條ニ照シ情狀原諒ス可キ所アルヲ以テ同第八十九條同第九十條ニ依リ二等ヲ減シ二十日ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告本人ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ吉田宇之松ヲ突倒シ傷ヲ負ヒシタルヲアテサルニ付公廷ニ於テ大南徳三郎山下彌太郎ヲ喚問アラソクテ請願シタルニ許容セラレヌ有罪ナリト認メラレシハ遺憾ニ堪ヘヌ又信ヲ措クニ足ラサル捨松彌太郎等ノ申立醫師ノ診斷書及ヒ公然證據トナスヘカラサル警察署ノ調書ヲ偏信セラレシハ審理不盡ナリ又犯罪ノ證據ハ不完全ノ調書ノ外證據トナスヘキモノナシ此場合ニ於テハ公判々事ノ職權ヲ以テ豫審ヲ請求スルカ或ハ證人呼出ノ請願ヲ認可スヘキモノナルニ何レモ爲サス有罪ノ判決セラレシハ不當ナリ又原裁判所ニ於テ調書及ヒ告訴狀等ノ朗讀ヲ畧セラレシハ治罪法第三百五十二條ノ規則ニ背キタルモノナリ又原判文ニ其方ノ申立トアレハ被告ハ犯罪者ナリト白狀シタル事之レ無シ然レハ被告事件ノ模様ニ依リ有罪ナリトノ推測セラレシ事明カナリ且ツ其他ノ證據ト雖モ理由ヲ付セラレサルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢事補諸岡良佐ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理無キ旨ヲ答辯セリ
 又被告八十松ハ上申書ヲ以テ原檢察官カ答辯ハ不當ナルコトヲ辯駁セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
 被告ハ公廷ニ於テ大南徳三郎外一人ヲ喚問アラソコトヲ請願シタルニ許容セラレス有罪ナリ
 ト認メラレシハ不當ナリト云フト雖モ公判始末書ヲ閱スルニ其事蹟アルヲ觀ス假リニ之レ
 ナ其實ナリトスルモ異議ノ申立ヲ爲シタル上ニ非ラサレハ直チニ上告ヲナスコトヲ得又原
 裁判所ニ於テ調書及ヒ告訴狀等ノ朗讀ヲ略セラレシハ治罪法第三百五十二條ノ規則ニ背キ
 シ旨論辯スレモ是レ亦當時異議ノ申立ヲ爲シタル上ニ非ラサレハ直チニ上告ヲナスコトヲ得
 ス又其他ノ證據ト雖モ理由ヲ付セラレサルハ不當ナリト云フト雖モ證據トナルヘキモノニ
 一々理由ヲ付スヘキ命令法アルコトケレハ之レヲ付セサルモ不當ト云フヲ得サルナリ其他
 ハ事實裁判官ノ特有スル職權内ニ侵入シ事實ノ判定ト採擇シタル證據ノ當否ヲ論難シテ不
 服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得
 ス因テ上告ノ趣旨總テ相立タサル者トス
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也
 ○第四千六十四號

判文〔誣告〕明治十六年十月三日上告
 同十七年十一月二十日發付

秋田縣羽後國南秋田郡飯島村士
 族

船山直達

明治十六年九月
 三十五年

右直達カ誣告被告事件ニ付明治十六年九月五日秋田輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末刑法第三百
 五十五條同第二百二十條第二項ニ照シ六月ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタ
 ル裁判ヲ不當ナリトシ被告本人ハ上告ヲ爲シタリ其要領ヲ約スルニ本件ハ長濱豐治ナル者
 ヨリ掛ル藝娼妓及ヒ酒食料勸解出願中筒井恒吉保坂喜三郎等カ自カラ被告外數名ノ代人ト
 ナリ貸借證券ヲ差入恒吉ハ兼吉喜三郎等ト謀リ秋田治安裁判所へ直達代人ト偽リ兼吉カ廢
 印ヲ用ヒ訴答書代人願ヲ呈供シタルモノナリ然ルニ公判取調ニ際シ檢察官ハ片岡安吉ノ陳
 述等ニテ誣告ノ證據充分ナリト陳述セシヲ以テ何レノ點ニ依リテ證據左トセラレシヤチ問ニ
 何等ノ答辯ナク公判申渡サレシハ辯論ノ趣意ニ背キ且ツ審理不盡ナリ又保坂兼吉ニ交付シ
 タル書類貳通ノ内壹通ハ誣告ノ證據左トスヘキモノニアラス外壹葉ハ同人ノ懇談ニ依リ事穩
 便ニ相濟マス念慮ヨリ與ヘタルモノニテ全ク承諾シテ押印致サセタル證據左トナルヘキモノ
 ニ非ラス然ルニ其貳通ノ書類ヲ證據左トセラレシハ擬律錯誤ナルヲ以テ服從スル能ハサルニ
 付破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人原檢事補上倉繁藏ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理無キ旨ヲ答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
 諸般ノ證據ヲ取捨シテ事實ノ有無ヲ判定スルハ事實裁判官ノ特有スル職權ナルコトハ治罪法
 第四百四十六條第二項ノ規定ニ依テ明瞭ナリ然ルニ被告カ上告ノ理由トスル所ハ裁判官カ職

權ヲ以テ有罪ナリト認メタル事實ノ判定ト探擇シタル證憑ノ當否ヲ論難スルニ過キサレハ之レヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得ス其公判取調ニ際シ檢察官ハ片岡安吉ノ陳述等ニテ証告ノ證憑充分ナリト陳述セシヲ以テ何レノ點ニ依リテ證左トセラレシヤヲ問フニ何等ノ答辯ナク裁判セラレシハ辯論ノ趣意ニ背キタリトノ論點ニ付今公判始末書ヲ閱スルニ絶テ其跡ナキヲ以テ採用スルニ由シ無シ因テ上告趣旨ハ相立タサル者トス

○第四千六十五號

判文〔竊盜〕明治十七年三月四日上告
同 年十一月二十日發付

和歌山縣紀伊國日高郡山野村平
民鍛冶職

東久保文次郎

明治十七年一月
三十年五月

明治十七年一月二十三日和歌山輕罪裁判所ニ於テ右文次郎カ竊盜詐欺取財及ヒ氏名詐稱ノ被告事件ヲ審判シ被告ハ明治十六年十一月二十二日鍛冶梅楠ト詐稱シ井原久右衛門方ニ宿泊シ翌二十三日夜止宿料ヲ促サル、ニ當リ無錢ナルヨリ着衣壹枚ヲ以テ抵償トナシ而シテ其夜該家ノ蒲團外物品ヲ竊取シ逃走シタルモノト認定シ而シテ其止宿料不拂ノ事項ハ無錢ナルノ故ヲ以テ抵償品ヲ渡シタル者ナレハ罪トナラサルヲ以テ之ヲ問ハズ物品竊取シタルハ刑法第三百六十六條ヲ適用シ族籍氏名ヲ詐稱シ宿泊シタルハ和歌山縣違警罪第四項ニ違

犯シタルモノトシ刑法第一百一條ニ依リ一ノ重キ刑法第三百六十六條ニ從ヒ重禁錮三月ニ處シ尙ホ第三百七十六條ニ依リ七月ノ監視ニ付スト言渡セリ原裁判所檢事補上杉直利ハ其第二ノ所爲即チ無錢飲食ノ所爲ニ對スル裁判ハ事實理由ヲ缺キタルモノトシ之レカ上告ヲ爲セリ其要旨ハ無錢ニテ飲食スル者詐欺取財ノ罪ヲ成スハ當初詐欺ノ意アルニ因ル故ニ其罪ヲ斷スルニハ專ラ被告ノ心情如何ヲ推究シ判文ニ明示スヘキニ之レヲ爲サ、リシハ治罪法第四百十條第九項ニ適當ナル上告ノ理由アルモノト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ如シ凡ソ犯罪ヲ構造スルコトハ惡意ト行爲ト二者相待テ成ルモノナルヤ論ヲ俟タス然レハ意思ノ如何ノミニ依リ犯罪ヲ構造シタリト云フヲ得サルハ勿論本案上告ノ點ニ對シ原判文ノ文旨ヲ討究スルニ既ニ被告カ宿泊料ノ抵償トシテ衣類ヲ渡セシヲ視レハ當初ヨリ詐欺ノ念慮アリタルモノト認メ難シトノ事實判定ニ外ナラスシテ其判文ニ掲載シタル所ニ依リ事實及法律ノ適否ヲ監査シ得ヘキモノナルヲ以テ治罪法第三百五條ニ違犯シタル裁判ニアラストス右ノ理由ナルヲ以テ上告ノ趣旨ハ相立タサルモノト判定シ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千六十六號

判文〔竊盜〕明治十六年十月三日上告
同 十七年十一月廿日發付

沖繩縣琉球國那霸西村百三十番
地平民

照

屋

明治十六年八月二十九日

右照屋松カ竊盜被告事件ニ付明治十六年八月十六日沖繩縣裁判所ニ於テ審理ノ末刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照シ重禁錮一年ニ處シ監視一年ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告本人ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ明治十六年陰曆五月二日夜那覇東村字渡地濱ニ繫キアル宮城浦カ所有ノ傳聞船ニ忍ヒ入り物品ヲ竊取シ之レヲ備瀬「カメ」ニ賣却又ハ預ケタル覺アラサルニ有罪ナリト認メ前掲ノ如ク刑ヲ言渡サレシハ事實齟齬アルヲ以テ服罪シ難キニ付相當ノ裁判ヲ仰クト云フニ在リ

對手人檢事補緒方維則ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理無キ旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
本案上告ノ趣旨ニ依リ原判文ヲ閱スルニ絶テ事實齟齬ノ點アルヲ見ス之ヲ要スルニ裁判官ノ特有スル職權内ニ侵入シ其判定シタル事實ノ當否ヲ論難シテ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得ス因テ上告趣旨ハ相立タサル者トス右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也

○第四千六十七號

判文(地所冒認及證書偽造)明治十六年九月廿八日上告
同 十七年十一月二十日發付

千葉縣下總國香取郡高岡村士族
現今同國東葛飾郡松戶驛寄留無

職業

飯

鳥

知

臨

明治十六年八月三十四年一月

同縣同國香取郡高岡村眞城院住

職權訓導

鈴

木

尙

侃

明治十六年八月四十四年十月

同縣同國同郡同村平民酒造營業

青

野

五

左

明治十六年八月五十二年四月

右知臨尙侃五左衛門カ被告事件ニ付明治十六年八月二十九日千葉縣裁判所ニ於テ審理ノ末地所冒認證書偽造ノ事實アリト認メ而シテ地所冒認ノ所爲ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ舊法ニ照セハ盜賣田宅條ニ擬ス可キモ冒認シテ未タ販賣交換抵當典物ト爲サ、ルヲ以テ刑法第二百九十三條ノ罪ヲ構造セサレハ同第二條ニ照シ無罪證書ヲ偽造行使シタルハ刑法第二百十條同第二百十二條ニ照シ知臨尙侃ハ同第八十九條同第九十條ニ依リ二等ヲ減シ五左衛門尙侃ノ犯罪ハ新法實施前ニアルヲ以テ之ヲ舊法ニ照シ改定律例第二百四十六條ニ依リ五左衛門ヲ不應爲重ニ問ヒ尙侃ヲ其輕キニ問ヒ教導職ナルヲ以テ官吏犯公罪條例ニ照シ問刑ニ該ルヲ以テ輕キ舊法ニ從フヘキモノトス依テ知臨ヲ二月ノ重禁錮ニ處シ貳圓ノ罰金六

月ノ監視ヲ附加シ五左衛門ハ懲役七十日尙侃ハ禁獄三十日ニ處スト言渡シタル裁判ニ服從セス上告スル趣意書ハ逐條ノ多キニ涉レ其要旨ヲ約スレハ第一原裁判所ハ甲第十五號證ヲ採テ證據トナシ字地藏原新田ノ地ハ舊高岡藩ニ於テ柵ヲ植付其隣地長谷川竹藏持地ニ植付サルヲ以テ該地ハ眞城院ヨリ舊高岡藩主ニ讓與セシモノト推定シタルモ該地ハ舊高岡藩主カ柵植付ヲ命シタルハ其所有地ナルカ故ニアラサルコト該證中柵植付ノ地ニ其所有者ノ名義ヲ記シアリテ苟モ領内人民ヲシテ土地ヲ空フセサラシムルノ趣意ニ出テタルモノニテ竹藏持地ニ植付サルハ領内ノ百姓ニアラサルヲ以テナリ然ラハ眞城院持地ニノミ柵植付ヲ命シ他領ノ百姓持地ニ植付サルハ却テ眞城院ノ持地ナルコト確ムルニ足レリ而シテ同號證該地ノ肩書ニ眞城院持地トアリシヲ民事原告人等カ持地ノ二字ヲ故ラニ燒抜キタルモノニテ若シ眞城院ノ關係ナキ地ナレハ何ソノ眞城院ト肩書スルノ理アラシヤ又舊高岡藩士カ該地ノ過半ヲ東郷庫次ニ賣渡ス節黙止シ居ルノ理ナシト論決スルモ該地ハ飯島知臨ノ所有地トシテ即チ第一號證ニ基キ賣却シタルモノナリ蓋シ當時ニ在テ舊藩士一同ト其代金ヲ分配シ且其會テ分割シテ青野五左衛門ノ名義ト爲シタル地ト境界ヲ正スニ藩士ノ重立タル者ト村民ト立會ノ上之ヲ改メ紛議ナカリシハ却テ第一號證ヲ以テ過半知臨ノ所有名義其實舊藩士一同ノ所有トシ第五號證ヲ以テ其餘ノ部分ヲ五左衛門所有名義其實高岡村々民一同ノ所有トナシタル事ハ民事原告人等モ認メタル所ナリ眞城院住職尙侃ニ於テハ明治九年ニ在テ知臨ノ先代飯島太郎右衛門カ先住職ヨリ讓リ受ケタル地ナリト云ヒ或ハ寺持ノ地ハ官有地トナルヘシ故ニ士民ヲ利スル爲メ斯クセヨト檀家及ヒ士族決議ノ上檀家總代ヨリ申聞ケラル

ルニ因リ第一號第五號證ニ調印シタルモノナレハ何ソノ明治十二年ニ至リ異論ヲ唱フルノ理アラシヤ眞城院カ黙止シ居タルハ却テ五左衛門ノ所有名義ヲ認メタルノ徵憑ナリ又甲第三四號證ヲ以テ苟モ藩主タル者カ眞城院ヨリ讓リ受ケサル地ヲ其士族ニ讓與スルノ理ナシト判決セシモ該論地ハ寶曆二年ヨリ明治八年迄眞城院ノ所有ナルコトハ第六號乃至第二百四十五號證中眞城院カ貢租ヲ上納シアリテ舊高岡藩主カ所有シタル影跡タモナキヲ以テ明白ナルノミナラス該地ハ舊代官府支配地ナレハ領主ニアラサル藩主ニ上地スル謂ハレナシ該上地證ハ明治十一年度ニ詐爲シタルモノニテ安政二年ニ成立タルモノニ非ラス且該證ハ一時見當ラサリシ故結審後發見シタルヲ以テ提出セシニ之ヲ擯斥シ深ク審理ヲ盡サス上地シタルモノトシタルハ證據推理ノ原據ヲ誤リ事實理由ノ齟齬スル者ナリ第二原裁判所ハ知臨五左衛門等ニ於テ通謀シ舊反別三町四反四畝九步ノ地ヲ冒認シ明治十四年中其地券ヲ五左衛門名義ニ書換且同年中大和田村外七ヶ村人民ヨリ五左衛門ニ係リ勸解出願シタル際第一號第五號證ヲ詐爲シタル者ト認定セシモ明治九年ニ在テ眞城院所有ノ地藏原舊反別七町四反九畝二十九步ヲ高岡村人民即チ眞城院檀家一同ト舊高岡藩士一同トカ分割シテ所有セシ所以ハ當時寺院ノ所有ニテ恰モ村民共有ノ如クナシ置地ハ官有トナルヘシトノ說アルヨリ士族ハ故高岡藩大參事飯島太郎吉右衛門ニ於テ眞城院先住職鈴木尙端ヨリ該地全體ヲ讓リ受ルニ方リ高岡村人民ト葛藤ヲ生シ遂ニ該地ヲ人民ト士族ト分配所有スル事ニ熟決シ人民ハ五左衛門ヲ士族ハ知臨ヲ撰擧シ各之カ所有者ノ名義ヲ付シ茲ニ始メテ第一號第五號證及ヒ地券受ノ地引帳ヲ調製シ尙侃ハ其檀家人民ト舊領主藩主ノ藩士トノ間ニ分割ノ相談調

ヒタルヲ以テ該證ニ調印シタルノミ被告人等カ偽造シタル者ニアラサルヲ明カナリ又甲第三號證ハ藩政上ニ關係セシモノニ非ラストスルモ明治四年四月頃ニ在テ荷モ藩主カ其士族ノ授産法ヲ計畫スルガ爲メ其藩所有ノ地所ヲ藩士一同へ授與スルカ如キ事ヲ決メ藩政上ニ關係セスト云フ可カラス加之該證ニ字六道原ト記載アルハ地藏原ヲ指シタリト云ハ、是該證ノ偽造タルヲ證スヘシ何ントナレハ該地ノ字ハ地藏原ト稱シ六道原ト稱スルハ里人ノ唱ヘニテ藩主カ公ケノ稱スル所ニ非ラス云々且其檢地反別及ヒ石高ヲ記セサルヲ以テ見レハ明治四年藩主カ作りタルニアラス明治六年石高ノ名稱ヲ廢セラレタル後チ同十一年ニ於テ甲第十五號證ノ坪數ニ依テ作りタルヲ知ルヘシ彼ノ甲第十五號證ノ坪數ハ柵植付ノ坪數ニテ地藏原ノ總坪數ニ非ラス若シ舊反別ヲ記スルナラハ舊反別ハ字トモ同一視スヘキ程ノモノニテ必スシモ坪數ニ適合セサルモ地租改正前ハ一般ニ用ヒラレタルモノナリ今甲第三號證ハ之ヲ改メタル坪數ナリト云ハ、實地ニ適セサル可カラス元來三萬八百十坪ハ柵植付部分ノ坪數故ニ舊反別ニモ實地ニモ合ハサルニ其坪數ニ依リ作りタル甲第三號證ヲ以テ地藏原總體地ノ讓リ證トセシハ偽造ニ出タル明證ナリ然ルニ甲第十五號證ノ三萬云々トアルニ符合スルヲ以テ地藏原ノ地タル明瞭ナリトシ且該證ハ筒井尙賢ノ筆跡ナルニ之カ取調ヘチナサス同人召喚ノ請求モ容レス地方廳カ認可セシ公正ノ地引帳チモ知臨カ戸長奉職中成立タルモノナレハ信ヲ措クニ足ラスト之ヲ擯斥シ又五左衛門カ自己ノ名義ナルモ其實一人ノ所有ニ非ラス眞城院持地チ檀家一同相談ノ上五左衛門所有名義トナシタルモノナリトノ供述チ分別シテ一己ノ所有ニ非ラスト云フノミヲ採リタルハ不當不盡ナリ假ニ明治九年ハ知臨

カ戸長奉職中ナルヲ以テ地引帳ニ知臨五左衛門ノ所有名義ヲ記シタルモノトセハ冒認ノ所爲ハ當時ニ在テ已ニ其實チ存スルモノナリ何ソ十四年ニ至リ再ヒ冒認セリト云フノ道理アラシヤ然ルニ地引帳ハ知臨カ戸長中成立タレハ信スルニ足ラスト已ニ明治九年ニ在テ冒認セシ如ク理由チ付シナカラ十四年ニ至リ證書ヲ偽造シ地所ヲ冒認シタリト決了セシハ事實ノ理由前後矛盾シ且理由チ缺キタル者ナリ第三前陳述ノ事實ナルヲ以テ被告等ノ所爲ハ罪トナルヘキモノニ非ラサルニ舊法盜賣田宅條ニ擬シ刑法第二條ニ依リ及ヒ刑法第二百十條同第二百十二條ヲ適用シタルハ擬律錯誤ナリ良シ刑法ノ問ヘキ所爲トスルモ第一號第五號證ハ新法實施前ニ成立且使用シタルモノナルニ五左衛門尙賢ハ舊法ニ依リ知臨チ新法ニ擬シタルハ不當ナリ若シ知臨ノ證書偽造ハ明治十四年ニ成立タルモ十五年ニ至リ知臨ノ代人カ民事裁判所へ呈出シタル事アルカ故ニ之チ新法ノ犯罪トシ五左衛門カ十五年マテ民事裁判所へ呈シタルハ否ラスト云フカ五左衛門ノ該證チ使用セシカ新法ノ犯罪ヲサレハ知臨ノ所爲モ亦新法ノ犯罪タル可カラス且原裁判所ハ一タヒ知臨カ新法實施前ニ第一號證チ使用セシトノ理由チ付シタリ然ラハ知臨ニ於テ新法實施後更ニ此犯罪アリト云ハ、刑法第三條ヲ適用セサル可カラス之チ繼續犯トセシテ被告等カ該證チ使用シタルハ新法實施前ナルヲ以テ之チ繼續犯罪ト云フ可カラス故ニ被告等ノ所爲チ罪ナリトスルモ到底擬律錯誤チ免カレサル不法ノ裁判ナリト云ヒ破毀ヲ要求シ尙ホ退申書ヲ以テ證據書類チ添へ前意チ敷衍スルニアリ

大審院ニ於テ專任判事島居斷三ノ報告ニ因リ鈴木尙侃青野五左衛門上告代言人板倉中ハ上

告趣旨ヲ擴張辯明シ尙ホ本件ノ告訴人證人等ハ被告人等テ誣告又ハ偽證ノ罪アリト檢察官ノ公訴ヲ提起スル所トナリ即今豫審中ナレハ之ヲ以テ見ルモ本件裁判ノ誤判ニ出タルヲ證スルニ足レリト追告シ立會檢事澄川拙三ハ上告趣旨及ヒ代言人陳述トモ其理ナキヲ辯駁シ速カニ棄却セラレタシトノ意見ヲ開陳セリ爰ニ之ヲ審案スルニ

上告第一第二ノ理由トスル所證據推理ノ原據ヲ誤リ事實理由ハ齟齬且其理由ヲ缺キタルモノナリト云フニアリト雖モ原裁判言渡ヲ閱スルニ其理由首尾照應シテ毫モ被告人等ノ云フ如キ瑕瑾アル所ヲ見ス却テ上告第一理由中前ニハ竹藏持地ニ植付サルハ領内ノ百姓ニアラサルヲ以テナリ然ラハ眞城院持地ノミ柵植付ケテ命シ他領ノ百姓持地ニ植付サルハ云々ト眞城院ハ舊高岡藩領内ノ如ク後チニハ該地ハ舊代官所支配地ナレハ領主ニ非ラサル藩主ニ上地スル謂ハレナシトシ第二理由中ニモ檀家人民ト舊領主ノ藩士ト云々トアルコソ理由ノ齟齬スルモノト云フヘシ而シテ筒井尙賢ノ取調ヲナサスト云フモ原裁判所カ事實判定上必要ナラスト認メタル上ハ強テ取調サルモ不當ト云フヲ得ス其召喚ノ請求ヲ容ラレサルニ付當時異議ノ申立ヲナサレハ今更上告ノ理由トスルヲ得ス又明治九年ニ冒認シタルヲ十四年ニ至リ再ヒ冒認スルノ理ナシト云フモ原裁判所ハ明治九年ノ地引帳ハ信スルニ足ラスト認メタルニテ此時ニ在テ冒認シタリト認メタルニ非ラサル事ハ判文ヲ通讀シテ炳然タルノミナラス地方廳カ認可セシ地引帳ト雖モ裁判權ハ拘束セラル、モノニ非ラヌ要スルニ上告人等ノ論辯スル所ハ原裁判所カ本件事實判定ノ材料ニ採取セサル證據ヲ掲ケ自己臆定ノ理由ヲ付會シ徒ラニ採證ノ當否ヲ批難スルニ過キサルナリ抑各種ノ證據ヲ取捨採擇シテ事實

ヲ判定スルハ治罪法第百四十六條ノ明文ヲ以テ原裁判所カ特任セラレタル職權内ノ處分ナレハ之ヲ左右セントスル上告ハ其効ナキモノトス其第三理由ハ擬律錯誤ナリト云フモ原判文ニ(中)舊高岡藩士五十四名ノ代兼鹿島信孝岡村孝ヨリ飯島知臨ニ係リ云々勸解出願及ハレタルニ因リ飯島知臨ハ明治十四年十二月六日ニ第一號證乃チ偽造ノ證書ヲ提供シテ舊高岡藩士ノ共有地ニ非ラスト答辯ヲナシ鈴木尙青野五左衛門ハ其引合トシテ召喚セラレタル所青野五左衛門ハ明治十四年十二月二十三日ニ第五號證乃チ偽造ノ證書ヲ提供シテ藩士ノ現ニ請求スル地所ハ自己ノ所有地ナリト陳辯シ云云飯島知臨ハ其勸解不調ト爲リ更ニ云々千葉始審裁判所ニ出訴セラレタル處明治十五年一月三十一日ニ代人山田慮三郎ヲ以テ第一號ノ偽證ヲ提出シ前ノ如ク答辯ヲ爲シタル事蹟ハ確實ニシテ云々ト認メアリテ尙侃五左衛門カ第五號偽造證ヲ行使シタルハ明治十四年ニアルモ知臨カ第一號偽造證ヲ行使シタルハ明治十四年ト同十五年トノ兩度ニアルヲ明確ナレハ則チ新舊法ヲ比照スヘキ犯罪ト單ニ新法ニ擬スヘキ犯罪ト二罪ヲ犯シタルモノナレハ刑法第百條ノ總則ニ基キ原裁判所カ刑法第二十條同第二百十二條ニ依リ處斷シタルハ擬律錯誤ト云フヲ得ス其他代言人カ追告ノ陳辯ハ本案ノ事實ニ關係セサル事柄ナルヲ以テ殊ニ辯明ヲ與フル限リニ非ラサルモノトス因テ上告ノ趣旨總テ相立タサルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千六十八號
 判文(盜賊故買) 明治十六年八月十五日上告
 同 十七年十一月二十日發付

東京府京橋區龜島町一丁目五十番地寄留神奈川縣平民

齋藤喜代太郎

明治十六年六月

三十七年

明治十六年六月三十日東京輕罪裁判所ニ於テ右齋藤喜代太郎ハ盜賊故買ノ所爲アリト判定シ刑法第三百九十九條同第百條第三項ニ照シ重禁錮三月ニ處シ罰金八圓ヲ附加シ監視六月ニ附スル旨宣告セリ齋藤喜代太郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタル要旨ハ原裁判所カ被告ヲ盜賊故買者ト認メタルハ水上警察署ニ於テ被告等ノ口供ニ過キス此口供タル拷訊ト誘導トニ依リ誣服シタル供述ニシテ任意ノ白狀ニアラサレハ執テ以テ證據トナスヘカラス然リ而シテ盜賊故買ノ罪ハ盜犯ト被害者ヲ得テ被告ハ果シテ盜賊タルノ情ヲ知リタルヤ否ヲ審明スルニ非ラサレハ犯罪ヲ構造スヘカラス即チ本案ノ如キ盜犯ト被害者ノ誰タルヲ知ラス只被告カ誣服ノ口供ノミヲ以テ前記ノ如ク判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人原裁判所檢事補汲田十寸見ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ上告代言人佐久間長四郎ノ陳述ヲ聽クニ上告趣意ヲ擴張シテ曰ク水上警察署ニ於テ被告カ拷訊ヲ受ケタリトハ之カ證據ナキヲ以テ今喋々論告セス假令該口供ヲシテ任意ノ白狀ナリトスルモ被告ハ船ノ板荷タルヲ知リタルニ過キスシテ盜賊タルヲ知リタリトノ供出ニアラス素ヨリ盜犯ト被害者トアラサレハ該品ヲ盜賊タルト認定シ得ヘカラサルニ原裁判所ニ於テハ盜賊タルヲ知テ買取シタル者ト認定スト

原判文ニ記載スレハ何等ノ理由ヲ以テ認定ナシタルヤ之カ記載ナキヲ以テ其理由ヲ知ルニ由ナク是事實ノ理由ヲ付セサル者ナリ又被告白狀ノ如ク該品ハ船ノ板荷トセハ盜賊ニアラス何トナレハ船頭ハ荷物ノ依托ヲ受ケ之カ運輸ヲナス者ニシテ之カ板荷ヲナスハ依托品ヲ費消スル者ニ過キサレハナリ然ルチ原裁判所ハ此事實ヲ認メナカラ盜賊故買者ト判定シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ

茲ニ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ夫盜賊故買ノ罪ハ素ヨリ盜犯ノ誰タルト被害者ノ誰タルトヲ審明スヘキハ論ヲ竣タスト雖モ其盜犯ト被害者ヲ知り得サルノ時ニ在テモ故買者ト認メタル場合ハ其罪ヲ論スルコト又論ヲ竣タサルナリ即チ本案被告事件ノ如キ未ダ盜犯ト被害者トヲ知ラスト雖モ被告カ水上警察署ノ供述ニ依レハ船中ニテ採取タルヲ知リ買取リタルヲ明瞭ニシテ原判文ニ掲クル如ク野中茂右衛門外二名ノ申立ト符合シ盜賊故買ノ罪明瞭ナリ然ルニ被告ハ該供述ハ拷訊誘導ニ依リ誣服ノ口供ニシテ任意ノ白狀ニ非ラサル旨論告スレハ果シテ拷訊ヲ受タル證ノ視ルヘキナケレハ前供ヲ翻異スルノ口實ニ過キサル者トス然ラハ則原判文ニ盜賊タルヲ知テ買取タル者ト認定スト明記シ其認定シタル證據ヲ列記シ前記ノ刑ヲ言渡シタルハ事實理由ニ於テ不備アルコト又船中ニ於テ板荷ヲナスハ依托物費消ニシテ盜賊ニアラスト論告スレハ上文ノ如ク原裁判官カ盜賊ヲ買取タル者ト認定シタル以上ハ其認定ヲ左右セントスルモ動カシ得ヘカラサルモノニ付該論旨モ亦相立タサルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ本案上告ハ治罪法第四百十條各項ニ定メタル原由ナキヲ以テ同法第四

百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ

○第四千六十九號

判文〔失火及燒死〕明治十七年三月十七日上告
同 年十一月廿日發付

廣島縣備後國御調郡諸毛村平民

賢造妻

森

コサト

明治十七年二月
四十五年

明治十七年二月十二日廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ於テ右「コサト」カ失火及ヒ過失殺被告事
件ヲ審判シ失火罪ハ刑法第四百九條ニ依リ罰金貳圓ニ處ス但失火ニ因テ次女「ミキ」ヲ燒死
スト雖モ一應戶外ヘ連レ出シ置キ再度親カラ家内ニ入りタルモノニテ被告カ過失トスルニ
アラス依テ刑法第二條ニ照シ無罪ト言渡シタリ原裁判所檢事補村田繼述ハ右裁判ヲ不當ナ
リトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ失火罪ニ對スル原裁判ハ相當ナリト雖モ小兒燒死ノ件ハ過
失殺ニ非ラストシ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ不法ナリト試ニ原裁判言
渡書ヲ視ルモ其判文中次女「ミキ」ヲ燒死スト雖モ一應戶外ヘ連レ出シ置キ再度親カラ家内
ニ入タル者云々トアリテ一旦戶外迄扶ケ出スモ只戶外ニ拋棄シテ顧ミサルカ爲メ燒死シタ
ルモノナレハ被告ノ過失タルヲ免レヌ既ニ被告ノ過失トセハ刑法第二百十七條ニ照ラシ處
罰スヘキニ原裁判茲ニ出サルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ
對手人被告「コサト」ハ期限内之ニ答辯セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ理由ハ失火ノ際次女「ミキ」ノ燒死シタルハ被告ノ過失ニ出タルモノナレハ刑法
第二百十七條ニ依テ處斷スヘキモノナルニ之ニ無罪ヲ言渡シタルハ失當ナリト云フニ在レ
ル原判文ニ明示スル如ク一應戶外ニ連レ出シ置キタルニ再度親カラ家内ニ入りタルモノニ
テ被告ノ過失ニアラスト判定シタル以上ハ他ヨリ之ヲ左右シ得ヘキモノニアラス然レハ其
事實ニ對シ刑法第二條ヲ適用シ無罪ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯誤ニアラサルヲ以テ本案上告
ノ理由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ基キ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千七十號

判文〔器物毀棄〕明治十七年三月十二日上告
同 年十一月廿日發付

岩手縣陸中國南岩手郡仁王村平

民祭文讀業

及 川 利 藏

明治十七年二月
三十四年三月

明治十七年二月十八日盛岡輕罪裁判所磐井支廳ニ於テ右及川利藏カ毀棄器物被告事件ヲ審
理シ其證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第二百五十八條ニ依リ無罪且放免スト言渡シタル裁
判ニ對シ原裁判所檢事補伊藤助太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領タルヤ被告カ白石幸太郎着衣
ノ袖ヲ破損シタル顯證ハ告訴人及ヒ事實參考人臨檢巡查ノ調書被告隨意ノ陳述ニ依リ明灼
ニシテ治罪法第二百五條ニ無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トノ被告人ニ對シ犯罪ノ證據

ナキ事ヲ明示ス可シトアルニ原裁判所ニ於テハ其理由ヲ明示セサルノミナラス其被害者檢
證人ノ申立及ヒ正當官吏ノ臨檢調書ハ不充分ナルヲ證明ス可キ新ナル證憑ヲモ發見セス且
被告人ニ於テ本件ニ付處刑ヲ蒙ルハ異議ナキ旨陳供シタル調書并ニ法律適用ニモ異存ナシ
ト答ヘアルニモ關セズ無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ抑何等ノ理由ニ基キタル者乎蓋シ裁判官
ノ權内ニ屬スル事實認定ノ區域ヲ誤認シ證憑ノ顯否ニ關セス空想ヲ以テ隨意ニ判定シ得可
キ特權ヲ有スル者トノ意ニ出タル者ナラン乎之ヲ要スルニ原裁判ハ右治罪法第三百五條ニ
背キ犯罪ノ證憑ナキヲ明示セサル不法ヲ免カレサルヲ以テ之カ破毀ヲ望ムト云フニ在リ
對手人被告利藏ハ答辯書ヲ差出サズ

玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ趣旨中原判文ハ治罪法第三百五條ニ背キタリト論告スル所アリト雖モ原判文ヲ
監查スルニ(被告人ハ明治十七年二月十日)白石幸太郎方ニ於テ其袖ノ縫目ヲ破毀シタリ
ト認ムヘキ證憑充分ナラサルヲ以テ云々)トノ理由ヲ明示シ無罪ノ言渡シヲ爲シアル上ハ
右第三百五條ニ背キタル所ナシトス何トナレハ該條ニ規定スル言渡シノ理由ナルモノモ犯
罪ノ證憑ナキヲ明示スルニ止ルコトハ其明文ニ依リ灼然タル所ニシテ而シテ原判文ノ明示
スル所ノ理由モ亦之ニ外ナラサレハナリ而シテ又其他ノ論旨ノ如キハ專ラ承審官ノ職權内
ニ立入り其採證及ヒ事實認定ヲ非難スルモノニ過キスシテ一モ治罪法第四百十條各項目ニ
適合スルモノナキヲ以テ本案上告ハ到底相立タサルモノトス依テ同第四百二十七條ニ從ヒ
之ヲ棄却スルモノ也

○第四千七十一號

判文(不受檢視埋葬及證書偽造)明治十七年三月十九日上告
年十一月廿日發付

京都府丹波國北桑田郡三野村平
民農業

藤井利兵衛

明治十七年二月
三十一年

同府同國同郡同村平民農業

藤井新藏

明治十七年二月
三十九年

同府同國同郡檜原村平民農業

奈島清良

明治十七年二月
四十四年四月

明治十七年二月二十八日園部治安裁判所ニ開キタル京都輕罪裁判所ニ於テ右藤井利兵衛外
二名カ變死人ノ檢視ヲ受ケス埋葬シ及ヒ疾病證書偽造ノ被告事件ヲ審理シ被告藤井利兵衛
ニ對シテハ其變死人ノ檢視ヲ受ケス埋葬シタル事件ニ付テハ既ニ確定裁判ヲ經タルヲ以テ
治罪法第三百五十八條ニ從ヒ免訴シ而シテ又疾病證書偽造事件ニ付テハ檢視ノ處分ヲ受ク
ルヲ厭ヒ溺死セシ母ヲ病死セシ體ニ死亡報告書ヲ作爲シタルノミニテ公務ヲ免ル、爲メ疾
病證書ヲ偽造セシニアラサルニ依リ法律ニ於テ罰ス可キ正條之レナキヲ以テ刑法第二條ニ

準ヒ無罪トス又藤井新藏ニ對シテハ疾病證書偽造ノ件ニ付テハ藤井利兵衛ト同シク刑法第二條ニ準ヒ罰セサルモ右利兵衛ト相謀リ變死人ノ檢視ヲ受ケスシテ埋葬シタル行為ハ刑法第四百二十六條第九項ニ依リ科料金壹圓ニ處ス又奈島清良ニ對シテハ其所爲ハ公務ヲ免ルル爲メ其囑託ヲ受ケ疾病證書ヲ偽造シタルニアラスシテ止タ變死人ノ檢視ノ處分ヲ受クルヲ厭ヒ事實ヲ掩蔽スルノ情ヲ知り病死セシ體ノ死亡報告書ヲ作爲シタルモノニシテ法律ニ於テ罰ス可キ正條ナキヲ以テ右利兵衛等ト同シク刑法第二條ニ準ヒ無罪トスト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事代理警部長谷川純カ上告ヲ爲シタル要領タルヤ被告等カ變死人ヲ以テ詐テ尋常疾病ニ罹リ死亡セシモノ、如ク死亡報告書ヲ作爲シタル行為ハ即チ疾病證書ヲ偽造シタルモノト同一ナルヲ以テ刑法第二百十五條ヲ適用ス可キモノナルニ之ヲ法律ニ正條ナキモノトシ刑法第二條ニ從ヒ無罪ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ニ出タル不法ノ裁判ナリト云フニ外ナラス

對手人被告利兵衛外二名ハ原裁判言渡シハ允當ナリトノ趣旨ヲ答辯セリ
 玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 抑刑法第二百十五條ハ生者ニシテ其公務ヲ免カル、カ爲メ疾病證書ヲ偽造シ又ハ醫師其囑託ヲ受ケテ之ヲ造リ行使シタルモノヲ制裁スル法條ナレハ本件被告等ノ如ク變死人ノ檢視ノ處分ヲ受クルヲ厭ヒ死亡報告書ヲ作爲シタル行為ニ適用ス可キモノニアラストス故ニ原裁判官ニ於テ被告等ノ行為ハ法律ニ於テ罰ス可キ正條ナシトシ刑法第二條ニ從ヒ無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ固ニ當然ニシテ本案上告ハ相立タサルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從

ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千七十二號

判文(無届不參) 明治十七年三月二十二日上告
 同 年十一月二十日發付

秋田縣羽後國北秋田郡鷹巢村平

民

河田 與 茂 七

年齡不詳

明治十七年二月二十七日大館治安裁判所ニ於テ被告與茂七ハ明治十七年二月六日無届不參スルコ付明治十年第五號布告ニ照ラシ罰金五圓申付ルト言渡シタリ被告與茂七ハ右言渡シヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告カ明治十六年三月九日秦鉄治ニ係ル勸解事件ハ業已ニ不調ニ歸シタルモノナレハ裁判所ノ召喚ヲ受ケヘキ理由ナキノミナラス原裁判所ヨリ明治十七年二月六日出廷スヘキノ呼出狀ヲ受ケタル事ナシ又假令被告ノ親戚河田與惣兵衛カ之ヲ受ケタリトスルモ同人ヨリ其報知ヲ受ケタルニアラサレハ被告ノ怠リタルニ非ラスト云フニ過キス

對手人原裁判所檢察官警部補三浦忠雄ハ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ
 玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 上告者ハ明治十七年二月六日出廷スヘキノ呼出狀ヲ受ケタル事ナシト云フト雖モ一件書類ヲ閱スルニ明治十七年二月一日被告ノ親族河田與惣兵衛ニ送達シタル證アレハ呼出ヲ受ケタ

ル事ナシト云フヲ得ス然レハ原裁判所カ明治十年第五號布告ニ依リ罰金ヲ科シタルハ不當ノ言渡シコ非ラストス而シテ被告カ親族ヨリ其報知ヲ受ケスト云ヒ又ハ秦鉄治ニ係ル勸解ハ已ニ不調ニナリタルモノニテ呼出ヲ受ケヘキ理由ナシト云フカ如キハ原裁判所カ果シテ然ル事實アリト認メサリシノミナラス之レカ證據アルニ非ラス要スルニ事實認定ノ非難ニ歸シ上告正當ノ理由ニ之レナキヲ以テ上告ノ趣旨ハ總テ不相立者トス因テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

○第四千七十二號

判文〔無届不參〕明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月二十日發付

長野縣信濃國北佐久郡塚原村平
民

青木政太郎

年齡未詳

右政太郎カ無届不參事件ニ付明治十六年八月十一日岩村田治安裁判所ニ於テ明治十年第五號公布及ヒ明治十四年第七十二號公布第三條ニ依リ罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告政太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ明治十六年八月十一日原裁判所ノ呼出狀ヲ拜承スルモ其際疾病ニ罹リ出廷スル能ハス故ニ別紙第一號甲乙ノ如ク其手續ヲ爲シ佐藤爲作ヲ以テ其届ヲ爲セシニ受附係リニ於テ係リ法官ノ命令ニヨリ該願採用シ難キ旨届人爲作ヘ示サレ該願書ヲ却下セラレ而シテ無届不參ノ處罰セラレタレトモ既ニ届ヲ提供セシ上

ハ採用不採用ニ拘ハラヌ無届ナリト云フハ不服ナルニ付公明ノ裁判ヲ仰クト云フニ在リ
對手人原檢察官警部市石昭高ハ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
被告カ上告ノ理由トスル所ハ原裁判所ヨリ呼出シ當日疾病ニ罹リ出廷スル能ハス故ニ別紙第一號甲乙ノ如ク代人ヲ以テ届ヲ爲セシニ却下セラレ而シテ無届不參ノ處罰セラレシハ不服ナリト云フニアレトモ今一件書類ヲ查スルニ絶テ證據ノ徴スヘキナキヲ以テ採用スルニ由シナシ要スルニ其趣旨タル原裁判官カ認メサル事實ヲ演シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得ス因テ上告趣旨ハ相立タサル者トス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ棄却スル者也

○第四千七十四號

判文〔銃砲取締規則犯〕明治十七年三月七日上告
同 年十一月二十日發付

山口縣長門國厚狹郡吉見村居住
士族

平 中 剛 介

明治十七年二月一日山口輕罪裁判所赤間關支廳ニ於テ被告カ村上直人所有ノ西洋獵銃壹挺ヲ代價貳拾圓自己所有ノ二聯發元込西洋獵銃壹挺ヲ代價貳拾五圓ト定メ交換セルモ罪トナラサルニ付刑法第二條ニ基キ治罪法第二百二十四條第二項ニ照シ無罪ト雖モ該銃并彈藥ヲ所持シ無鑑札ニテ銃獵ヲ爲シタルモノト認定シ刑法第五條ニ基キ明治十年第十一號布告鳥

獸獵規則第二條第十七條ニ依照シ罰金五圓ニ處シ獵銃及ヒ彈藥ハ下付スト言渡シタル裁判
ヲ不法トナシ同裁判所檢事補八田一精ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一銃砲取締規則違反ノ
所爲ニ對シ無罪ヲ言渡シタルハ意見ヲ異ニスルモ到底違警罪ノ範圍内ニアルヲ以テ敢テ論
辯ヲ爲サスト雖モ第二鳥獸獵規則ヲ犯シタルモノトシテ刑法第五條ニ基キ明治十年第十一
號布告鳥獸獵規則第二條第十七條ニ照シ罰金ニ處シ其交換セル銃器ハ被告ノ所有ニ歸シタ
ルヲ分明ナレハ仍ホ刑法第四十三條ニ依リ之ヲ沒收セサルヘカラス何トナレハ本案ノ犯罪
ハ所謂鳥獸獵者一部分ニ係ル取締規則ヲ犯シタルモノナレハ其取締上ノ如何ニ着目シ該物
件ハ犯則者ニ下付スヘキ理由ナキノミナラス既ニ犯則ノ用具タル上ハ刑法ノ沒收例ニ據リ
處分スヘキハ當然ナレハナリ因テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告剛介ハ上告趣旨ノ理由ナキヲ駁シ原裁判適當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ上告ノ要旨ハ犯罪ノ用具
タル銃器ハ沒收スヘキモノナルニ此ニ出テサルハ不法ナリト云フニ在レハ鳥獸獵規則第十
七條ハ該則ノ總則ト看做スヘキモノニテ即チ同條ニ銃器等ヲ沒收スルノ明文ナケレハ原裁
判ノ銃器彈藥ハ之ヲ下付スト言渡セシハ適當ノ裁判ナリトス故ニ上告趣旨ハ其理由ナキニ
依リ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノナリ

○四千七十五號

判文〔賣藥規則犯〕明治十六年十月三十日上告
十七年十一月二十日發付

鳥取縣因幡國邑美郡南本寺町平

民賣藥營業

石尾啓次郎

明治十六年十月

三十九年一月

右石尾啓次郎カ被告事件ニ付明治十六年十月五日鳥取輕罪裁判所ニ於テ許可ヲ得テ發賣ス
ル保固強壯圓及「テリアカ」ト稱スル二方劑ノ能書用法ヲ私ニ改更シ販賣シタルモノト認定
シ明治十年第七號布告賣藥規則第二十二條ニ依リ罰金貳拾圓ニ處シ該方劑ノ賣藥營業鑑札
貳枚及「テリアカ」四拾五員同壹貫七百三拾目強壯圓八百八拾目ハ之ヲ沒收スト云渡シタル
裁判ニ服セス被告人カ上告爲シタル要領ハ第一「テリアカ」一方ハ其効能書ノ解釋及ヒ用法
ニ聊カ誤認ノ意味アリテ此能書ニ對シテ被告ハ不服ヲ唱フルノ念ナシト雖保固強壯圓ニ於
テハ官許ノ能書ニ藥効ノ解釋ヲ加ヘタル迄ニシテ毫モ私ニ能書ヲ改更セシ事ナシ第二被告
カ差出シタル手續書ヲ犯罪ノ證據トセラレタルハ不服ナリ第三賣藥稅則中「其鑑札取上藥
劑ヲ沒入ストアルノミナルニ該藥器共ニ沒入セラレタリ何ントナレハ沒入セラレタル量目
ハ正味ニアラスシテ入器ノ量目ト共ニ合算シタルモノナレハナリ況ンヤ被告ハ毫モ規則ヲ
犯スノ意ナキモノナルニ刑ノ言渡シテ受ケタルハ不當ナリト云フニ在リ

同裁判所檢事福田武規ハ原裁判允當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ
本案上告第一項ハ事實ノ判定ニ對シテ之レヲ非難シ其第二項ハ採證ノ不當ヲ訴フルモノニ
テ俱ニ上告ノ原由ト爲スト得ス何ントナレハ事實ノ認定及ヒ證據ノ取捨ハ原裁判官ニ任

スル所ノ職權ニシテ他ヨリ之ヲ左右シ得ヘキ所ニアラサレハナリ又其第三項ハ藥器ヲ合算シタル量目ヲ以テ沒收ノ言渡シヲナシタルハ其器共ニ沒收シタルモノトシ之カ不當ヲ訴フルト雖モ原裁判言渡書中ニ藥器ヲ沒收シタル事ナケレハ執行上之ヲ還付スヘキハ勿論ナレハ是等瑣末ノ事ヲ以テ上告ノ理由トナシ破毀スルノ限リニアラストス
右ノ理由ナルヲ以テ該上告ハ總テ相立タサルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

○第四千七十六號

判文〔囚徒逃走〕明治十六年八月二十七日上告
同 十七年十一月二十一日發付

札幌縣後志國小樽郡入船町百六
十三番地士族重禁錮囚

前山秀道

明治十六年七月
三十三年七月

明治十六年七月十九日札幌輕罪裁判所ニ於テ右前山秀道ハ重禁錮服役中札幌監獄署ニ於テ他ノ囚徒二名ト通謀シ同門監所ノ看守安積順之助ニ對シ暴行ヲ加ヘ逃走シタル者ト判定シ刑法第四百二十二條第二項同第四百四十五條ニ照シ重禁錮八月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢察補安部直七郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領被告人ハ他囚二名ト通謀シ監獄署ヲ逃走シ門監所ヲ距ル一町餘ノ場所ニ於テ看守ノ爲メ追跡セラル、ニ當リ被告人ハ六尺餘ノ棒ヲ以テ抗拒スルヨリ看守ノ斬傷ニ遭ヒ縛ニ就キタル者ナル事ハ該看守ノ手續書公

判廷ノ陳述ニ依リ明瞭ナリ然ルヲ裁判官ハ其事實ヲ判文ニ記載セサルノミナラス之カ判決ヲモ爲サス又門監所ニ於テ看守ニ暴行ヲ加ヘタルハ阿部淺之助ナルヲ以テ被告人カ其所爲ヲ陳述スルモ之ヲ自白ト言フヲ得サルニ原裁判言渡書ニ被告ノ自白トシタルハ理由ノ齟齬ニシテ治罪法第四百十條第七項第九項ニ相當スル不法ノ裁判ナリト云フニアリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ
檢察官ハ被告人カ看守ニ抗拒シ爲メニ斬傷セラレ縛ニ就キタルノ事實ヲ言渡書ニ明示セヌ又之カ判決ヲ爲サスト論告スルモ原裁判言渡書ヲ閱スルコト被告人カ外二名ノ囚徒ト通謀シ看守ニ對シ暴行ヲ加ヘ公然逃走シタリト事實ヲ記載シ相當ノ刑ヲ言渡シタル者ナレハ事實ノ理由ヲ付セサルニ非ラス請求ヲ受ケタル事件ノ判決ヲ爲サ、ルニ非ラス其就縛ノ際看守ノ爲メニ負傷セラレシ事實ノ如キハ本件ニ影響ヲ及サ、ルモノナレハ之ヲ詳記スルヲ要セサルナリ又被告人ハ自己ノ暴行脅迫ヲ爲シタル事實ヲ陳述シ併セテ共犯人ノ所爲ヲモ陳述シタルニ因リ之ヲ本件ノ證據ニ供シ被告ノ自白ト記載シタルハ當然ニシテ理由ノ齟齬ト謂フコト得ス依テ上告ノ趣旨ハ總テ相立タサルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千七十七號

判文〔徵兵忌避〕明治十六年八月十七日上告
同 十七年十一月二十一日發付

新潟縣越後國南蒲原郡上保内村
平民金藏養子農

佐藤 岩藏

明治十六年七月
二十一年六月

右岩藏カ徴兵忌避被告事件ニ付明治十六年七月十四日新潟輕罪裁判所ニ於テ審理ノ未被告カ所爲ハ陸軍刑法ニ照スヘキモノト認ムルヲ以テ當裁判所管轄ノ限ニ非ラスト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補泉二期ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ刑法第七十八條陸軍ノ徴兵ニ編入セラルヘキ者トアルハ徴兵令等ニ依リ正ニ合格者タル者ヲ指ス謂ニシテ素ヨリ年齡身體等ノ不合格者タルモノハ徴兵ニ編入セラルヘキモノトハ云フヲ得ス然ルニ本件被告ハ檢査了リリ年齡身體等合格者タル者ニシテ已ニ徴兵ニ編入セラルヘキモノ、資格定マリタルモノナリ而シテ其抽籤ハ入營以前ノ事ニ係ル者ニシテ徴兵ニ編入セラルヘキヲ淘汰シ兵種ヲ豫定スル一ノ手續ニ過キサレハ本件ノ如キ常律ノ支配スヘキモノト思料スルヲ以テ破毀ヲ求ムト論告セリ

對手人被告岩藏ハ原裁判ノ至當ナルヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ
刑法第七十八條陸軍ノ徴兵ニ編入セラルヘキモノトハ論告ノ如キ編入ノ資格定マリタル者而已ヲ指シタル者ニ非ラスシテ廣ク其忌避ヲ企圖シタル者ヲ制裁スルノ法章ナレハ既ニ檢査ヲ終了シ抽籤ニ該リ入營ノ期定リタル者ノ如キハ該條ノ支配スル所ニ非ラス今訴訟書類ニ徴シ原判文ヲ閱スルニ其明示シタル事實ノ如ク被告ハ業已ニ檢査ヲ經常備步兵第八十番ノ抽籤ニ該リ明治十六年四月三十日ヲ以テ入營スヘキノ達ヲ受ケ故ナク其期ニ後レ十

日ヲ過ル日數ニ至ルモ入營セサリシモノナルヲ顯然ナリ果シテ然ラハ陸軍刑法第七條ニ該當スヘキヲ論テ竣ダス故ニ原判官ハ之ヲ普通刑法ノ支配スヘキモノニ非ラストシテ管轄違テ言渡シタルハ至當ニシテ毫モ間然スヘキモノニ非ラス因テ該上告ハ不相立者ト判定ス
右辯明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ據リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四千七十八號

判文(證書偽造) 明治十六年八月十六日上告
同 十七年十一月二十一日發付

兵庫縣播磨國加東郡久下山村平

民農

澤 本 仁 藏

明治十六年七月
四十七年五月

右仁藏カ被告事件ニ對シ明治十六年七月九日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ刑法第二百八條第二百十二條ニ依リ重禁錮八月ニ處シ罰金拾五圓ヲ附加シ十月ノ監視ニ付ス其偽造ニ係ル第四號第六號ノ受取證書ハ刑法第四十三條ニ依リ沒收スト裁判言渡シヲ爲シタリ被告仁藏ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ノ要旨ハ第一濱本八次郎ハ公判開廷ノ際他ノ事件ニテ裁判所へ出頭セシニ對審半途突然之レヲ召喚シ治罪法第八十條ノ定式ヲ履行セス横井金藏ニ於ルモ參考人ノ名稱ヲ附セラル、モ是亦法律ノ原則ニ背ク越權ノ處分ナリ第二言渡書ニ明治十六年三月九日當姫路支廳へ控訴シタル云々トアレモ上告人ハ中塚秀藏カ代理トナリ明治十六年二月二十三日附ヲ以テ控訴セシモ三月九日附ニテ控訴シタル事ナシ第三荒井彌平

次カ中塚秀藏へ交附シタル第七號受取證ニ誤テ取換金六拾圓ト記シタル云々原裁判所ハ何
 ナ以テ其錯誤ヲ證明セラル、ヤ獨爾平次カ口供ニ過キサレハ之ヲシテ錯誤ノ推測ヲ下スハ
 不當ニシテ越權ノ處分ナリ第四號受取證書及ヒ爾平次ノ印ヲ偽造シ仍ホ其所爲ヲ確實ナラ
 シメシメ第六號金拾圓ノ受取證書ニ殘金六拾圓ト記入變造云々上告人カ所爲ニ係ルトス
 ルノ證據些少タモアラズ是レ治罪法第四百十條第九項第十項ノ原由アルモノナリ第五上告
 人ヲシテ有罪者ト見做シ判決ノ當ヲ得タルモノトスルモ刑法第百條第一項第三項ヲ適用ス
 へキモノナルニ第一項ハ措テ論セス單ニ第三項ニ因リタルハ擬律ノ錯誤ナリ第六號證
 第六號證ヲ沒收セシハ當ヲ得サル判決ナリ第四號證ハ暫ク措キ第六號證ハ中塚秀藏ノ所有
 物ナリ刑法第四十四條ヲ閱スルニ犯罪ノ用ニ供シ^中犯人ノ所有ニ係リ^中外之ヲ沒收スルコ
 ナ得ストアリ然ルチ沒收アリシハ不當ナリ第七第一號第二號第三號第五號第七號ノ證ハ被
 告人へ還付ストアリ是レ上告人カ所有ニアラスシテ中塚秀藏ノ所有ナリ故ニ上告人カ還給
 ナ受クへキ道理ナシト云フニ在リ

對手人檢察官檢事與宮正治ハ被告カ上告ハ不當ニシテ原裁判允當ナリト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 第一原判文ニ掲クル所ハ豫審ニ於テ證人ノ資格ヲ以テ訊問シタル濱本八次郎カ調書ニシテ
 其公判ノ當日偶々八次郎及ヒ横井金藏カ他ノ事件ニテ裁判所へ出頭セシニ因リ事實裁判官
 カ職權ヲ以テ參考人トシテ之ヲ訊問セシハ即裁判官カ法律上爲シ得へキ事ヲ爲シタルモノ
 ニシテ毫モ越權ノ處分ニアラストス第二判文ニ姫路支廳へ控訴ノ年月日ニ聊カノ違ヒアル

モノトスルモ被告カ控訴シタル事實之アルノミナラス本案ニ影響ノ及フへキコニアラサル
 ニヨリ上告ノ原由ト爲スニ足ラサルモノトス第三第四ハ原裁判官カ探證ノ當否事實ノ判定
 ニ對シ非難スルモノニ過キサレハ上告ノ原由ナキモノトス何トナレハ治罪法第四百十六條
 第二項ニ諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ第五判文ニ刑法第百條第三項ノミ
 ナ掲ケ第一項ヲ明示セサルモ原裁判官ハ二罪俱發例ニ依リ其情狀重キ者ヲ以テ處斷シ毫モ
 瑕瑾アルコアラサレハ擬律錯誤ナリト云フヲ得ス第六第四號第六號證ハ被告カ爾平次ノ印
 ナ偽造押捺シ又ハ變造シタルモノナレハ假令他人ノ所有ニモセヨ即チ法律上禁制ノ物件ト
 爲シ論スへキモノニ付刑法第四十三條第四十四條ニ依リ之ヲ沒收スへキハ當然ナルヲ以テ
 原裁判所カ之レヲ沒收シタルハ至當ナリトス第七第一二三五七號ノ證書ヲ被告へ還付ノ言
 渡シヲ爲シタルハ不當ナリト云フト雖モ被告ヨリ提供シタル物件ナレハ之ヲ被告へ還付シ
 タルハ適當ノ處分ナリトス以上説明ノ如ク被告カ上告ノ趣旨ハ總テ相立タサルニ依リ治罪
 法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

○第四百七十九號

判文(證書變造)明治十七年三月十二日上告
同 年十一月二十一日發付

鳥取縣因幡國高草郡有富村平民
農

山根馬次郎
明治十七年二月
五十一生月不詳
四九三

同縣同國同郡同村平民

山根 久米 造

明治十七年二月
二十六年生月不詳

明治十七年二月十五日鳥取輕罪裁判所ニ於テ被告久米造馬次郎ハ共謀シテ被告馬次郎カ市谷信次郎ヨリ金五拾圓ヲ借用シ其利金トシテ金五圓ヲ同人ヘ差入レ受取證書ヲ領收シ追テ返濟期限經過シタルヲ以テ貸借催促ノ詞訟ニ及ハレシ節右五圓ノ受取證書ニ拾ノ字ヲ記入シ以テ金五拾圓ノ受取證書ニ變造シ之ヲ鳥取治安裁判所ニ提出シ借金五拾圓ハ返濟シタリト主張セシモノニテ且ツ久米造ハ曩キニ詐欺取財ノ罪ニ依リ重禁錮四年罰金四圓監視六月ニ處セラレタルヲ不當トナシ上告爲シタルモ其理ナシト判決セラレ原裁判確定シタルモノトス因テ刑法第二百十條第二百十二條第九十二條ヲ適用シ久米造ハ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮三年ニ處シ罰金三拾圓ヲ附加シ一年ノ監視ニ付シ馬次郎ヲ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ六月ノ監視ニ付シ變造シタル受取證書ハ刑法第四十三條ニ依リ之ヲ沒收シ其餘ノ證書ハ市谷信次郎ニ還付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告馬次郎外一名ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本案被告等カ證書ヲ變造シ行使シタリトノ事件ニ付原裁判官カ根據スヘキ證據ナキニモ拘ハラヌ猥リニ事實ヲ推測セラレ治罪法第九十一條ニ明記アル相當ノ鑑定者ヲモ要セサルノミナラヌ證書面五ノ字ト圓ノ字ノ距離最モ遠ク其空間ニ押印アリテ殊ニ墨色ノ如キモ聊カ差異ナキニ市谷信次郎ノ片言ヲ信用シ且ツ信次郎ニ於テ本證書ノ月日ヲ擅ニ變換記入セシヲ審究セズシテ輒スク無罪ノ被告人等ヲ有罪トナシ判決セラレタルハ越權不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人檢事補萩原良二ハ上告趣旨ノ理由ナキヲ駁シ棄却スヘキモノト思料スル旨答辯セリ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ上告ノ趣旨トスル所ハ市谷信次郎ノ片言ヲ信容シ證書面墨色筆勢ノ同一ナルト殊ニ押印アルニモ拘ハラヌ鑑定人ヲモ召喚セズシテ變造ノ罪アリト判定サレシハ不服ナリト云フニアレモ鑑定人ヲ喚問スルト否ハ原裁判官ノ職權内ニシテ之ヲ必要ト認メサルニ於テハ喚問セサルモ違法ノ處分ト爲スヲ得サルノミナラヌ本件ノ裁判ハ市谷信次郎ノ片言ノミヲ採用シタルニアラスシテ其他ノ書類證據ニ心證ヲ資リ判定ヲ爲シタルヲ明カナリ而シテ右信次郎カ本證書ノ月日ヲ變換記入シタル事實ヲ審究セスト云フカ如キハ本案裁判外ノ訴旨ナルヲ以テ之ヲ監査スルノ限リニ非ラス到底上告趣旨ハ採證并ニ事實上ノ當否ヲ非難スルニ過キヌシテ相立タサルモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ該上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四千八十號

判文〔證書毀棄〕明治十七年三月十四日上告
發付 同 年十一月廿一日

青森縣陸奧國南津輕郡增館村平

民醫業

伴

元 齡

明治十七年二月
三十六年五月生
四九五

明治十七年二月二十二日弘前輕罪裁判所ニ於テ右元齡カ證書毀棄ノ被告事件ヲ審判シ被告元齡ハ明治十五年一月中曾テ久保田藤吉ヘ差入レ置キタル金拾圓ノ預リ證書ノ印影ヲ同人ノ承諾ヲ得スシテ墨ヲ以テ十字ヲ畫シタルハ乃チ毀棄シタルモノト認定ス右ノ證據タル久保田藤吉ノ告訴調書現ニ印影ノ消シアリシ證書該證書ノ藤吉カ手ニ存在シタル事豫審官カ訊問ニ答ヘタル渡邊萬助カ證言等ナリ之ヲ刑法第四百二十四條ニ照シ二月ノ重禁錮ニ處シ三圓ノ罰金ヲ附加スヘキ所被告ハ詐欺取財未遂ノ科ニ依リ一年三ヶ月ノ重禁錮附加罰金拾圓ニ處セラレタルヲ以テ刑法第二百二條ニ依リ詐欺取財未遂ノ罪ヲ重シトシ證書毀棄ノ罪ハ論セスト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告元齡カ上告ノ趣旨ヲ節約セハ該預リ證書ハ今井萬次郎ヨリ久保田藤吉ノ祖父宇吉ヘ係ル訴訟事件ニ付藤吉ノ依頼ヲ受ケ宇吉ノ代人ト爲リ勝訴訟トナリタル謝儀トシテ返却ヲ受ケシモノナレハ印影ヲ塗抹シタルハ藤吉ノ承諾上ニ出シテ勿論ナル事實ナリ而シテ原裁判所カ證據トセラレタル藤吉ノ告訴調書ハ藤吉ノ利益トナルヘキ様記載シタルモノニテ證據ト爲スヘキモノニアラス又印影ノ消シアル證書ノ藤吉カ手ニ存在スルハ當時印影ヲ消シ反古ニ爲シタルモノナレハ藤吉ノ手ニ在ルモ其効チ有セス然リ而シテ渡邊萬助カ證書トアルモ萬助ノ陳述ハ誣言ナルヲ以テ萬助及ヒ石橋富吉ノ公判廷ニ喚問アラントテ請求シタルニ之ヲ喚問セズ被告チ有罪者ト斷定セラレシモノニテ原裁判ハ越權ノ處分アルモノト云フニ在リ

原裁判所檢事補大堀武ハ上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條ニ定メタル原由ナキモノト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

大審院ハ法律ノ適否ヲ監査スルノ所ニシテ事實ノ覆審ヲ爲スノ所ニアラサレハ本件事實認定チ非難スルノ論告ハ治罪法第四百十條各項外ニ涉リ上告ノ原由トナルモノニアラス又渡邊萬助石橋富吉チ喚問セサリシハ越權ノ處分ナリト云フニ在ルモ法律上無効ノ記載ナキ規則ニ背キタル場合ニ於テハ異議ノ申立チ爲シ之ヲ認可セラレサル時ニアラサレハ上告チ爲スチ得サル事治罪法第四百十條第四項末段ノ如クナリ然リ而シテ新ナル證人チ喚問スルハ裁判所ニ於テ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ナル事治罪法第三百五十七條法文ノ如クナルヲ以テ裁判所ニ於テ必用ナリトセサル時之ヲ喚問セサルハ當然ノ職權ニシテ上告ノ趣旨ハ一モ法律ニ定メタル原由ニアラサルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千八十一號

判文(官職詐稱)同 明治十七年三月廿二日上告
 年十一月廿一日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡持田村士族
 無職業

和久 和正

同縣同國下浮穴郡露峯村平民農
 明治十七年三月十九年七月

業

若谷繁次郎

明治十七年三月十六日

明治十七年三月一日松山輕罪裁判所ニ於テ右和正外一名カ官職詐稱ノ被告事件ヲ審判シ其所爲ハ全ク一時ノ戯ニ出テ罪トナラサルモノトシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪放免スト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ原裁判所檢事谷新助ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ法律上罰スヘキ所爲即チ犯罪ヲ構造セシニハ惡意行爲ノ二條件ヲ具備スルヲ要スルハ普通ノ原則ナリト雖モ刑法第二百三十二條ニ列記スル諸件ノ如キハ官民ノ秩序ヲ紊亂シ政府ノ公權ヲ侵害スルモノナルヲ以テ必スモ是ノ原則ニ拘ハルヲ得サルニ原裁判所ハ被告等ノ行爲ハ一時ノ戯ニ出タル者ト云フ其内心ノ企圖如何ニヨリ法律ニ問フト否トナ區別シ無罪放免シタルハ越權ノ處分ナリト云フニアリ

對手人被告和正外一名ハ原裁判至當ナル旨答辯シ且ツ檢察官上告主趣書ニ記載シアル年齡ニ相違アル旨陳辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
本案上告ノ趣旨ハ一時ノ戯レニ出テタル所爲ナルモ之ヲ處刑セサルヘカラスト云フニアリ
案スルニ刑法第二百三十二條ハ公然官職位階ヲ詐稱スル場合ヲ云フ者ニシテ一時ノ戯レニ出タル所爲即チ本件事實ノ如キ場合ヲ云フモノニアラス故ニ原裁判所カ之ニ對シ無罪ノ言渡シヲ爲シタルハ相當ノ處斷ニシテ上告却テ其當ヲ得サルモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千八十二號

判文(毆傷) 明治十七年三月十三日上告
同 年十一月廿一日發付

兵庫縣播磨國飾西郡山畑新田平

民米商

苦爪芳太郎

明治十七年三月十九日

右芳太郎カ被告事件ニ付明治十七年三月三日神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ被告ハ明治十七年一月十八日今宿村井上庄助方ニ於テ加藤福太郎ト口論ノ末中村宇吉ト共ニ板又ハ手ヲ以テ福太郎ノ手足ヲ毆テ負傷セシメ二十日ニ至ラサル時間疾病休業ニ至ラシメタル者ト判定シ刑法第三百一條第二項同第三百五條ニ依リ重傷ノ刑ニ一等ヲ減シ尙同第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮二十日ニ處スト言渡シタリ被告人ハ此裁判ニ服セス上告セル要領ハ被告ハ本年一月十八日井上庄助方ヘ白米賣ニ參リシ際豫テ惡意ナル中村宇吉ト飲酒シタルモ當時加藤福太郎ト口論ニ及ヒシヲナキハ勿論同人ハ何者タルヲ知ラス又宇吉カ福太郎ヲ毆テ負傷セシメタルヲ知ラサリシ者ナルニ有罪ノ裁判ヲ與ヘシハ所謂推測ニ出テ不服ナルヲ以テ更ニ無罪ノ言渡シアラソク求ムト云フニ在リ
對手人檢事補宮地直親ハ本案上告ハ事實上ニ涉ルヲ以テ速カニ棄却セラレヘキモノト思料スル旨答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事堀田正忠ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ論旨タルヤ井上庄助方へ白米賣ニ參リシ際豫テ惡意ナル中村宇吉ト飲酒シタルモ當時加藤福太郎ト口論ニ及ヒシヲナキハ勿論同人ハ何者タルヲ知ラス又宇吉カ福太郎ヲ毆テ負傷セシメタルヲモ知ラサリシニ有罪ノ裁判ヲ與ヘラレシハ不服ナリト云フニ在リテ徒ニ原裁判官カ判定セシ事實上ニ立入り其當否ヲ論難スルニ止マリ原裁判ハ毫モ不法ト認ムヘキ廉アルニアラサレハ上告ノ原由ナキ者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千八十三號

判文〔毆傷〕同 明治十七年二月廿三日上告 年十一月廿一日發付

山口縣周防國吉敷郡陶村平民

上 田 榮 吉

明治十七年二月 四十四年六月生

明治十七年二月二日山口輕罪裁判所ニ於テ右榮吉ハ毆打創傷ノ罪アルモノトシ刑法第三百一條第二項ニ照シ重禁錮五月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補別府惠人ハ上告ヲ爲シタリ其要旨原判文中有合セノ枝木ヲ以テ同人ノ左額ヲ毆打創傷シ爲メニ二十日ニ滿タサル時間疾病ニ至ラシメ云々又右所爲ハ刑法第三百一條第二項ニ該ル云々トアルモ裁判官ニ於テ二十日ニ滿タサル時間疾病ニ至ラシメタルモノトハ何ニ據テ之ヲ認メラレタルカ一ツモ疾病休業ニ至ラシメタリト認ムヘキモノナケレハ原裁判ハ事實及擬律ノ錯誤ヲ爲シタルモノナレハ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人上田榮吉ハ檢察官ノ上告趣旨ヲ答駁シ併テ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要領抑陰曆明治十六年十二月一日營業上ニテ原田杵太郎方へ滯泊セシ際同日岡崎菊次郎等ト商業方法示談ヨリ遂ニ爭論ヲ生シタリシカ俄然菊次郎ハ被告ニ對シ何故予カ額ヲ毆打セシカト不實ノ申掛ケヲ爲スニ驚キ這ハ必ス金員ヲ欺取セントノ手段ナラント思惟シ直チニ被告ハ其旨ヲ警察署へ届出テタリ此事實ハ原屋貫七等ノ證言ニ依テ明カナレハ原裁判ハ事實調査ノ錯誤ニ出テタルモノナリト云フニアリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ以テ判決スル左ノ如シ
原檢察官上告ノ理由トスル所ハ原判文中有合ノ枝木ヲ以テ同人ノ左額ヲ毆打創傷シ二十日ニ滿タサル時間疾病ニ至ラシメ云々又刑法第三百一條第二項ニ該ル云々トアルモ裁判官ニ於テ何ニ據テ二十日ニ滿タサル時間疾病ニ至ラシメタリト認メタルヤ毫モ疾病休業ニ至ラシメタリト認ムヘキモノナケレハ原裁判ハ事實及擬律ヲ錯誤セシモノナリト云フニアリ
因テ茲ニ訴訟書類ヲ檢閱スルニ其證憑詳カナラサルヲ以テ果シテ疾病休業ニ至ラシメタリヤ否ヲ鑑査スルニ由ナシ即チ原檢察官上告論旨ノ如ク原裁判ハ治罪法第四百十條第十一項ニ相當スル越權ノ處分ヲ免レサル不法ノ裁判ナリトス又被告榮吉カ附帶上告ノ主旨ハ菊次郎ヨリ毆打シタリト不實ノ申掛ケ受ケタリト云フニ過キスシテ全ク裁判官ノ職權内ニ侵入シ漫リニ事實ノ有無及採證ノ適否ヲ論難スルモノニシテ毫モ治罪法第四百十條各項ニ相當スル上告ノ原由ナキモノトス

右ノ如クナルヲ以テ被告カ附帶上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ原檢察官上

告趣旨ハ適法ノ原由アルニ依リ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ更ニ相當ノ審判ヲ受ケシメンカ爲メ廣島輕罪裁判所へ移スモノナリ

○第四千八十四號

判文〔毆傷〕明治十六年八月十五日上告
同 十七年十一月廿一日發付

岡山縣備中國淺口郡勇崎村平民

山本 三藏

明治十六年七月

五十年九月

右三藏カ被告事件ニ付明治十六年七月七日岡山輕罪裁判所ニ於テ被告ハ養父市三郎ヲ毆傷シタルモノトシ刑法第三百一條第二項第三百六十三條ニ依リ凡人ノ刑ニ二等ヲ加ヘ重禁錮五月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告カ上告爲シタル要領ハ第一被告ハ明治十五年十月七日居村ニ於テ養父市三郎ヲ毆傷シタルモノト判定セラレタリト雖モ被告ハ明治十五年七月中ヨリ大坂府下ニ在テ酒類請賣ヲ營業致シ居リ明治十五年十月七日日本籍ナル居宅ニ於テ養父市三郎ヲ毆打スル謂ハレナシ然ルニ養父市三郎カ代人ヲ以テ告訴爲シタルト證人酒井音四郎等ノ申立トニ依リ養父市三郎ヲ毆傷シタリト判定セラレタルハ不當ノ裁判ナリ第二明治十五年十月七日ハ被告カ現ニ大坂府下ニ在テ同府南區高津町五番町二十七番地松岡龜次郎ナル者ヨリ金五拾圓ヲ借り受ケタル日ナリ因テ被告カ無罪ヲ證スル爲メ證人トシテ同人ヲ訊問アランコトヲ請求シタルニ之ヲ採用セラレサリシハ越權ノ處分アル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ

同裁判所檢事補樺島鎮八ハ被告上告第一ハ其理由ナク上告第二ハ其理由アルモノ、如シト雖モ裁判所ニ於テ證人トシテ松岡龜次郎ニ對シ呼出狀ヲ發シタルモ不在ニシテ出廷セサルモノナレハ敢テ裁判所ノ處分ニ不當アルモノニ非ラサル旨ヲ以テ答辯ヲ爲シタリ
玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
治罪法第四百十六條ニ（被告人ノ自狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ス）トアリテ諸般ノ徵憑ヲ取捨シ事實ヲ判定スルハ固ヨリ裁判官ノ特權ニシテ其判定シタル事實ニ對シ他ヨリ輕ク之レヲ動カシ得ヘカラサルモノトス今被告カ上告第一趣旨ノ歸スル所ハ即チ原裁判官カ職權ヲ以テナシタル採證方ト事實判定ニ對シテ其當否ヲ非難スルニ止ルヲ以テ治罪法第四百十條外ニ涉ル上告ニシテ其理由ナキモノトス又公判廷ニ於テ裁判官カ被告ノ請求ヲ許スト否トハ是又該官ノ權限内ニ在ルモノナルカ故ニ當時被告カ其請求ヲ採用セラレサリシト云フヲ以テ破毀ノ原由ト爲ス可カラズ況ンヤ檢事ノ答辯書ニ依レハ裁判所ニ於テ被告カ請求ヲ採用シタルモ證人龜次郎カ不在ナルヲ以テ訊問ヲナス能ハサルニ於テチヤ因テ本案第一第二上告ハ其原由ナキヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千八十五號

判文〔正當防衛〕明治十七年三月三日上告
同 年十一月廿一日發付

山梨縣北都留郡巖村平民佐藤景

太郎姉

佐藤

明治十七年二月
二十四年五月

明治十七年二月二日甲府重罪裁判所ニ於テ被告人佐藤「タメ」カ大神田豊ヲ負傷セシメタルハ争論ノ未豊ノ已ニ去リタルヲ追跡シテ之ヲ毆傷シタルニアラス自宅ニ於テ暴行ヲ受ケ自己ノ身體ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得ス鎌ヲ以テ豊ニ負傷セシメ遂ニ死ニ致シタルモノト認定シ刑法第三百十四條ニ依リ無罪且放免スト言渡シタリ原裁判所檢事補若林爲三藏ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲナシタリ其要領ハ凡ソ證據ヲ取捨鑑別シテ事實ヲ認定スルハ素ヨリ裁判官ノ職權ニアリト雖モ更ニ一點ノ見ルヘキ證據ナキニ唯其模様ニ因リ推測ヲ以テ之ヲ認定スルハ法律ノ許サ、ル所ナリ本件被告ノ如キハ正當防衛ニ出テタル證據ナキノミナラス反テ豊カ被告宅ヲ立出テ已ニ一丁程去リタルヲ密ニ追跡シテ突然毆撃シタル事實明瞭ナルニ原裁判所ハ只被告カ口頭ノ陳述ヲ採用シテ輒スク正當防衛ニ出テタルモノト判定シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人被告「タメ」ハ之ニ對シテ答辯セズ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行スルニ立會檢事安藤源五郎ハ原裁判ハ被告ノ陳述ノミニ據テ認定シタルニアラサレハ上告却テ其當ヲ得スト陳述シテ代理人溝口權三郎モ亦上告ノ理由ナキ旨ヲ論辯セリ
因テ玆ニ審案スルニ上告ノ論旨ハ本件被告ノ行爲ハ正當防衛ニ出テタルト見ルヘキ證據ナキニ原裁判所ハ單ニ被告ノ陳述ノミニ根據シ正當防衛ト判定シタルハ不當ノ認定ナリト云

フニ在ルモ原裁判ニ明示スル如ク告訴人大神田平右衛門カ告訴ノ要領平子明誠ノ豫審調書又ハ被害者豊ヨリ反テ私和ヲ求メタル等ノ徵憑アルモノナレハ原裁判ハ被告ノ陳述ノミニ依リタルニ非ラス而シテ一件書類ニ徵スルニ小川定四郎カ豫審又ハ警察署ノ陳述被告ノ舉動ニ付或ハ疑フヘキ所アリトスルモ是等ノ事實ヲ認定スルハ裁判官ノ權内ナレハ他ヨリ論難スルヲ得ス之ヲ要スルニ其認定上越權等不法ノ點アルヲ見サレハ到底上告ノ趣旨不相立者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノ也

○第四千八十六號

判文〔竊盜〕明治十六年九月廿日上告
同 十七年十一月廿一日發付

秋田縣羽後國北秋田郡東大館町
三番地主族

岸

盛

明治十六年六月
三十四年二月

右盛一カ山林竊盜被告事件ニ付明治十六年六月二十二日能代治安裁判所ニ開キタル秋田輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末刑法第三百七十三條第三百七十二條第三百七十六條ニ依リ重禁錮六月ニ處シ八月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告盛一ハ上告ヲ爲シ原檢察官警部補根田忠正ハ附帶上告ヲ爲シタリ而シテ被告ハ該上告取消ヲ請願シ已ニ消滅シタルヲ以テ其趣意ヲ掲ケス附帶上告ノ要領ハ檢證調書ノ如キハ其効力最モ強キモノニシテ該

調書ニ據ル時ハ被告ノ伐採シタル木數ハ三拾本ナル事明確ナリ然ルニ之ヲ貳拾壹本ト判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

被告盛一ハ素ト該樹木タルヤ盜伐ニ非ラサルノミナラス人ヲシテ伐採セシメタルモノナレハ其木數ノ若干ナルヤヲ知ラス然ルニ原判官ハ何ニ依リテ貳拾壹本ト判定セラレシカ畢竟審理不盡ナルニヨリ斯カル附帶ノ上告ヲ惹起スニ至リタル不當ノ裁判ナリトノ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ審理判決スル左ノ如シ

證據ヲ取捨鑑別シテ事實ヲ斷定スルハ治罪法第四百四十六條第二項ニ記載スル如ク承審官ノ職權ニ在テ他ヨリ漫ニ批難ヲ容ル、ヲ得サルモノトス今訴訟書類ヲ檢スルニ檢證調書ニハ三拾本トアルモ證人等ノ陳述スル所ニ依レハ又貳拾本前後ト有テ其木數確然ナラス斯カル場合ニ於テハ專ラ判官ノ心證判斷ニ歸任スヘキハ論ヲ竣タサルモノナレハ之レカ當否ヲ辯難シテ左右スルヲ得サルモノトス因テ該附帶上告ハ其理由ナキヲ以テ相立タサルモノト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四千八十七號

判文(竊盜) 明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月廿一日發付

青森縣陸奥國三ノ戶郡檜崎村平
民惣助二男當時根室縣釧路國白

糖村廣田ヘン方雇人

中 村 岩 松

明治十六年七月
二十三年生月不詳

明治十六年七月三十日厚岸治安裁判所ニ開キタル根室輕罪裁判所ニ於テ右中村岩松カ竊盜被告事件ヲ審判シ犯罪ノ證據充分ナラサルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ照シ無罪放免スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢察官根室縣警部補中俣才二ハ上告ヲ爲シタリ其要領被告入ハ明治十六年七月六日廣田「ミチ」方屋敷内ニ繫キアル青毛馬壹頭并ニ馬具壹組ヲ竊取逃亡シ同月八日取押ヘラレタル者ナルハ被害者ノ告訴狀并ニ一件書類ニ依リ明瞭ナリ然ルチ原裁判官ハ被害者ニ對シ一應ノ審問モ爲サズ單ニ被告人ノ答辯ノミヲ信シ推測ヲ以テ委託ノ馬ニ騎シ濱中地方ニ至リタルニ止リ竊取ノ所爲ナキ者トシ無罪ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ趣旨ハ被告人カ竊盜ノ所爲明瞭ナルニ證據充分ナラストシ無罪ヲ言渡シタルハ不法ナリト云フニ在ルモ證據ノ取捨事實ノ判定ハ裁判官ノ職權ナレハ他ヨリ之ヲ左右スルコトヲ得ス而シテ原裁判官言渡書ヲ閱スルニ裁判官ニ於テ被告人ハ竊カニ受託ノ馬ニ乘リ濱中地方知人ノ許トニ立越シタルニ止リ證據書類中竊取ノ所爲ナキノミナラス曾テ竊取スルノ意思アルヲ見ストノ理由ヲ明示シ無罪ヲ言渡シタル者ナレハ毫モ違法ノ廉アルニ非ラス之ヲ要スルニ上告論旨ハ事實ノ判定ニ對シ其當否ヲ論難スルニ止リ治罪法ニ定メタル上告ノ原由

無者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千八百八號

判文(詐欺取財)明治十七年三月八日上告

同 年十一月廿一日發付

山口縣周防國吉敷郡宮野上村士族無職業

佐波 欽一郎

明治十七年二月
四十四年一月

同縣同國同郡下鄉村士族油絞業

村 田 登一

明治十七年二月
四十四年六月

明治十七年二月九日山口輕罪裁判所ニ於テ右兩名カ被告事件ヲ審判シ欽一郎ハ明治十六年一月ヨリ同年四月ニ至ル間三回詐欺取財ヲ爲シタルモノトシ各刑法第三百九十條第三百九十四條第百條ニ照シ重禁錮四年罰金四拾圓ニ處シ監視一年ヲ附加シ登一ハ委託金費消ノ罪アルモノトシ刑法第三百九十五條第三百九十條第三百九十四條ニ照シ重禁錮二年六月罰金貳拾五圓ニ處シ監視七月ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告兩名ハ上告ヲ爲シタリ被告欽一郎カ上告ノ要旨ハ第一岡龜熊ニ於テ山本彌吉ノ委任ヲ受ケ杉山初太郎カ椿木伐採シ

タルヲ告訴セント掛合タルニ初太郎ハ驚愕シ之レカ仲裁ヲ龜熊ニ依頼シタレハ龜熊ニ於テハ手數金六拾圓ヲ以テ仲裁セント答フルニ依リ初太郎ハ不取敢金三拾圓ヲ龜熊ニ遣シタルモ承引セサルニ依リ被告ハ初太郎ノ爲メ立換金イタシ龜熊ニ遣シ追テ初太郎出金分ヨリ差引タル迄ニテ詐取シタルニ非ラス第二小島源次郎ヨリ若崎次三郎ニ係ル額面金千貳百圓ノ偽造證書取消ノ始末ヲ別府留之助ヨリ被告ニ依頼シ本件落着ノ上ハ成功謝金トシテ金六百圓差出スベシトノ契約ナリ依テ被告ハ次三郎ニ示談ヲ遂ケ證書ハ取消タレハ契約通りノ謝金ハ過當ニ付只貳百九拾圓丈受領シタル而已ニシテ素ヨリ詐取ニ非ラサルハ勿論其餘ノ金額ハ被告ノ關知スル所ニアラス第三小島兵藏ニ於テ源次郎カ金三百圓ヲ取込タルニヨリ被告ハ源次郎ノ代人ト爲リ熟議ノ上現金六拾五圓ヲ請取り直チニ之ヲ源次郎ニ渡シ而シテ五百五拾圓ハ十ヶ年賦トシ其餘ハ取消ノ約ヲ爲シタルモノニシテ毫モ兵藏ヲ欺罔シ金員ヲ詐取シタルモノニ非ラス然ルニ原裁判所カ被告ヲ詐欺取財犯ト認定サレタルハ是レ事實ニ齟齬アル裁判ナリト云ヒ尙辯明書ヲ以テ前意ヲ反覆辯論シタリ被告登一カ上告及ヒ之レカ改正ノ要旨ハ原判文中「小島源次郎カ佐波欽一郎ニ遺ス可キ金三百圓ノ内百圓ヲ矢田磯吉等ヨリ預リ置ナカラ私ニ右金ノ内五拾圓ヲ擅ニ費消シ而シテ其後磯吉等カ貳百圓ヲ調達シ之レニ右預リ置タル百圓ヲ合シテ欽一郎ニ渡サントスルニ際シテ云々遂ニ右費消シタル金五拾圓ヲ騙取シタル事」トアレハ是事實ノ齟齬ナリ如何ントナレハ小島源次郎ヨリ佐波欽一郎ニ可遣金員ハ三百五拾圓ノ封金預リナル所自分仲裁ニ立入五拾圓勘辯ナサシメ其届チ了シタルニ依リ源次郎ヨリ貳拾圓ノ報謝ヲ得タル次第ナレハナリ然シテ外ニ金五拾圓ハ尋常ノ手

續テ以テ矢田磯吉ヨリ借用シタルモ源次郎ノ金員ヲ騙取シタルニアラス然ルニ磯吉ナル者
己レノ欺瞞ヲ覆ハン爲メ虚偽ノ申立ヲ爲シ裁判官亦被告ヲ有罪者トセラレタルハ不法ノ裁
判ニシテ服シ能ハスト云々スルニアリトス

對手人檢事補柴崎尙善ハ被告兩名カ上告趣旨ハ其理ナキ旨答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ以テ之ヲ判決スル左ノ如シ

凡ソ諸般ノ證據ヲ取捨鑑別シ以テ罪ノ有無ヲ判定スルハ法律上裁判官ニ特任スル所ナレハ
漫リニ其職權内ニ侵入シ事實及探證ノ適否ヲ批難スルヲ得サルモノトス本案上告ニオケル
欽一郎ニオイテハ一ハ初太郎ヨリ龜熊へ可遣仲裁金ヲ取次キ二ハ源次郎ヨリ報勞金六百圓
可受取約束ナルチ内貳百九拾圓丈ク受領シ其餘ハ不受取三ハ源次郎ノ爲メ兵藏カ取込金ノ
處分ヲ結了シタル次第ニシテ一モ詐欺騙取ノ行爲ニ涉リタル事ナシト云ヒ登一ニオイテハ
矢田磯吉ヨリノ借用金五拾圓ハ尋常貸借ニシテ騙取シタルニ非ラスト云フニアリテ何レモ
原裁判官カ認メタル事實ヲ否ラストシ既往ニ遡リ其手續ヲ喋々論疏スルニ過キサルモノニ
シテ毫モ治罪法第四百十條ノ項目ニ適當スル原由ナキモノトス依テ同法第四百二十七條ニ
從ヒ上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四千八十九號

明治十七年三月十九日上告
判文〔詐欺取財〕同 年十一月二十一日發付

沖繩縣琉球國眞知志間切安里村
百六十五番地居住士族

瑞慶長 德

明治十七年二月
三十六年一月

明治十七年二月一日沖繩縣裁判掛會議局ニ於テ右瑞慶長徳カ被告事件ノ豫審終結言渡ニ
對スル民事原告人我喜屋宗直カ爲シタル故障ノ申立ヲ審判シ豫審判事補笠原明保カ被告瑞
慶長徳ニ詐欺取財ノ證據ナキヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ毫モ私訴ニ越權ノ處斷アル
ナシ故ニ故障ノ申立ヲ棄却ストノ判決ニ對シ民事原告人我喜屋宗直ハ上告ヲ爲シタリ其趣
旨ハ第一會議局ノ判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタリ抑モ豫審故障ハ初審ノ言渡ニ對スル控訴ニ
於ルト其理由異ナルヲナケレハ其故障全體ノ趣意ニ因リ覆審スヘキモノタルヲ論テ俟タサ
ル所ナリ然ルニ會議局ニ於テ原告カ證據充分ナリト主張スルニモ拘ハラズ其不正ナルヤ否
ノ事實ノ覆審セスシテ輒シ私訴ニ越權ノ處分アルナシ云々ト豫審言渡ヲ認可セラレタルハ
會議局ノ判決甚タ妄斷所謂越權ノ處分ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
原裁判掛檢事補西常央ハ原會議局ノ判決其當ヲ得タル旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
抑モ民事原告人ノ故障ヲ爲スヲ得ルハ治罪法第二百四十六條第二項法文ノ如ク私訴ニ付越
權ノ處分アル時ニ限リトス而シテ豫審ニ在テハ未ダ公訴私訴ト分離セサルヲ以テ豫審判
事豫審ヲ爲スニ當リ越權ノ處分アリテ其越權ノ處分ノ爲メ私訴ニ害ヲ及ホシタル場合ニ於
テハ私訴ニ付越權ノ處分アルモノト認ムルヲ得ヘキモ本件故障ノ趣旨タル印形ヲ比較スル
ノ點及ヒ瑞慶長ト直合ヲ願フノ點等ハ曾テ告訴ニ際シ申立シニアラス又檢察官ヨリ曾

テ審理ヲ求メシニモアラサレハ豫審判事ニ於テ之ヲ審問セサリシモ越權ノ處分ト云フヲ得
ス然レハ上告人ニ於テ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲シ得サルモノニテ會議局ノ判決其當
ヲ得サルモノニアラストス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四千九十九號

判文〔詐欺取財〕明治十七年三月八日上告

年十一月二十一日發付

滋賀縣近江國栗太郡草津村寄留

平民

岩崎定次郎

明治十七年二月

二十五年十一月

明治十七年二月二十日大津輕罪裁判所ニ於テ右定次郎カ被告事件ヲ審判シ被告ノ所爲ハ刑
法第三百九十條ノ未遂罪ト爲シ第三百九十七條及第一百十二條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重禁
錮一年罰金貳拾圓ニ處シ尙ホ第三百九十四條ニ依リ監視十月ニ附スト裁判言渡ヲ爲シタリ
被告定次郎ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シテ曰池田岡藏ノ宅地建家等ハ正當ニ買受ケ
タルモノニテ之ヲ騙取セントシタルニ非ラス故ニ本件ハ岡藏長男辰吉ニ交付シタル該代金
ノ有効ナルヤ否ヤヲ判決スヘキ民事ノ性質ニテ刑事ノ支配ヲ受ヘキモノニアラス然ルニ原
裁判所ハ被害者等ノ陳述ヲ偏信シテ被告ヲ有罪ト判定シタルハ越權ナリト云フニ在リ
對手人原裁判所檢事補岡田巖ハ原裁判適當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ本件上告趣旨ハ其理由ナキヲ
以テ相立タスト雖モ該判文ニ巧言以テ辰吉ヲ欺キ三百貳拾五圓ノ受取證ヲ記セシメ云々ト
アル以上ハ則權利義務ニ關スル證書ヲ騙取スルノ既遂犯ナリ然ルニ原裁判所ハ未遂犯ヲ以
テ處斷シタルハ擬律ノ錯誤タルヲ以テ該裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ言渡シアランヲ望ムト
意見ヲ陳述セリ

因テ茲ニ審案スルニ上告者ハ本件ノ宅地建家等ハ正當ニ買受タルモノニテ犯罪ニアラスト
論疏スト雖モ被告カ犯罪ノ事實ハ原裁判所ニ於テ認定シタル所アレハ之ニ對スル論告ハ相
立タス何トナレハ事實ノ判定ハ裁判官ノ權内ニシテ治罪法第四百十條ニ定メタル項目ニ適
當セサレハナリ然レモ原裁判所カ被告ノ行爲ニ對シ俱ニ登樓ノ愉快ヲ極メ以テ辰吉ノ心ヲ
蕩カシ云々巧言以テ辰吉ヲ欺キ三百貳拾五圓ノ受取證ヲ記セシメ云々ト事實ヲ認定シナカ
ラ未遂犯ヲ以テ處斷シタルハ本院檢事意見ノ如ク擬律錯誤ノ裁判タルヲ免レサルモノトス
因テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡
シヲ爲スヲ左ノ如シ

岩崎定次郎

右ノ理由ナルヲ以テ被告ノ所爲ヲ法律ニ照スニ刑法第三百九十條人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シ
テ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ
處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス同第三百九十四條前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ
タル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ストアルニ該ル依テ其範圍内ニ於テ重禁錮一年罰

金貳拾圓ニ處シ監視十月ヲ附加スル者也

○第四千九十一號

判文〔詐欺取財〕明治十六年八月十七日上告
同 十七年十一月二十一日發付

兵庫縣攝津國神戸區元町通一丁目平民

北 島 富 三

明治十六年七月三十四年

右富三カ被告事件ニ付明治十六年七月九日神戸輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百九十四條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ貳拾圓ノ罰金ヲ附加シ八月ノ監視ニ附スト裁判宣告ヲ爲シタリ被告富三ハ右裁判ヲ不法ナリトシ上告ノ要旨ハ小林八郎兵衛ヨリノ借金ハ尋常貸借ニシテ金圓ヲ詐取セシトハ何ヲ以テ視ル可キヤ原判文ニ其方ノ調書被害者ノ申立トノミアリテ如何ナル理由ナルヤナ示サレサルハ治罪法第三百四條ノ式ニ違フタル裁判ナリ又判文ニ本多貴一代理ノ證書ヲ取替ヘ云々金圓ヲ詐取セシモノト判決ストアリ是レ大ナル誤判ナラン金圓借用ノ當日藤田廣太郎ヲ以テ上告者ノ代理ニ遣シ而シテ廣太郎カ金千七百六拾壹圓ノ預リ證ヲ認メ上告者ヲシテ本多貴一ノ代理ナリト誤認セシヤ其肩書ニ本多貴一代理ト誌セシハ廣太郎ノ誤認ニ出テタル誤記ニシテ上告者カ殊更ニ謀リタルモノニアラサルコト明カナリ凡金圓ヲ貸與フルハ他人ノ代理タル者ト取引キキ爲スニ至テハ必スヤ其本人ノ委任狀ヲ債主之レヲ閱シ其代理ニ相違ナキヲ看認金圓授受ニ着手ス可キハ普通ノ順序ナリ又裁

判言渡書ニ刑法第二百十條ヲ適用セラレタルモ上告者ハ他人ノ證書ヲ偽造シ又ハ増減變換セシモノニアラス管ニ上告者ノ使タル廣太郎ノ誤認ニ止リ上告者カ貴一ノ委任狀證書等ヲ偽造シテ貴一ノ資格ナルコトヲ偽ハリタルニアラス小林八郎兵衛ト上告者ノ間ニ成立タル合意甘諾ノ貸借ニシテ決シテ人ヲ欺罔シ又ハ恐喝セシニモアラス然ルニ有罪ノ言渡シヲ爲シタルハ即チ越權及ヒ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人檢察官檢察補大井田義路ハ被告ノ上告ハ不當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞クニ附帶上告ヲ爲シタリ其要領ハ本件證據ノ內被告ノ陳述被害者ノ申立ハ曾テ公判廷ニ於テ指示セサルモノニシテ越權ノ處分ヲ免レサル裁判ニ付破毀アリタシト開陳セリ因テ判決ヲ爲ス左ノ如シ

本院檢事附帶上告ノ趣旨ニ基キ公判始末書ヲ審閱スルニ被告ニ對シ其被告事件ヲ訊問シタルコトハ記載アルモ被害者ヲ訊問シタルコトアルニアラス又豫審調書等ヲ朗讀シタルニモアラサルニ判文ニ其方ノ調書被害者ノ申立云々ニ依リ小林八郎兵衛ヲ欺キ金圓ヲ詐取シタルモノト認定ストアリ抑モ諸般ノ證據ヲ採擇シテ事實ノ判定ヲ爲スハ原裁判官ノ特權ナリト雖モ其犯罪構造ノ材料ニ供スル證據ハ必ス之ヲ被告ニ示シ其辯解ヲ爲サシムルハ治罪法第三百五十二條第三項ニ規定スル所ナルニ原裁判官ハ上文ノ如ク公判ニ於テ被告ニ示サ、ル證據ヲ掲ク之レカ罪ヲ斷定シタルハ即越權ノ處分ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス已ニ此一點ニテ破毀ノ原由アルモノト決シタル以上ハ被告カ上告論旨ニ對シハ一々説明ヲ要セス右ノ如クナルニ因リ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判

ヲ受ケシメノ爲メ本件ハ大坂輕罪裁判所ニ移スモノナリ

○第四千九十二號

判文(詐欺取財) 明治十六年十月十八日上告
同 十七年十一月二十一日發付

栃木縣下野國下都賀郡安塚村平
民

篠原金三郎
明治十六年九月二十九日

右金三郎カ地所重典賣及冒認被告事件ニ付明治十六年九月二十九日栃木輕罪裁判所ニ於テ
審理ノ未被告カ所爲ハ罪トナラサルモノト判定シ無罪放免スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリ
トシ同裁判所檢事補横田信謹ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ第一被告カ第一ノ所爲即チ小林善
左衛門(地所三筆ヲ書入質ト爲シタルハ二途ニ在リ其一ハ明治十四年二月中ニシテ又其一
ハ明治十五年一月ナルニ之ヲ同一視シテ判文上明治十五年一月三十日右三筆ノ地所云々ト
無形ノ事實ヲ構造シ且善左衛門カ陳述ヲ誤認シ一概ニ其地所ヲ欺隱シテ販賣セシモノト爲
スヲ得スト言渡シタルハ事實ノ理由ヲ齟齬シ及越權ノ處分ニ出タル不法ノ裁判ナリ第二被
告カ第二ノ所爲ノ如キハ假令土地賣買規則ヲ履行セサルモ契約者相互ノ間ニ在テハ其効ア
ルモノナレハ刑法第三百九十三條ノ制裁ヲ免カル可カラサルニ之ヲ正條ナシトシ無罪ヲ言
渡シタルハ擬律ノ錯誤ナリト論告スルニ在リ
對手人被告金三郎ハ之ヲ辨駁シテ原裁判ノ至當ナルコトヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スルコト左ノ如シ
抑モ事實ノ判斷ハ承審官ノ職權内ニ在ルモ架空ノ斷定ハ爲スヲ得サルモノナリ今本件訴訟
書類ヲ查閱スルニ被告カ明治十五年一月三十日ヲ以テ三筆ノ地所ヲ小林善左衛門(書入質
ト爲シタル形蹟ハ更ニ賄ルヘキモルナシ然ルニ原判文ヲ視ルニ(因テ之ヲ審案スルニ明治
十五年一月三十日右三筆ノ地所ヲ積融會社幹事小林善左衛門(書入質ト爲セシコトハ明白ナ
リ云々)トアルモ何等事蹟ニ徵シテ明白ナルヤ其證據ヲ掲ケサレハ之ヲ視ルニ由ナキモ畢
竟上告論旨ノ如ク架空ノ推測ニ出タル不當ノ裁判ナリトス而シテ其第二所爲ノ如キハ原判
文初項ニ(第二ハ云々重ネテ栗原茂七(販賣シタリト云フニ在リ云々)ト公訴ノ趣旨ヲ擧ケ
末項(第二)ノ所爲ハ云々民事ノ償ヒニ過キサルモノトス)ト土地賣買讓與規則ニ就キ理由ヲ
付シタル迄ニテ事實ノ理由ハ毫モ擧示セサルヲ以テ第二ハ如何ナル所爲ト認メシヤ知ルニ
由ナシト雖モ抑モ土地賣買ノ如キハ假令公證ヲ經サルモ其契約者相互ノ間ニ在テハ充分契
約ノ効アルモノニシテ唯他人ニ對シ先取ノ權ナキマテニ過キサレハ其賣買故意ノ重賣ニ係
ル時ハ刑法ノ制裁ヲ免カル可カラサルハ論ヲ俟タス然ルニ該規則ヲ履踐セサレハ其契約ノ
成立セサルモノ、如ク理由ヲ附會シ事實理由ヲ明示セスシテ輒ク斷了シタルハ不法ノ裁判
ナリトス因テ治罪法第四百十條第九項第十一項ニ相當スル事由アルヲ以テ破毀スヘキモノ
ト判定ス故ニ擬律錯誤トノ論旨ニ對シテハ別ニ辯明ヲ要セサルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ據リ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ更ニ審判セ
シムル爲メ水戸輕罪裁判所下妻支廳ニ移ス者也

○第四千九十三號

判文〔詐欺取財未遂〕明治十七年三月十二日上告
同 年十一月二十一日發付

高知縣土佐國土佐郡南新町住士
族無職業

濱 田 美 穎

明治十六年八月
三十二年九月

右美穎カ被告事件ニ付明治十七年二月八日高知輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十六年八月中
淺井喜久吾カ近森鉄馬ニ係リ日割金催促及ヒ預ケ品取戻シノ訴訟事件ニ付高知治安裁判所
ニ證人トシテ出頭シ偽證ヲ爲シタル罪アル者ト認メ刑法第二百二十三條ニ依リ其刑期内ニ
於テ處斷スヘキ所竊ニ重禁錮ノ刑ニ處セラレ再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニ照シ本刑
ニ一等ヲ加ヘ重禁錮三月附加刑罰金八圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告美穎ハ上告
ヲ爲シタリ其趣旨ハ當初淺井喜久吾カ民事訴訟ノ不正ニ出タルヲ知ラス其高知治安裁判所
ヨリ證人トシテ召喚ヲ受クルニ當リテハ其不正ニ出タルヲ知リ眞實ノ陳述ヲ爲サント欲
シタルモ原告人淺井喜久吾トハ兄弟分ノ譯柄ナレハ其情愛ニ於テ默止シ難キ處ヨリ終ニ心
外ナル偽證ヲ爲シタルモノナリ然レモ主犯者喜久吾等カ繫獄ヲ聽クニ及ヒタルヤ相被告西
内金藏ト會シ共ニ自首セント約シテ出頭セシ際ニ巡查ノ引致スル所トナリ直チニ豫審判事
ノ取調ヲ受ケ即時監倉ニ留置セラレタリ抑モ被告カ犯罪ニ付テハ刑法第二百二十六條ニ於
テ此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル者ハ

本刑ヲ免ストアリ然シテ被告カ偽證セシ事件ハ未タ宣告ニ至ラサレハ今ニモ自首スルハ無
罪タルヘキモノナ公判判事ハ其自首スルヤ否ヤニ關セテ刑法第二百二十三條ヲ以テ處斷セ
シハ越權ノ處分ナリ且ツ被告等ハ關係ナキモ主犯者喜久吾等カ二罪俱發中其情狀重キ詐爲
私文書ノ罪ヲ以テセス其輕キ詐欺取財未遂犯ヲ以テ處斷セシハ擬律ノ錯誤ニシテ無効ノ言
渡シナレハ原裁判ハ旁不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

原裁判所檢事補村田穂ハ上告ノ不理ニシテ原裁判ニ破毀ノ原由ナキ旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ

案スルニ上告ノ理由トスル所ハ第一被告カ偽證シタル事件ハ未タ宣告ニ至ラサレハ自首ヲ
爲シ本刑ヲ免セラル、ヤモ計ル可ラサルニ刑ノ言渡シヲ爲シタルハ越權ノ處分ナリ第二淺
井喜久吾カ二罪俱發ニ係ルヲ其情狀重キ詐爲私文書ノ罪ヲ以テセス其輕キ詐欺取財ノ未遂
犯ヲ以テ處斷セシハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在ルモ一件書類ニ徵スレハ被告ハ事已ニ發覺
シ豫審判事ノ取調ヲ受タル者ニシテ未タ曾テ自首シタル事ナケレハ原裁判ノ不當ナルニ非
ラス又淺井喜久吾等カ刑ノ適用ニ至テハ毫モ被告カ犯罪ノ處斷ニ關係スル所ナケレハ以テ
上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス要スル所一モ治罪法第四百十條ニ定メタル各項ノ場合
ニ適應シタル上告ノ原由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノ
ナリ

○第四千九十四號

判文〔詐欺取財及證券印稅規則犯〕明治十七年三月十五日上告
同 年十一月廿一日發付

和歌山縣紀伊國名草郡大谷村平
民質商

藤木音吉

明治十七年二月
十九年六月

明治十七年二月五日和歌山輕罪裁判所ニ於テ右音吉カ詐欺取財及ヒ證券印稅規則違犯ノ被
告事件ヲ審判シ被告ハ澤千代吉ヘ書入質トシタル土地ヲ小畑保松ヘ代金四拾八圓ニ賣買ノ
約定ヲ爲シ右代金ノ内ヲ以テ千代吉方ヘ元利金四拾六圓貳拾貳錢五厘ヲ保松ヨリ辨償セシ
メ其後右地代金ヲ増加シ五拾三圓ト約定シ更ニ殘金六圓七拾七錢五厘ヲ保松ノ代理人ヨ
リ領收シ證券ハ前代價ノ儘更改セズシテ被告自宅ニ持歸リ捺印シ其際印影ニ墨點ヲ付シ之
ヲ保松方ニ渡シ置キ戶長役場ノ公證ヲ遲延ナラシメ而シテ其翌日該地所ヲ更ニ光吉虎楠ヘ賣
渡シ即日戶長ノ公證ヲ受ケ保松方ノ賣買ハ取消シ地代金ハ返還シ約定證書及ヒ地券書換願
正本等ハ印影ヲ塗抹シタリト該墨點ヲ以テ契約解除ノ證據ナリト稱スルハ詐欺取財ノ所爲
ナリト認定シ刑法第三百九十四條ヲ適用シ年十六歲以上二十歲未滿ナルニ付
刑法第八十一條ニ照シ其罪ヲ宥恕シ一等ヲ減シ重禁錮二月ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ監視六
月ニ付ス證券印稅規則違犯ノ點ハ上告ニ係ラサルヲ以テ茲ニ記載セズ但犯罪ノ用ニ供シタル證書ハ沒收ス民事原告人小
畑保松カ請求スル地代金五拾三圓ヲ賠償スヘシト言渡セリ被告音吉ハ右ノ裁判ヲ不法ナリ
トシ上告ヲ爲セリ其要旨ハ原判文ニ(證券ハ前代價ノ儘云々)(該墨點ヲ以テ云々)ト記シ被
告カ地所賣渡證券ノ印影ヲ墨抹シタルハ戶長役場ノ公證ヲ遲延ナラシムルカ爲メニナシタ

ルモノナリ又印影ヲ塗抹シタルノ理由ヲ申供セシハ却テ詐欺ノ手段ノ如ク認定セラレタル
モ其理由ヲ明カニセサルヲ以テ何等ノ事實又ハ證據ニヨリ其心證ヲ資リ有罪ト裁判ヲ下サ
レタルヤ知ルニ由ナシ是レ治罪法第三百四條ニ乖背シタルモノニテ治罪法第四百十條第九
項ニ定メタル上告ノ原由ト確信ス又原判文ニ掲載シアル數箇ノ書面ハ被告カ有罪ナリトノ
證據ニ供スヘキ書面ニアラスシテ却テ賣買ノ契約ヲ解除シタルノ資料ニ供スヘキ書面多々
ナリトス因テ被告ハ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノナルニ詐欺取
財ノ刑ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ニシテ治罪法第四百十條第十項ニ定メタル上告ノ原由ナ
リトス故ニ亦罪ヨリ生スルノ義務ナケレハ地代金五拾三圓ハ民事原告人ニ賠償スヘキノ責
ナキヲ以テ該私訴ノ裁判モ不當ナリ共ニ破毀セラレノコトヲ望ムト云フニアリ

原裁判所檢事補細江勤ハ被告ノ上告不當ナル旨ノ答辯ヲナセリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告第一ノ趣旨ハ事實及ヒ採證ノ理由ヲ明示セスト云フニアレモ原裁判所ニ於テ事實ヲ認
定スル必證ノ材料トナシタル諸般ノ證據ハ判文ニ明載シタル豫甲第一號以下ノ證書及ヒ書
面並ニ證人ノ證言等ナリシ事明白ナレハ其中何々ノ部分ヲ必證ノ資ト爲シタルト一々之ヲ
詳記セサルモ治罪法第三百四條ノ定規ニ違フモノニアラストス上告第二點ハ其諸般ノ證據
ハ却テ被告カ無罪タルヘキ材料多々ナリト云フニアルモ事實ヲ認定スルハ原裁判所ノ特權
ニシテ之ヲ批難シ訴フルモ治罪法ニ定メタル上告ノ原由ニアラサルヲ以テ原裁判ヲ破毀ス
ル原由ト爲スヲ得ス又刑事ノ裁判ヲ破毀スヘキ限ニアラサレハ本案附帶民事ノ裁判失當ナ

ラサルコ勿論ニシテ上告第三點モ相立難シ茲ヲ以テ上告趣旨總テ相立タサルモノト判定シ
治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四千九十五號

判文〔委託物費消〕明治十六年八月十一日上告
同 十七年十一月廿一日發付

山梨縣甲斐國西山梨郡春日町平
民

大久保彦兵衛

明治十六年七月
四十三年

明治十六年七月十四日甲府輕罪裁判所ニ於テ右大久保彦兵衛ハ受寄ノ金圓ヲ費消シタル所
爲アリト判定シ刑法第三百九十五條ニ照シ重禁錮一月二十日ニ處スル旨宣告セリ大久保彦
兵衛ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲナシタル要旨ハ原裁判所ニ於テ被告カ費消シタリトスル金
額ハ小林良兵衛ノ依頼ニヨリ他ニ貸附置キタル者ニシテ費消シタルニ非ラス然ルヲ前記ノ
如ク判定シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官原裁判所檢事補重良三ハ原裁判相當ニシテ上告ノ原由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
證據ノ採擇事實ノ認定ハ原裁判所承審官ノ特權ニシテ越權其他法律ニ背キタル處分アルニ
非ラサル限リハ他ノ左右シ得ヘキ者ニ非ラス本案ノ如キ證人小林亮親外二名ノ證言ニ據リ
事實ヲ認定シ前記ノ如ク判定シタル者ニシテ毫モ不當トナス廉アルコナク上告論旨ハ事實

判定ヲ論難シ覆審ヲ要ムルニ過キスシテ治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ノ原由ナキ
ヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

○第四千九十六號

判文〔無届不參〕明治十七年三月十五日上告
同 年十一月廿一日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡味酒村土族

野原正英

年齡不詳

明治十七年二月二十日松山治安裁判所ニ於テ右正英ハ明治十七年二月二十日午前第九時出
頭スヘキ筈ノ處無届不參スルヲ以テ明治十五年第五號及ヒ明治十四年第七十二號公布ニ照
シ罰金八圓ニ處スト言渡シタリ被告正英ハ右言渡シテ不當ナリトシ上告セリ其要領タルヤ
被告ハ呼出當日病氣ニシテ出頭スル能ハサリシヲ以テ呼出時刻ニ先チ日延願書ヲ捧呈シタ
ルニ當日午後ニ至リ該願書ニ何等ノ指令ヲ付セスシテ却下セルノミナラス突然罰金ノ言渡
シテ送達セラレタルハ實ニ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人松山輕罪裁判所檢事補林義方ハ之ニ對スル答辯ニ併セテ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其要
領ハ被告カ提供スル第二號證ニ依レハ呼出當日不參届ヲ爲シタル者トハ見做シ得ヘキモ出
頭刻限即チ午前第九時迄ニ届出サル限リハ明治十年第五號公布ノ制裁ヲ免カルコト能ハス
ト雖モ被告ハ該日無届不參セシニ非ラス刻限後届出ヲ爲シタルモノナル事ハ第二號證ニテ
判然タリ然ルニ同治安裁判所ニ於テ被告ヲ無届不參セシ者トナシ罰金ヲ言渡シタルハ事實

ノ理由齟齬セリト云フニ在リ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 本案上告并ニ附帶ノ上告ニ付一件書類ヲ調査シ之ヲ審案スルニ上告者カ提供スル日延願書
 ハ果シテ呼出刻限マテニ原裁判所へ提供シタルヤ否ヤハ他ニ見ルヘキモノナシト雖モ當日
 出勤時間ニ之ヲ提供セシ事ハ出頭名刺ニ當該官吏ノ認印セシヲ以テ明確ナリトス然レハ之
 ナ無届不參ト云フヲ得サルハ勿論ナルニ原裁判所ニ於テ前記ノ言渡書ヲ送達シタルハ越權
 ノ處分ニシテ治罪法第四百十條第十一項ニ相當スル破毀ノ原由アリトス
 因テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ移
 シ審判セシムルモノ也

○第四千九十七號

判文〔證券印稅規則犯〕明治十六年八月十八日上告
 同 十七年十一月廿一日發付

茨城縣常陸國東那賀郡戶崎村平
 民農業

寺門 忠右衛門

明治十六年七月
 四十三年

茨城縣常陸國東那賀郡戶崎村平
 民農業

寺門 新四郎

明治十六年七月
 六十年

茨城縣常陸國東那賀郡戶崎村平
 民農業

田口 茂平

明治十六年七月
 六十年

右忠右衛門新四郎茂平カ被告事件ニ付明治十六年七月十六日水戸輕罪裁判所ニ於テ審理ノ
 未證券印紙ヲ貼用セサル證書二通ヲ授受シタル事實アリト認メ同則第四則第二條ニ依リ忠
 右衛門新四郎ヲ脫稅高拾錢ノ貳拾倍各貳圓ノ罰金ニ處シ茂平ハ同第九條ニ依リ五拾錢ノ科
 料ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス各上告シタリ其要領ハ被告人共ニ於テハ金高五拾四圓
 ノ證書一通ヲ鴨志田孝之介鴨志田定七へ差入レタルモノナルニ孝之介等ハ證文二通ナリト
 シ之カ金圓要求ヲ願出テタルモノナルニ原裁判所ハ其事實辯明セシモ關セス輒ク二通ナ
 リト斷定シ證券印稅違犯ノ罰金及ヒ科料ヲ科セテレタルハ不當ナリト云ヒ破毀ヲ要請セリ
 大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ之ヲ審案スルニ
 上告ノ理由トスル所ニ通ノ證書ニアラス一通ノ證書ナルコ之カ事實ニ反シ處罰セラレタル
 ハ不當ナリト云フニアリト雖モ原裁判所カ正當ノ成規ニ從ヒ各個ノ證憑ヲ取捨シ認定シタ
 ル事實ニ對シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ原由トナスヲ得ス何ントナレハ治罪
 法第四百十條ニ上告ヲ爲スヲ得ヘキ場合ヲ定メタル第一ヨリ第十一ニ至ル明文ニ適合セ
 サル訴旨ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タサルモノト判定シ治罪法第四百二十七條ニ依リ

本案上告ヲ棄却スル者也

○第四千九十八號

判文〔證券印稅規則犯〕明治十六年八月十七日上告
同 十七年十一月二十一日發付

大坂府東區備後町四丁目四番地
第七十三國立銀行支店支配人

淺見 孝三郎

明治十六年六月
四十四年

明治十六年六月二十七日大坂輕罪裁判所ニ於テ右孝三郎ハ金八百圓借用證書ニ證券印紙ヲ貼用セテ受取タル者ト認定シ證券印稅規則第四則第二條及ヒ明治十四年第七十二號布告第三條ニ依リ脫稅高入拾錢ノ拾倍罰金八圓ニ處スト裁判言渡シタリ被告孝三郎ハ右裁判ヲ不法ナリトシ上告ノ要旨ハ被告カ河口淳ヨリ金八百圓ノ借用證書ヲ受領セシ際無印紙ナリシカ後日違則ノ義ヲ覺知シ受取主則チ上告人ニ於テ相當印紙ヲ貼付シテ自カラ之ニ消印シ大坂始審裁判所民事課へ貸金請求ノ訴訟ヲ爲シタリ故ニ本案ノ如キハ脫稅セシモノニ之レナク受取主ニ於テ違則未發ニ相當印紙ヲ貼用消印セシニ依リ脫稅ヲ以テ論スヘキモノニ非ラズ又同規則第五則第十二條ニ受取主ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用シ調印濟ノ上ハ取揚ケ裁判可致事トアリ尙ホ同則第十三條第十四條ニモ受取主ニ於テ貼用消印スルコトヲ公許セラレタルハ罰セラルヘキ理由ナシト云フニ在リ
檢察官檢事補水村完作ハ被告ノ上告ハ不當ニシテ原裁判允當ナリト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
被告カ上告ノ理由トスル所ハ證券印紙ヲ貼用セサル證書ヲ受取タルモ受取主ニ於テ貼用消印セシニ依リ違則ニアラスト云フト雖モ證券印稅規則ニ依リ印紙ヲ貼用シテ授受スヘキ證書ハ其授受ノ當時必ズ貼用セサルヘカラス若シ之レカ貼用ヲ爲サル時ハ即チ犯則ノ罪ハ已ニ成立タルモノナルニ因リ縱令後日受取主ニ於テ貼用消印スルモ其犯則ノ罪ハ消滅スヘキモノニアラス同則第五則第十二條ハ民事上取揚ケ裁判ニ及フヘキ事ヲ示シタルモノニシテ其犯則ヲ免スヘシトノ法條ニアラサルヲ以テ原裁判所カ證券印稅規則第四則第二條ニ照シ罰金ヲ科シタルハ適當ノ裁判ナルニ依リ上告ノ趣旨ハ相立タサルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也

○第四千九十九號

判文〔地券裏書願書偽造〕明治十七年十月十三日上告
同 年十一月二十一日發付

新潟縣越後國中頸城郡拂澤村平

民農業

大坪 忠左衛門

明治十六年十二月
五十三年

右忠左衛門カ地券裏書願書ヲ偽造シタル被告事件ニ付新潟輕罪裁判所會議局ニ於テ爲シタル判決ヲ不當ナリトシ民事原告人松井謙治ニ於テ上告ヲ爲シタル末本院ニ於テ審理ノ上明治十七年十月四日上告人及ヒ代言人カ論告スル所ハ要スルニ承審官ノ職權内ニ屬スル事實
五二七

ノ判定ヲ論難シ又ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル說ニ過キスシテ一モ上告正當ノ原由ナキ者ト判定シ治罪法第四百二十七條ニ基キ棄却ノ言渡シヲナシタル所松井謙治代理人高梨哲四郎ハ右ノ言渡ニ對シ哀訴ヲナシタリ其要領ハ上告代理人ハ原裁判所會議局ノ判官カ論地ノ所有權彼我何レニ屬スルヤナ判定シタルハ民事裁判所ノ權限ヲ侵シタルモノニシテ越權ナリト論シ之ヲ上告ノ一原由トナシタリシニ本院ニ於テ此點ニ對シ何等ノ判決ヲ爲サ、リシハ治罪法第四百三十六條第二項ニ相當スル哀訴ノ原由アリ又本院カ原會議局ノ判決ヲ認可シ上告ヲ棄却スルニ方リ其宣告書中ニ前段ニ於テ上告人ヲ始メ上告代理人ノ論旨ハ總テ採用スヘカラサルコトヲ掲ケ其末段ニ至リテ俄ニ原會議局ノ判決ハ私訴ノ判決ト見做スヘキモノニアラスト明記セラレタルハ前後ノ理由齟齬セルモノニシテ治罪法第四百三十六條第三項ニ相當スル哀訴ノ原由アリト云フニ在リ

茲ニ治罪法第四百三十七條末項ニ依リ同第四百二十五條ノ法式ヲ履行スルニ代理人高梨哲四郎ハ前訴旨ヲ擴張辯論シ立會檢事加納久宜ハ之カ意見ヲ陳述セリ依テ審案スルニ本件哀訴ノ趣旨ハ前題ノ如ク二點ニシテ其第二點ハ本院ノ判文中二箇ノ條件齟齬セリト云フニ在レ其判文前段ニハ上告本人ノ論告スル所ハ事實承審官ノ職權ヲ以テ爲シタル事實ノ認定ヲ非難スルニ過キス又代理人カ原判文ニ越權ノ處分アリト云ヒ或ハ會議局ノ判決ニ對シテハ民事原告人モ總テ上告ヲ爲シ得ル等ノ辯論ニ對シ法律ヲ誤解シタルモノニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ辯明シ其末段ニハ代理人カ原會議局ニ於テ刑事ノ裁判ニ先チ私訴ノ裁判ヲナシタリトノ點ニ對シ原判文ハ私訴ノ判決ト見做スヘキモノニアラスト辯明ヲ付シタルモノナ

レハ要スルニ上告ノ論旨即チ申立タル條件ニ付一々判決ヲ爲シタルモノニシテ毫モ前後ノ理由齟齬シタルニアラスト然レ其第一點タル刑事裁判官カ地所ノ所有權ヲ判定シタルハ越權ナリトノ辯論ハ當時代理人カ法廷ニ於テ辯論セシ所タレハ此點ニ對シ本院カ何等ノ辯明ヲ付セサリシハ全ク脫漏セルモノニシテ即チ治罪法第四百三十六條第二項ニ適當スル哀訴ノ原由アルモノトス依テ此點ニ基キ更ニ原判文ヲ審閱スルニ前是ヲ事實ニ徵スルニ右地所タルヤ舊ト被告ノ所有ナリシモ曾テ亡田鹿貞八方へ質ニ入レ終ニ流地トナリタルニ付明治七年爾來貞八へ受戻ノ示談相整ヒ云々爾來被告カ進退致シ來リタルモノニシテ本來被告ノ所有タル地所ナレハ質ニ離縁後ハ直チニ被告名前ニ引直スヘキハ正當ニシテ云々トアリテ原會議局ハ被告事件ノ判決ヲ爲スニ先チ地所ノ所有權ヲ判決セシト雖モ凡ソ刑事ノ裁判ハ被告ノ所爲惡意ニ出テ而シテ他人ニ害ヲ加ヘシヤ否ヤナ判定スヘキモノニシテ本件ノ如キ地所ノ所有權ヲ論定スヘキモノニアラスト然ルニ原會議局ハ彼我相爭フ所有權ヲ論定シ而シテ刑事ノ裁判ヲ與ヘタルハ是則チ民事裁判所ノ權限ヲ侵シタルモノニシテ治罪法第四百十條第十一項ニ適當スル破毀ノ原由アリトス故ニ其他ノ上告點ニ對シテハ曩キニ辯明ヲ與ヘ置キタレレ此越權處分ノ點ニ依リ治罪法第四百二十八條ニ基キ原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ適當ノ判決ヲ受ケシメンカ爲メ長野輕罪裁判所會議局ニ移スモノナリ

○第四百百號

判文(酒造稅則犯) 明治十七年三月二十一日上告
 同 年十一月二十一日發付

新潟縣佐渡國雜多郡相川下戸町

平民糶室營業

山田金太郎

明治十七年二月
二十三年五月

代人同人實父

山田篤三郎

五三〇

明治十七年二月二十六日新潟輕罪裁判所相川支廳ニ於テ右金太郎カ酒造稅則違犯ノ被告事
 件ヲ審判シ被告ハ免許鑑札ヲ受ケヌシテ明治十六年一月ヨリ七月マテノ間都合五度ニ濁酒
 三斗四升同年十月ヨリ十二月マテノ間兩度ニ同壹斗四升ヲ釀造シ内三斗貳升ヲ代金壹圓九
 拾貳錢ニ賣捌キ四升ヲ自用ニ消費シ壹斗貳升ハ現在スルモノト認メ酒造稅則第四章第二十
 九條同則第一章第二條第三條及ヒ明治十五年第六十一號公布改正第三條ニ照シ現在スル濁
 酒壹斗貳升ハ勿論製造諸器械ヲモ沒收シ免許稅額貳倍ノ金額則チ罰金六拾圓ヲ科シ仍ホ賣
 捌キタル濁酒三斗貳升ハ改正稅則施行以前ノ密造ニ係ルヲ以テ右石數ニ相當スル造石稅三
 倍ノ金員即チ壹圓九拾貳錢ノ科料ニ處シ其代金壹圓九拾貳錢ヲ追徵スト言渡シタル裁判ニ
 擬律ノ錯誤アリトシ原裁判所檢事補中山一二ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ被告カ免許鑑札ヲ受
 ケス釀造シタル濁酒ノ總石數四斗八升ノ内三斗四升ハ明治十六年九月三十日以前ノ釀造ニ
 テ明治十五年第六十一號公布改正稅則第三條施行以前ニ係ルヲ以テ舊則ニ依リ壹石貳圓ノ
 割ヲ以テ造石稅六拾八錢ノ三倍金貳圓四錢ヲ科シ仍ホ同年十月以後ノ造石壹斗四升ノ造石
 稅金五拾六錢ノ三倍壹圓六拾八錢ヲ科シ仍ホ賣代金壹圓九拾貳錢五厘ヲ追徵スヘキ所原裁

判所ハ賣捌キタル石數濁酒三斗貳升而已造石稅壹圓九拾貳錢ヲ科シ其餘ノ造石壹斗四升ニ
 造石稅ヲ科セサルハ不當ナリト云フノ趣旨ヲ論告スルニ在リ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
 本案上告ノ主旨ハ現ニ賣捌キタル濁酒三斗貳升ノ造石稅三倍ノ罰金ヲ科シタルノミニテ其
 餘ノ造石壹斗四升ニ造石稅三倍ノ罰金ヲ科セサルハ不法ナリト云フニ在ルモ稅則第二十九
 條ニハ之ヲ賣捌キタル者ハ其石類ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ併セ科スヘシトアルノミ
 ナレハ其賣捌カサル酒類ニマテ造石稅三倍ノ罰金ヲ科スヘカラサルヤ明ケシ因テ原裁判所
 カ賣捌キタル分ノミニ三倍ノ罰金ヲ科シ其賣捌カサルモノニ之ヲ科サ、リシハ適當ノ裁判
 ニシテ上告ノ趣旨ハ相立タサルモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之ヲ棄却スル者ナリ
 ○第四百一號

判文(賣藥規則犯) 明治十六年九月一日上告
 同 十七年十一月二十一日發付

福島縣岩代國耶麻郡鹽川村平民
 齋藤太三郎

齋藤太三郎

明治十六年八月
 五十二年十一月

明治十六年八月三日福島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ右被告太三郎ハ賣藥規則及ヒ賣藥印稅
 規則違犯ノ罪アリトシ賣藥規則第二十三條ニ照シ製藥及ヒ賣得金ヲ沒收シ罰金百貳拾五圓

五三一

ト賣藥印紙稅規則第五條ニ依リ罰金貳圓ニ處スト裁判宣告ヲ爲シタリ被告太三郎ハ右裁判
 ナ不法ナリトシ上告ノ要旨ハ被告ハ私利ヲ營ムノ念アルニ非ラス免許鑑札ヲ受ケ發賣致ス
 ヘキノ目的ナルモ老父連年ノ持病臥褥ヲ常トスルニ當リ看護上ニ心ヲ委ネ成規ノ通り製藥
 現品ヲ添へ出願ノ違ナク終ニ能書等モ完全セサルニ因リ出願延引他出ノ折家内ノ者誤テ販
 賣致シ候而シテ光明膏飯牌湯ノ二劑ハ販賣セサルノミナラス光明膏ノ如キハ伊勢國四日市
 鈴木勘三郎ヨリ買得シ數年ヲ經過セシ故其功能ヲ試ミント火ニ煖メ店ニ展列シ置キタル所
 御檢査ニ際シ父ノ死亡後悲痛ノ餘リ神經錯亂シ自製ノ旨申上タルハ過誤ニシテ飯牌湯ハ亡
 父藤次郎自用ノ爲メ製造致シタルニ止リ毫モ販賣致サ、ル義ニ付刑法第八十九條ヲ適用セ
 ラレ酌量減輕相成ヘキニ輕減セサルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人檢察官檢事補加藤秀男ハ被告上告ハ不當ナリト答辯セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
 被告カ上告ノ要旨ハ上文ノ如ク原裁判官カ酌量減輕ヲ與ヘサルハ不當ナリト云フト雖モ刑
 法第八十九條ニ依リ酌量減輕スルト否トハ原裁判官ノ特有スル職權ナレハ縱令減輕ヲ與ヘ
 サルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スナ得ヘカラサルモノトス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四百百二號

判文〔酒造稅則犯〕明治十七年三月三日上告
 同 年十一月二十一日發付

高知縣土佐國安藝郡安藝村原籍

現今同郡井ノ口村寄留平民酒造
 營業

小 松 忠 太

明治十七年二月
 三十四年

右忠太カ酒造稅則違犯ノ被告事件ニ付明治十七年二月七日高知輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明
 治十七年一月十四日酒造檢査ノ際元ト六石九合醪拾八石九斗五合清酒拾壹石七斗九升貳合
 合計三拾六石七斗六合ヲ隱蔽シ且ツ造器械桶等拾六箇ヲ檢査ヲ受ケヌシテ使用シタル事實
 アルモノト認メ其酒類ヲ隱蔽シタルハ明治十三年第四十號公布酒造稅則第三十二條ニ依リ
 同第三條ニ照シ隱蔽シタル酒類三拾六石七斗六合ニ相當スル造石稅ノ三倍即四百拾圓四
 拾七錢貳厘ノ罰金ニ處シ檢査ヲ受ケサル酒造器械ヲ使用シタルハ同上稅則改正第二十條第
 一項及ヒ同稅則第三十五條改正第二項ニ照シ罰金五圓ニ處シ仍ホ該桶等ヲ沒收スト言渡シ
 タル裁判ニ服セス被告忠太ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ニ於テ清酒拾壹石七斗九升貳合
 ハ隱蔽セシモ他ノ元六石九合并ニ醪拾八石九斗五合ハ則小川榮太ノ所有ニ係リ被告カ關係
 シタルモノニアラス其證據ハ右榮太カ明治十七年一月二十三日高知輕罪裁判所檢事局ニ自
 首ナシタルヲ以テ明白ナリ又宣告文中ニ酒造器械拾六箇檢査ヲ受ケヌシテ使用シタル云々
 トアルモ被告カ隱蔽シタル桶ハ則清酒拾壹石七斗九升貳合ヲ入レ置タル壹箇ニシテ拾六箇
 ニアラサルナリ仍ホ一步ヲ讓リ小川榮太カ隱蔽シタル桶ヲ合スルモ拾貳箇ナリ是レ審理不
 盡ノ爲メニ來シタル誤謬ノ裁判ナリト云ヒ尙ホ辯駁書ヲ提供シテ原檢察官ノ答辯ヲ駁撃シ

且ツ被告カ疑キニ差出シタル手續書ハ其當日正忒錯亂シテ検査官ノ指揮ニノミ依リタルモノナレハ眞正ノ證據トナスニ足ラスト云ヒ前趣旨ヲ擴張シテ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

原檢察官檢事補市口吉亨ハ原裁判至當ニシテ上告ノ不理ナル旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
本案上告ノ趣旨トスル所ヲ案スルニ原裁判官カ未ダ曾テ認メサル所ノ事實ヲ論述シテ更ニ事實ノ覆審ヲ求ムルニ外ナラス抑モ刑事ノ上告ヲ爲スヲ得ルハ治罪法第四百十條ニ定メタル各項ノ場合ニ適應シタルモノニ限レリトス然ルニ被告カ論告スル所ハ一モ其場合ニ適應シタル訴旨無之ヲ以テ上告ノ原由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四百三號

判文〔煙草稅則犯〕明治十六年十月四日上告

同十七年十一月廿一日發付

青森縣陸奥國中津輕郡弘前新町

士族商

長尾 忠雄

明治十六年九月
四十二年

右忠雄カ煙草稅則違犯被告事件ニ付明治十六年九月十二日弘前輕罪裁判所ニ於テ明治十五年第六十三號布告煙草稅則第二十一條及第二十八條ニ依リ五圓ノ罰金ニ處シ犯罪ニ係ル煙

草九箇ハ沒收スト言渡シタル裁判ニ對シ被告忠雄ハ上告ヲ爲シタリ其要點ハ該煙草タルヤ改定稅則施行以前ヨリ裝置持越シニ係ルヲ以テ明治十六年第十八號布達ニ依リ相當印紙ヲ以テ結束シタルモノナレハ假令住所ヲ記載セサルモ氏名ヲ付記シタルヲ以テ犯則ニ非ラサルモノナルニ前記ノ如ク處斷セラレタルハ不當ナリト論告スルニ在リ原檢事補關達造ハ原裁判至當ニシテ上告ノ非理ナルヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ臨席檢事澄川拙三ノ意見及附帶上告ヲ聽クニ本案ヲ斷セントスルニハ先ツ被告ノ職業ハ煙草製造人ナルヤ將々仲買人小賣人ナルカ又其犯則ニ係ル煙草ハ新稅則施行前ヨリ裝置ノ儘所持シタル者ナルヤ否ヤノ事實ヲ審究セサル可カラス今其理由ヲ詳述センニ被告ハ製造人ニシテ裝置煙草ニ住所氏名ヲ附記セサル者ナルニ於テハ原裁判固ヨリ適當ナルモ若シ仲買人小賣人ナルニ於テハ更ニ左ノ區別ヲ爲サル可カラズ第一其犯則ニ係ル煙草ハ其稅則施行前ヨリ裝置セサル儘ニテ所持シタル者ナルニ於テモ亦原裁判ノ擬律適當ナルモ若シ裝置ノ儘稅則施行前ヨリ所持シタル場合ニ於テハ被告人上告論旨ノ如ク之ヲ罰スルヲ得サルモノナリ何トナレハ明治十六年太政官第十八號布達第二項ニ於テ裝置ノ儘買捌クヲ得トアリテ住所氏名ヲ附記スヘシトノ規定アレサルヲ以テナリ第二若シ又新稅則施行ニ所持シタル煙草ナルニ於テハ其拾収ノ崩シ煙草ヲ裝置シタルハ是レ製造鑑札ヲ所持セスシテ製造權ヲ侵シタル者ナレハ稅則第三十四條ニ照シテ處斷セサル可カラス夫レ如此事實ノ差異ニ因テ擬律ニ徑庭ヲ生スル者ナルニモ拘ハラズ原裁判所ハ漫然該事實ヲ不問ニ措キ稅則第二十八條ヲ適用シタルハ是レ治罪法第二百四條ノ規定ニ背

キタル不法ノ裁判ニシテ擬律ノ當否モ亦隨テ監査スルニ由ナシ因テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト陳辯セリ爰ニ之ヲ審理判決スル左ノ如シ

抑モ本案即チ煙草稅則違犯事件ノ如キ刑ノ言渡ヲ爲スニ該テハ最モ法律適用ニ徑庭ヲ生スル者ナレハ先ツ其營業ノ種類ヲ炳カニシテ犯罪ノ事實ヲ明示スヘキハ當然ナリ是治罪法第三百四條ノ設ケアル所以ナリ今原判文ヲ查スルニ(被告長尾忠雄ハ明治十六年八月二十二日量目拾叟ノ崩煙草九箇ニ姓名ノミヲ記シ住所ヲ付記セサル事實ハ云々ニ依リ明灼ナリ)トノミアリテ其營業種類ヲ示サ、ル而已ナラス該九箇ノ煙草ハ被告ノ製造裝置シタル者ナル乎將タ上告論旨ノ如ク改定稅則實施以前ヨリ所持シタルモノナルヤ又實施以後ニ於テ買得所持シタルモノナルヤ一モ是等ノ事實ハ掲載セサルヲ以テ視ルニ由ナク假令製造者ニ非ラサルモ果シテ上告論旨ノ如ク持越シノ煙草ナリトセハ明治十六年太政官第十八號布達第一項ニ煙草仲買人小賣人ニシテ云々貼用スルヲ得但此場合ニ於テハ云々稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記スヘシト在ルヲ以テ原裁判所カ稅則第二十一條第三十八條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナルモ若シ又被告ハ製造業ノ資格ヲ有セスシテ製造シタルカ將タ無印紙ノ煙草ヲ買受シ私ニ印紙ヲ以テ結束裝置シタルモノトセハ又各其所爲ヲ罰スルノ法條モ異ナラサルヲ得サルモノナルニ此緊要ナル事實ヲ措テ掲ケス輒ク前掲ノ如ク斷了シタルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク治罪法第三百四條ノ規則ニ背キタル不法ノ裁判ナリト判定ス

右辯明ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判言渡シノ全部ヲ破毀シ更ニ相

當ノ審判ヲ受ケシムル爲メ函館輕罪裁判所ニ移スモノ也

○第四百四號

判文(洋銀貨賣買犯)明治十七年三月十八日上告
年十一月廿一日發付

山口縣周防國吉敷郡下鄉村居住
平民綿商

長井安右衛門

明治十六年十二月
三十三年六月

同郡陶村居住平民吳服商

光永良藏

明治十六年十二月
陰曆三十九年

同村居住平民吳服商

光永徳次郎

明治十六年十二月
三十四年十月

岡山縣備前國兒島郡田ノ口村居

住平民反物商

明石喜代藏

明治十六年十二月
三十七年九月

山口縣周防國吉敷郡下鄉村居住

兼次 嘉兵衛

明治十七年一月

四十二年九月生

明治十七年一月十四日山

右長井安右衛門外三名ハ明治十六年十二月二十六日兼次嘉兵衛ハ明治十七年一月十四日山口輕罪裁判所ニ於テ右五名カ被告事件ヲ審判シ被告等ハ共謀シテ明治十四年六月ヨリ同年十月迄ノ間ニ在テ兵庫縣神戸港ニ於テ竊カニ洋銀貨賣買ヲ爲シタル事實アリト認メ刑法第五條ニ從ヒ明治十三年第二十一號公布ニ照シ各貳百圓ノ罰金ニ處シ而シテ刑法第四十三條ニ依リ犯罪ノ用ニ供シタル帳簿及ヒ書翰等ハ沒收スト言渡シタル裁判ニ服セス被告長井安右衛門外三名及ヒ兼次嘉兵衛ハ各上告ヲ爲シタリ其趣旨何レモ同一ニシテ抑モ洋銀貨賣買ノ犯則トナルカ如キハ必スヤ無免許ノ地ナル歟現ニ洋銀貨ヲ授受セサル歟非理ノ利ヲ圖リタル歟而シテ自カラ之レニ加功セスンハ未タ犯則ヲ以テ之レヲ論ス可カラサルハ普通ノ條理ナリト確信セリ然ルニ被告等ハ大坂神戸ノ間ニ於テ洋銀貨買入ノ事ヲ約シタルモ必ス神戸ト指定シタルノ證據ナク窗上方ト云フニ同シク其方向ヲ定メタル迄ナリ又非理ノ利即チ空物ヲ賣買スルノ目的ニアラスシテ洋品買入レノ資金ヲ求ムルノ目的ナリシ事又長井安右衛門ハ仲買商村貴三郎兵衛ナル者ニ委託スルニ無免許ノ地ニ於テスル事ヲ託シタルモノニアラス又安右衛門ヲ除クノ外ハ免不免ノ事ニ付テハ安右衛門ニ託シタルモノナレハ其當時犯則タル事ヲ知リタルモノニアラサルハ明治十五年中山口始審裁判所ニ對シ公ケニ洋銀貨買利益分配ト題シ民事ノ訴ヲ起シタルノ一事ヲ以テモ之ヲ證明スヘキナリ斯ク被告等ハ直

接間接ニ正當ノ商人即チ村貴三郎兵衛ニ委託シテ犯則タルノ事實ヲ知ラサルモノナレハ假令其受託者カ禁ヲ犯シタルモ委託人ニ於テ其罪ニ坐スヘキノ理ナキニ原裁判所カ被告等ニ巨額ノ罰金ヲ科シタルハ不當ナリト論疏シ尙ホ上告辯明書ヲ以テ前趣意ヲ擴張シ且ツ明治十三年第二十一號公布ニ金銀貨幣トアルハ單ニ古金銀ヲ指シタルモノニシテ洋銀等ヲ包含シタルモノニアラス原裁判所カ比附援引シテ同法ノ違犯者ナリト言渡シタルハ不當ナリ又長井安右衛門カ一己ノ帳簿ハ犯罪ノ用ニ供シタルニアラス然ルニ之ヲ沒收シタルハ不法ナリトノ論點ヲ敷衍セリ

原檢察官檢事補柴崎尙善ハ各上告ノ不理ナル旨ヲ辯駁シテ速ニ棄却アラントシ望ムトノ答辯ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ判決爲スル左ノ如シ
抑モ諸般ノ證據ヲ取捨シテ有罪無罪ノ判決ヲ爲スハ治罪法第四百四十六條第二項法文ノ如ク事實裁判官ノ職權内ニ特任シタルモノナレハ他ヨリ之ヲ批議シテ其事實ノ判定ヲ動かスルヲ得サルモノトス然ルニ今被告等カ論疏スル所ハ專ラ事實ノ認定上ニ對シタル不服ノ論告ニ外ナラスシテ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當ナラサレハ到底上告ノ効ナキモノトス又明治十三年第二十一號公布ニ所謂金銀貨幣トハ單ニ古金銀ヲ指シタルモノニシテ洋銀ヲ包含シタルモノニアラスト云フモ同法ニ所謂金銀貨幣トハ通用貨幣并ニ洋銀貨等ヲ指シタルモノニシテ舊金銀貨ヲ云フニアラサル事明晰ナリトス何トナレハ舊金銀貨ハ一般ニ賣買スルヲ許サレタルモノナレハナリ故ニ原裁判所カ同法ヲ適用シタルハ相當ニシテ比附援引シ

以テ被告人等ヲ處罰シタルニアラサルナリ又被告安右衛門カ帳簿ハ原裁判所ニ於テ犯罪ノ用ニ供シタル事實ヲ認メ之ヲ沒收シタルモノナレハ漫ニ犯罪ニ關與セストノ論告ハ之ヲ採用スルニ由ナク上告ノ趣旨總テ相立タサルモノト判定ス

以上ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本案上告ヲ棄却スルモノ也

○第四百五號

判文〔古物商取締規則犯〕明治十七年十月十五日上告
年十一月廿一日發付

愛媛縣讚岐國香川郡御坊町平民

古着商

三島宗次郎

明治十七年九月

三十年

明治十七年九月二十五日松山輕罪裁判所高松支廳ニ於テ右宗次郎ニ對スル古着商取締規則違犯ノ被告事件ヲ審理シ被告人ハ明治十七年七月十四日曾テ刑法第三百九十九條ノ所刑ヲ受ケシ森山熊吉ヨリ女半纏ヲ金拾貳錢ニテ買取シトハ事實明瞭ナリト雖モ右熊吉ハ明治十七年中愛媛縣甲第七號布達第九條ニ基キ各營業人ニ通達セル受刑人名簿ニ脱漏シアルノミナラス賣買ノ當時受刑者タルコトヲ知テ買取ケシモノト認ムヘキ證據充分ナラサルヲ以テ無罪ト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原裁判所檢事補山下與作ハ上告ヲ爲セリ其要旨ハ原裁判所カ無罪ノ理由トシテ愛媛縣甲第七號布達第九條ニ依リ受刑者人名簿ニ脱漏セシト云フヲ以テ受刑者タルコトヲ知テ買取ケシトノ證據不充分ナリトシタルモ其布達第九條ヲ閱ス

ルニ其文旨タル之ヲ標準トシテ條例第六條ニ載スル所ノ受刑者タルト否トナ分別シテ警察官ノ許可ヲ受クヘキ者ト否トナ定斷スヘシトノ布達ト解釋スヘキニアラス又通達者ニ於テモ他管ニテ受刑ノ者及ヒ滿期直チニ他管ニ歸國スル者ノ如キヲ通達スルモノニモアラサレハ其第九條ニヨリ謄寫スル所ノ受刑者簿ニ脱漏セシ人名ナレハトテ無罪タルノ理由ハ生ゼサル者ト考量セリ尙ホ條例第六條ニ盜罪其他ノ受刑者ヨリ買取ル者ハ警察官ノ許可ヲ受クヘシトアレハ古着商ハ先ツ賣者ノ受刑者ナルヤ否ヲ穿鑿セサルヘカラサルニ被告ハ其受刑人ナルヤ否ヲ穿鑿セズ買取リタル者ナレハ故意ニ出テタルモノト看做サ、ルヲ得ズ然ルニ之ヲ無罪トシタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人被告三島宗次郎ハ原檢察官上告ノ不當ナルヲ辯駁シ原裁判相當ナル旨答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ
上告ノ趣旨ハ愛媛縣甲第七號布達第九條ハ以テ古着商カ賣者ノ受刑人ナルヲ知ルノ標準ニアラスト云フニアルモ果シテ然ラハ該布達ハ何等ノ爲メニ設ケシモノナルヤ又古着商カ物品賣却者ノ受刑人ナルヤ否ヲ知ランニハ如何ナル方法ニ從ヒ知ルヘキモノナルヤ之ヲ論辯シ上告シタルニアラスシテ只布達第九條ハ受刑者タルヲ知ルノ標準ト爲スヘキモノニアラス被告カ受刑者タルヲ穿鑿セズ古着ヲ買取タルハ故意ニ出テタル者ト看做サ、ルヲ得サルト云フニ外ナラサレハ事實裁判官ノ採證其當ヲ得サルヤ否之ヲ知ルニ由ナキノミナラス凡ソ諸般ノ證據ヲ採擇スルハ事實裁判官ノ職權ニシテ被告ハ賣買ノ當時受刑者タルノ情ヲ知リタル證據充分ナラスト認メ無罪ノ言渡シヲ爲シタルモノナレハ之ヲ批難シテ上告ノ原由

ト爲ステ得ズ則本案上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條ノ各項目ニ適當ナラサルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ之レヲ棄却スルモノナリ

○第四百百六號

判文〔徵兵忌避〕明治十六年十二月六日上告
同 十七年十一月廿二日發付

山形縣羽前國南村山郡上寶澤村
平民六右衛門養子農業

石 澤 駒 吉

明治十六年十一月
二十一年三月

右駒吉カ徵兵免役ヲ圖リタル被告事件ニ付明治十六年十一月十五日山形縣輕罪裁判所會議局ニ於テ檢事補土屋安久カ豫審終結ノ故障ニ對シ原免訴ノ言渡ヲ認可スト判決シタルニ安久ハ之レヲ不法ナリトシ尙上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告駒吉ハ無謂事ヲ其筋へ請願シ逃走ノ目的ヲ達セントノ詐術ニ出テタル理由ヲ述ヘ即チ刑法第七十八條ニ該當スルモノト認メ故障ヲ爲シタルモ會議局ニ於テ被告ハ詐偽ノ手段ニ出タルモノト看做スヲ得サル云々又詐術ヲ爲シタルヲ見ルヘキ證左アルニ非ラサルヲ以テ豫審掛ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ當然ナリト判決セシニ付尙再思熟考スレハ陸軍刑法第七條ノ制裁ヲ免カレサルコト山形縣七等屬前橋榮春ノ告發書ニ據テ益明カナリ果シテ然レハ軍法衙門ノ管轄スヘキモノナルヲ以テ當然管轄違ノ言渡ヲナスヘキニ原判決茲ニ出テス豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ不當ナリトス因テ原判決ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告石澤駒吉ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事加納久宜ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
原言渡シニ認メシ事實ニ據レハ固ヨリ徵兵ニ編入セラレヘキ者ニアラサルヲ以テ假令詐偽ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタルモノトナスモ所謂無効犯ニシテ到底罰スヘキモノニアラス然リ而シテ被告事件ハ當然普通裁判所ノ管轄ニシテ軍法會議ノ管理スヘキモノニアラス何ントナレハ其身分軍人ヲ以テ論スヘキ者ニアラサレハナリ故ニ原會議局ニ於テ豫審免訴ノ言渡シヲ認可シタルハ相當ニシテ不法ノ判決ニアラストス因テ上告論旨ハ相立タス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四百百七號

判文〔官私文書偽造行使〕明治十七年二月八日上告
同 年十一月廿二日發付

島根縣石見國美濃郡内田村平民

桑 原 澄 八

明治十六年十二月
五十一年八月

右澄八カ官文書偽造及ヒ詐欺取財被告事件ニ付明治十六年十二月二十八日松江重罪裁判所ニ於テ刑法第二百四條同第二百五條同第三百九十條同第三百九十四條同第百條ニ依リ一ノ官文書偽造罪ニ從ヒ重懲役九年ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ被告ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ内田村戸長奉職中村内宅野「キイ」同「スミ」ナル者金百拾圓入用ニ付「スミ」所有ノ耕地三筆抵當ニテ他借シ貫ヒ度トノ頼ヲ受ケタレモ抵當不足ニ付自分并ニ長男善十ノ所有

地二筆ヲ加ヘ且ツ外ニ加藤岩八大賀新治モ金員必用ノ旨申聞ケルニ付夫々抵當差入産紙會社ヨリ金百四拾圓四拾錢借入タリ其借用主ヲ宅野新治ト爲シタルハ同人ハ宅野家ノ戸主タルカ故ナリ然シテ該金ハ約定ノ如ク三名ヘ分付シ其殘五拾九圓四拾錢被告ノ手許ニ扣ヘ置タルハ被告及ヒ長男善十ノ地所ヲ貸質ニ爲シアルヲ以テ「スミ」ヨリ返リ證書ヲ受取之ト交換スヘキ約束ニ有之右ノ如ク熟議上ノ取計ニ付新治ノ名下ニ「スミ」ノ實印ヲ押捺シタルモ素ヨリ故意ノ所爲ニ非ラス又役場帳簿ニ登記シ置カサリシハ全ク被告ノ錯誤ニ出タルナリ又加藤岩八大賀新治ヲ受證人ト爲シタルハ素ヨリ承諾上ノ結構ナリ左ナクシテハ彼レ焉ソ自ラ實印ヲ押捺スヘキ道理アラシヤ然ルニ原裁判所ニ於テ被告ヲ懲役九年ニ處セラレタリ是レ擬律ノ錯誤モ亦甚シキモノナリト云ヒ尙追申書ヲ以テ前意ヲ申張シタリ

對手人檢事吉江高行ハ被告ノ上告ハ適法ノ原由ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シタルニ被告代理人中村剛ハ專ラ上告趣旨ヲ擴張シ且ツ云フ原判文中(内金五拾四圓餘ヲ騙取セシモノト認定ス)トアルモ抑モ本件被害者ハ宅野「キイ」ナルヤ産紙會社ナルヤ之ヲ示サ、レハ其何タルヲ知ルニ由ナシ又被告ノ所爲ニ對シ刑法第二百五條ヲ適用セラレタレト本案ノ證書ハ所謂官吏其管掌ニ係ル文書ト云フ可ラス旁原言渡シハ事實理由ノ不備擬律ノ錯誤ヲ免レサル裁判ナリト云フニ在リ依テ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル第一ハ本案地所ヲ抵當トシ産紙會社ヨリ金員借用セシハ渾テ被害者ト協議上ノ行爲ニシテ其間毫モ詐偽騙取ノ行ヒアルコトナシ勿論該借用金内五拾九圓餘ヲ手許ニ

扣ヘ置タルハ約定書ト交換スヘキ約アルニ依ル又役場帳簿ニ記入セサルハ一時ノ錯誤ナリ第二加藤岩八大賀新治ヲ受證人ト爲シタルハ彼等甘諾上ノ行爲ナリト云々ナルニアレト其然ラスシテ被告カ宅野「キイ」加藤岩八大賀新治等ノ無文ヲ狙ヒ擅ニ證書ヲ作爲シ役場ノ公證ヲ偽造シタル事實ハ原裁判官ノ明認スル所ナルヲ以テ今更ニ其事實ニ對シ非難ヲ試ルヲ得サルモノトス如何トナレハ事實ノ認定ハ治罪法第四百十六條ノ規定ヲ以テ承審官ニ任從スル所ナレハナリ又代理人ノ論旨第一ハ原裁判中(騙取セシモノト認定ス)トアリテ其被害者ノ誰タル漠乎知ルニ由ナシト云フニアレト原判文中(二名カ要借高ニ超過セル金百四拾圓四拾錢ヲ産紙會社ヨリ借入レ内金五拾四圓餘ヲ騙取セシ)ト明示アルヲ以テ被害者ノ誰タルヲ知ラスト云フヲ得ス第二本案借用證書ノ如キハ刑法第二百五條即チ官吏其管掌ニ惡ル文書「トアルニ適當セスト云フニアレトモ抑モ公證ハ戶長ノ職任ニシテ他一切之ニ關ルヲ得サルモノナリ豈之ヲ管掌ニ非ラスト云フヲ得可キモノナランヤ結局代理人ノ論旨モ亦事實ノ非難ニ歸シテ上告ノ原由ダラサルモノトス
右辯明ノ如クナルヲ以テ本案上告ハ不相立治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

○第四百八號

判文(私書偽造) 明治十六年四月三十日上告
同 十七年十一月廿二日發付

茨城縣常陸國岡田郡花島村平民

農業

五四六

草間

奧逸
明治十六年三月
四十八年八月

同縣同國同郡同村平民農業兼材

木商

渡邊

三郎
明治十六年三月
四十一年二月

同縣同國同郡同村平民農業

山中

庄作
明治十六年三月
五十三年二月

同縣同國同郡同村平民農業

渡邊

五郎
明治十六年三月
三十九年五月

同縣同國同郡同村平民農業

齋藤

市郎
明治十六年三月
四十五年三月

右奧逸三郎庄作五郎市郎カ被告事件ニ付明治十六年三月三十一日水戸輕罪裁判所土浦支廳

ニ於テ審理ノ末私書偽造行使セシ事實アリト認メ刑法第二百十條同第二百十二條ニ依リ各

一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金一年ノ監視ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服從セス各上告セ

リ其要領ハ原裁判所カ偽造ナリト判斷セラレタル議定書ハ戶長役場ニ保存セシ者タル戶長
 石塚清一郎證明ニ徵スルモ瞭然ナルニ民事裁判所カ此證タル信ヲ措キ難シトノ裁判ニヨリ
 萬一ナ僥倖セント牽強附會ノ情供ヲ以テ告訴セシモノナルニ是等ノ事實ヲ推窮セハ輒ク偽
 造ナリトノ判斷ハ事實理由ニ齟齬アリトノ事原裁判所カ奧逸ト共謀シ云々トセラレタルモ
 其共謀セシ徵憑アルニアラサルニ漫ニ共謀ナリトセラレタルハ所謂模樣ニノミ因レル推測
 ナレハ治罪法ノ許サ、ル所ニテ是レ事實理由ニ齟齬アリトノ事原裁判官カ豫審終結言渡ニ
 依リ本案公訴ヲ受理セラレタル者ナレハ其事件ハ必ス審理セサルヘカラス夫レ豫審ニ於テ
 刑法第二百二十三條ニ問擬セシテ單ニ私書偽造即チ同第二百十條ノミ適用セシハ不法ニシ
 テ法律ノ理由ヲ付セサル裁判ナリト云ヒ治罪法第四百十條第九項ニ依リ破毀ヲ求ムトノ事
 追テ奧逸市郎ハ代言人角田眞平ヲ以テ上告越旨ヲ擴張シ原裁判ノ證憑トセラレタル石塚清
 一郎カ陳述ハ如何ナル文字語句ノ證據トナルヘキヤハ知ルニ由シナキモ私書偽造ノ罪科ナ
 レハ私書ヲ偽造セシトノ證據コソ適當ナルニ其證憑中有罪ヲ決スルノ材料トハナシ能ハサ
 ルヲ明カナリ草間久内外二名ノ告訴狀ハ如何ナル證據ヲ舉示シアルカ告訴モ亦信用セラル
 ヘキ理ナク況ヤ告訴者ハ民事訴訟ノ相手方ナルニ於テオヤ明治十年御受書ト表記スル書面
 ナ證據トセラレシモ偽造ノ證據タルヘキ者ニアラス偽造セシトハ他ニ其書ヲ偽造セシトノ
 原物アリ後之レニ伴ハレテ始テ犯罪ノ證憑トナルヘキモノナリ斯ノ如ク犯罪ノ證據一モ備
 ハラサリシトノ事治罪法第四百十六條ノ明文アルモ相當ノ材料ト爲スヲ得ヘカテサルモノ
 ナ證據ト爲スノ權ナキハ固ヨリナリ然ルニ原裁判所ノ認定ハ理由ナキモノニテ法理ノ聽サ

五四七

サル所ナリト云フニアリ三郎庄作五郎カ代言人長谷川深造ヲ以テ上告趣旨ヲ擴張セリ其要
點ハ是亦原裁判所カ證據ト爲シタル清一郎カ證言ハ無罪ヲ證明スルニ足ルモ有罪ノ證據ト
爲スヘキモノニアラス久内等ノ告訴ハ民事訴訟ノ相手ニテ被告人等ヲ陷害セントスルニ過
キヌ又明治十年御請書ヲ犯罪ノ證據トセラレタルハ何故共謀偽造ノ證據トナル其理由ヲ明
示セラレス假リニ與逸等カ偽造セシモノトスルモ三郎庄作五郎等ハ戸長役場ヨリ正實ニ借
リ受テ民事裁判所ヘ呈供セシマテニテ其情ヲ知ラサリシト云ヒ到底證據不充分ニテ治罪法
第三百五十八條ヲ適用セラレヘキモノナリト云フニアリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ立會檢事池上三郎ハ附帶上告シテ曰私
書偽造罪ノ如キハ其原物アルヲ以テ之ニ模擬シ調製スルヲ以テ始テ偽造ナリト云フヲ得ヘ
キモ其原物モナク空虛ノ所爲ニ對シテハ偽造ナリト云フヲ得ヘカラサルナリ果テ然ラハ其
偽造セシ方法ハ其罪ノ成立ツヘキ原素ナルニ原裁判所ハ草間與逸ト共謀シテ一村議定書ヲ
偽造云々トノミ事實理由ヲ掲ケ方法ノ如何ヲ明示セサレハ罪トナルヘキノ所爲ナルヤ否ヤ
ヲ見ルニ由シナク事實理由ノ備ハラサル裁判ナレハ破毀シテ他ノ相當ノ裁判所ヘ移サレン
トヲ望ムト代言人角田眞平長谷川深造ハ上告及ヒ上告擴張ノ趣旨ヲ辯明シ附帶上告ニ附テ
ハ同一ノ意見ナルモ前辯明スル如ク被告事件ハ罪ナキモノナルニ原裁判所ハ罪アリト判斷
セラレタルモノニテ擬律錯誤ニ係リタル治罪法第四百十條第十項ニ適當スル上告ナレハ破
毀セラレ直ニ本院ニ於テ無罪ノ裁判言渡シアランコトヲ要求スト云ヒ仍ホ代言人角田眞平ハ
原裁判言渡シノ末段ニ證據物トシテ引上ケ置ク帳簿六冊ハ戸長石塚清一郎ヘ還付ストノミ

アリテ法律ノ正條ヲ適用セス是又事實ノ理由ヲ付セサル不法ノモノナリト云ヒ代言人長谷
川深造ハ被告人等ノ情狀ハ與逸等トハ異ナリタル情供アルモノナリト開伸セリ茲ニ之レヲ
審案スルニ

上告及ヒ擴張ノ趣旨ハ事實理由ニ齟齬アリ又ハ證據ト爲シ得ヘカラサルモノヲ證據トシ罪
ヲ斷シタルハ不法ナリト云フニアルモ本案ヲ破毀スル爲メ緊急適切ナラサルモノト認ムル
ヲ以テ先ツ附帶上告ニ付辯明セン原裁判言渡シ(前明治十五年一月土浦始審裁判所ヘ引續
キ更ニ審理セラレ、ニ當リ草間與逸ト共謀シテ一村議定書ナルモノヲ偽造シ明治十五年四
月六日之ヲ裁判所ニ提出シ以テ其證據物ナリトシ行使シタル草間久内外二名ノ告訴狀明
治十年御請書ト表記スル書面證人石塚清一郎ノ陳述ニ依リ事實明白ナリ云々)トノミアリ
テ如何ナル方法ヲ以テ偽造シ且其議定書ナル者ノ性質果シテ社會ニ害ヲ生スヘキモノナル
ヤ否ヤ罪ヲ構造スヘキ一大必要ノ原素ヲ認メサレハ附帶上告趣旨ノ如ク有罪無罪ヲ判斷シ
得ヘキ場合ニ至ラサルモノナルニ輒ク私書偽造ノ罪アリト論決セシハ治罪法第三百四條ニ
違背シ事實理由ノ備ハラサル不法ノ裁判ナリトス而シテ代理人共ニ於テハ無罪ヲ言渡サルヘ
キモノニ對シ誤テ有罪ヲ言渡サレタルモノナレハ即チ擬律錯誤ニ係ルモノニ付破毀シテ直
チニ無罪タルノ裁判セラレヘキモノナリト痛論スルト雖モ前辯明スル理由ナレハ未ダ以テ
其有罪無罪ヲ判斷スルニ由シナケレハ再ヒ事實裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノナリト判定ス
既ニ此ノ一點ヲ以テ破毀ノ原由アル事ヲ認メタレハ他ノ上告及ヒ上告擴張ノ趣旨ニ付其當
否ヲ判定スルヲ要セス

以上ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケ
シメン爲メ千葉輕罪裁判所八日市場支廳へ移ス者也

○第四百九號

判文〔證書偽造〕明治十六年十二月廿四日上告
十七年十一月廿二日發付

大坂府大和國葛下郡新庄村百二
番地平民藤井市平長男通運會社
業

藤井萬三郎

明治十六年十二月
二十年四月

右萬三郎カ被告事件ニ對シ明治十六年十二月一日大阪輕罪裁判所奈良支廳ニ於テ被告カ西
川林平ヲ欺キ金圓ヲ騙取センカ爲メ新庄村又ハ角尾トアル印判ヲ偽造シ藤井「マス」ヲ借用
人トナシ同人ノ建家土藏ヲ書入藤井藤次郎ヲ受人トシ林平宛金八拾圓ノ借用證書ヲ偽造シ
仍ホ新庄村戸長角尾伊三郎カ公證ヲ爲シタル體ニ與書番號等ヲ偽書シ「マス」ノ名下ニハ自
己ノ印影藤次郎ノ名下ニハ有合印ヲ捺捺シ新庄村ト刻シタル偽印ヲ以テ處々ニ割印シ伊三
郎ノ名下ニハ角尾ト刻シタル偽印ヲ捺捺シ林平ニ渡シ已ニ行使スト雖モ其目的ヲ遂ケサル
モノト認定シ第一官吏ノ公證シタル證書ヲ偽造行使シテ遂ケサル罪ハ刑法第二百四條第百
十三條第百十二條第六十九條ニ該リ第二角尾伊三郎ノ私印ヲ偽造使用シテ遂ケサル罪ハ同
第二百八條第百二十一條第百十二條ニ該リ第三西川林平ヲ欺罔シ金圓ヲ騙取セントシテ遂

ケサル罪ハ同第三百九十四條第百九十七條第百十三條ニ該リ仍ホ同第二百七條第百二十二
條第三百九十四條ニ據リ第一ノ罪ハ重禁錮二年監視一年第二ノ罪ハ重禁錮四月罰金拾圓監
視六月第三ノ罪ハ重禁錮二月罰金五圓監視六月ニ處シ數罪俱發ニ係ルヲ以テ同第百條末項
ニ據リ第一ノ罪ニ從ヒ執行ヲ受クヘシト言渡シタル裁判ヲ不法ナリトシ被告ハ上告ヲ爲シ
タリ其要旨ハ新庄村トアル印影ハ運送會社ノ爲メ曾テ誂ヘ置キタルモノニテ西川林平ヨリ
借用證書ニ戸長ノ押印致シ持參スヘキ旨申シ聞ルニヨリ罪ヲ犯ス事ハ心付ス角尾トアル私
印ヲ偽造シ仍ホ與書調印等ヲ爲シタル義ニテ林平ヲ欺ク念慮毫モ之レナシ抑被告ハ官印官
文書ヲ偽造シタルニ非スシテ管ニ私印私書ヲ偽造シタルニ過キサルニ本刑ニ處セラレタル
ハ不法ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補阪村蕃ハ原裁判相當ニシテ上告其理ナキ旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事加納久宜ハ上告ノ理由ナキ旨ヲ述ヘ且附帶上
告ヲ爲シテ曰ク原判文ニ戸長角尾伊三郎ノ名下ニハ角尾ト刻シタル偽印ヲ捺捺シ西川林平
ニ相渡シ已ニ行使ス云々ト事實ヲ認メナカラ却テ他日林平カ公證式ニ違フ所アリトテ返却
シタルニヨリ其目的ヲ遂ケス即チ行使ノ未遂犯ト判定セシハ前後ノ理由撞着シ果シテ其行
使ノ既遂ト未遂トヲ判別スルニ由ナシ且戸長角尾伊三郎ノ印章ヲ偽造シ證書ニ捺捺シテ使
用シタルト認メシ上ハ宜シク刑法第二百八條ノ既遂犯ヲ以テ論スヘキニ是亦未遂犯ト判定
シタルハ頗ル失當ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九項第十項ニ該當スル不法ノ裁判ナレ
ハ破毀ノ上相當ノ裁判所へ移サレンコト望ムト陳辯セリ仍テ判決スルコト左ノ如シ

上告ノ理由トスル所ハ被告ハ惡意アルニ非ラス且私印私書ヲ偽造シタルニ止リ官吏公證ノ證書ヲ偽造シタルニ非ラスト云フニ在リテ必竟原裁判官カ職權ヲ以テ認定シタル事實ノ當否ヲ論難シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百十條ニ定ル上告ノ原由ナキモノトス然レモ本院檢事附帶上告ノ趣旨ニ基キ原判文ヲ查閱スルニ(前)戸長角尾伊三郎カ公證ナシタル體ニ與書番號等ヲ偽書シ云々新庄村ト刻シタル偽印ヲ以テ處々割印ナシ戸長角尾伊三郎ノ名下ニハ角尾ト刻シタル偽印ヲ捺捺シ西川林平ニ相渡シ已ニ行使スト雖モ猶公證ノ式ニ違フ所アリトテ林平ヨリ返却セラレ爲ニ其目的ヲ遂ケサルモノト認定ス)トアリテ其前段ニ私印及ヒ官吏公證ノ證書ヲ偽造シ已ニ使用行使シタリト認メタルモノナレハ刑法第二百四條第二百八條ノ罪ヲ構成シタル既遂犯ナルハ論テ俟タサルモノトス而シテ其後段ニ林平ヨリ返却セラレ爲ニ其目的ヲ遂ケストアル事實ハ詐欺取財ノ未遂タルヲ認ルニ過キサレモノナルニ右事實ヲ引テ刑法第二百四條第二百八條ノ未遂犯ナリト斷定シタルハ不當ノ裁判ナルノミナラス同第二百四條ノ罪ハ重罪ナルヲ以テ豫審セシムヘキモノナルニ直チニ判決シタルハ是亦越權ノ處分ナリトス仍テ治罪法第四百二十八條ニ則リ原裁判全部ヲ破毀シ神戶輕罪裁判所ヘ移シ更ニ豫審セシムルモノナリ

○第四百十號

判文(證書偽造)明治十六年九月八日上告
同十七年十一月廿二日發付

神奈川縣武藏國南多摩郡上川口
村平民

瀧

島久次郎

明治十六年八月三十二年

右被告久次郎カ被告事件ニ對シ明治十六年八月十三日橫濱輕罪裁判所八王子支廳ニ於テ刑法第二百十條第一項同第二百十二條ニ照シ四月ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト裁判宣告ヲ爲シタリ被告久次郎ハ右裁判ヲ不法ナリトシ上告ノ要旨ハ本件證人水野忠藏ノ證言ノ如キハ千變萬更何レノ申立ヲ真正ナリト爲ス能ハス豫審ニ於テハ被告ト一面識モナキト云ヒ公判ニ於テハ知己ナリト云ヒ或ハ催促ニ來リシコトナシト云ヒ又ハ來リタリト云ヒ更ニ根據ナキカ如シ加之證據物件手形證ヲ見ルニ其印影ハ忠藏ノ印影ニアラサルモ此手筆ハ忠藏ノ自筆ナリ又折田佐兵衛ノ手形ヲ偽造ナシタリト判定セラレシ所以ノモノハ單ニ佐兵衛妻ノ證言則チ明治十五年十二月二十四日コハ金圓取引ナシト云フニ因リ被告カ故意ヲ以テ偽造ナシタラントノ推測上ヨリ判定セラレシモノナリ然レモ此證人モ亦真正ノ證人トシテ直チニ犯罪者ナリト斷定セラレ、ハ法理ノ精神ニ背戾シタルモノナリ佐兵衛ノ妻ニシテ取引アリタリト云フカ如キヲ明言セハ忽チ自己ノ頭上ニ手形ノ義務墮落スルカ故ニ事實ト齟齬ノ申立ヲ爲シタルモノト思料セリ夫レ如斯ナレハ佐兵衛妻ノ申供ハ法律ノ精神ニ於テ採ルヘカラサルハ論テ竣タサルニ有證ノ如ク判定セラレタルハ越權ナリト云フニ在リ

對手人檢察官檢事清水純孝ハ被告ノ上告ハ不當ナリト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

治罪法第四百十六條第二項被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立
其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實ノ判定ハ原裁判官ノ特有スル所ノ職權
ニシテ其判定シタル事實ニ對シテハ他ヨリ動カシ得ヘカサルモノトス今被告カ上告ノ理
由トスル所ハ原裁判官カ採證ノ當否ヲ論難スレハ法律上證人ノ資格ナシト定メタル者ニ非
ラスシテ當然證人ノ資格ヲ有スル者ノ證言ヲ採擇シテ有罪ナリト判決シタル以上ハ之ヲ越
權ナリト云フヲ得ス因テ上告ノ旨趣ハ相立タサルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○第四百十一號

判文(誣告) 明治十七年十月十三日再審
同 年十一月廿二日發付

岐阜縣美濃國中島郡中村平民農
業

淺野 佐五右衛門

明治十七年五月
五十七年三月

右佐五右衛門カ被告事件ニ對シ明治十七年五月六日岐阜縣輕罪裁判所ニ於テ被告ハ淺野惣右
衛門ハ田壹町壹反三畝貳拾五步ヲ代金三百五拾九圓六拾六錢ニ返地スル約定證書ニ證券印
紙ヲ貼用セズシテ相渡シ惣右衛門ヨリ右返地方岐阜治安裁判所ヘ勸解出願セシキ被告
ハ右田地ヲ戻サ、ル爲メ該證書ハ偽造ニ係ル者トシ惣右衛門ヲ輕罪ニ陷レンカ爲メ竹ヶ鼻
分署ニ誣告シ尙ホ之ヲ慥メンカ爲メ山田忠吉ニ依頼シ保證書ヲ認メ貰ヒタルモノト認定シ

證券印紙ヲ貼用セカリシ所爲ハ刑法第五條ニ因リ明治七年第八十一號布告證券印稅規則第
四則第二條ニ照シ脫稅高ノ貳拾倍罰金七圓ニ處シ誣告ノ所爲ハ刑法第三百五十五條刑法第
二百二十條ニ依リ重禁錮六月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スル旨言渡シタル裁判確定ノ後明治十
七年九月三十日被告ハ再審ノ訴ヲ爲シタリ其要領ハ該返地盟約書タルヤ被告ニ於テ毫モ豫
知セサルモノナルニ記名調印アル所以ヲ考フルニ明治十六年一月中被告ヨリ小川伊左衛門
ニ係リ貸金ノ事項勸解ヲ仰キタル末示談ノ上願下ヲ爲シタル砌リ惣右衛門ヲ代人ニ頼ミ罫
半紙貳枚ニ記名押印シタルモノヲ渡シタルニ勸解應ニ於テハ壹枚ニテ辨了シ殘壹枚ハ書損
シタリト偽リ之ヲ以テ該證書ヲ偽造シタルモノナル可シ夫ノ山田忠吉カ竹ヶ鼻分署ヘ差出
シタル書面中惣右衛門ノ親屬名古屋笠原又六ト申者私カ記名押印アル罫半紙ニ第一號證ヲ
偽造シタリ云々トアルニ徵シ明カナリ且ツ忠吉ヘハ保證ノ爲メ認メ吳レ度旨依頼セシモノ
ニテ證據ナキヲ頼ミタルニ非ラス故ニ該證書ハ素ヨリ印紙貼用ス可キ理由ナキ者ナルニ
漫然タル認定ヲ以テ證券印稅犯則ノ罰金ヲ科セラレタルハ事實ノ理由ヲ缺ク不法ノ裁判ナ
リ又誣告ノ點ニ於テハ其所爲被告ニアラスシテ反テ惣右衛門ニ於テ偽證セシ事明カナリ其
證據ハ該第一號ノ返地盟約證ノ文言ヲ觀ルニ其第一項ニ(一)田七反五畝貳拾五步(但シ明治
買受ト 第二項ニ元金百九拾七圓也) 明治十年 改代金三百圓也)トアリ然レモ明治二年三月中
惣右衛門ヨリ質流地ニテ買受ケタルハ田畑合セテ七反貳畝貳拾七步五厘ヲ元代金三百七圓
ヲ以テ買受ケタル儘ニテ明治十年度ニ代金ヲ改メタルヲナク且ツ明治二年三月中買受ケタ
ル證券參考證ニ比照スルニ第一號盟約證書ハ田ノミニテ畑ナク加旃反別三畝貳步五厘代金

百拾圓ノ差違アリ第三項ニ(田三反八畝步但替地云々ハ)第四項ニ(右之地所先般年季地ニ買受ケ云々)トアルモ共ニ事實相違セリ如此虛證ヲ以テ被告ヲ誣告罪ニ問擬セシハ事實ノ理由ト法律ノ理由トノ齟齬アル者ニ擬律錯誤ニ係ル不法ノ裁判ナリ其他惣右衛門等カ駟合種々奸謀詐言ヲ構ヘ被告ヲ陷害スルノ所爲明了ナルニ原裁判所カ其事實ヲ審明セス被告ヲ本刑ニ斷了セシハ治罪法第三百四條ニ悖戾シ所謂越權ノ處分ナレハ破毀ヲ求ムト謂フニ在リ
 原裁判所檢察事武田直行ハ被告カ訴旨タル承審官ノ職權内ナル事實ノ當否ヲ論難非議スルニ止マリ治罪法第四百二十九條中ニ掲クル理由アルニアラサレハ當然棄却セラレ可キモノト思料スル旨意見ヲ付セリ

大審院檢察長渡邊驥ハ本訴ノ要旨ハ原裁判ハ事實ヲ審明セス探證ノ當ヲ失シタル不法ノ裁判ナリト云フニ外ナラサルモ再審ノ訴ハ治罪法第四百二十九條ノ各項ニ定メタル理由アルニアラサレハ其効ナキ者ナリ今本案ノ如キハ一モ之ニ適當スヘキ理由ナクシテ徒ラニ確定裁判ニ不服ヲ鳴スニ過キサレハ無論其効ナキ者ト思料スルニ付速ニ棄却セラレノヲ望ム旨意見ヲ付セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百四十四條ノ法式ヲ踐行シ判決スルヲ左ノ如シ
 被告カ再審ノ理由トスル所ハ本院檢察長意見ノ如ク原裁判ハ事實ヲ審明セス探證法ヲ誤マリタルモノナリト云フニ在テ徒ラニ確定裁判ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ治罪法第四百二十九條ニ規定セシ再審ノ理由ヲ備ヘサルヲ以テ之ヲ棄却スルモノナリ
 ○第四百十二號

判文(遺失物隱匿)明治十六年九月廿二日發付
 同 十七年十一月廿二日發付

岐阜縣美濃國郡上郡初納村平民
 農業

篠田新次郎
 明治十六年八月
 四十五年

右新次郎カ遺失物隱匿被告事件ニ付明治十六年八月二十日岐阜縣輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末治罪法第二百五十八條ニ照シ無罪ト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ檢察官木村金吉郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ヲ約スルニ被告ハ其次男峯之助カ絶臺三挺ヲ拾取リ持歸リタルヲ誰ソノ所有品ナルヘシ取リニ來ラハ渡シ遣スヘシトテ之ヲ仕舞置キ後日所有主ニ還付シタルモ官署ニ届出サルモノナレハ刑法第三百八十五條ニ依リ處斷スヘキモノナル旨意見ヲ陳述シタルニ原裁判官ニ於テ該絶臺タル廢棄物ノ如ク明記シアルモ其廢棄物ニアラサルハ所有主松山吉助カ現ニ被告ヨリ該物品ヲ取返シタルヲ以テ見ルモ廢棄物ニアラサルヤ明白ナリ然ルニ原裁判官ニ於テハ被告カ不用物ナリト辯護ヲ偏信シテ無罪ヲ言渡シナカラ同一ノ場所ニテ坂井忠三郎カ絶身壹箇ヲ拾取タル事件ニ對シ有罪タルノ言渡シヲ爲シタルハ同一ノ事件ニ對シ兩様ノ判定ヲ與ヘタルモノナリ然レモ本案被告カ如キモ刑法第三百八十五條ヲ適用スヘキモノナルニ前掲ノ如ク處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人被告新次郎ハ之ニ答辯ヲ爲サス

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スル左ノ如シ
上告ノ論旨ハ前掲ノ如クニシテ要スルニ被告カ犯罪ノ證據充分ナルニ裁判官ニ於テ其證據
ヲ採用セス無罪ヲ言渡シタルハ不當ナリト云フニ過キス抑モ各般ノ證據ヲ取捨採擇シテ犯
罪ノ有無ヲ判決スルハ法律上事實裁判官ニ任從スル所ナレハ其職權内ニ侵入シ漫リニ其當
否ヲ論訴スルモ之ヲ以テ破毀ヲ求ムルノ原由トナスニ足ラサルヤ明瞭タリ況ンヤ被告カ所
爲タル不用物ト思惟シ留置シタル所爲ナレハ惡意ナキヤ明カニシテ旁原裁判ハ允當ナルコ
於テチヤ其他同一ノ事件ニ對シ兩箇ノ判決ヲナシタリト喋々スレハ箇ハ是レ原裁判官ノ認
メサル點ニ對シ漫リニ非難スルニ過キカレハ是レ亦謂レナキ訴旨ナリトス因テ上告趣旨總
テ其効ナシ

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

○第四百十三號

判文(財産藏匿) 明治十七年三月十五日上告
同 年十一月廿二日發付

德島縣阿波國名東郡觀音寺村平
民無職業

坂 東 友 助

明治十七年二月
四十六歲四月生

右友助カ被告事件ニ付明治十七年二月二十二日德島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ身代限處分ノ
際財産ヲ藏匿シタル者ト判定シ刑法第三百八十八條第一項ニ依リ二年ノ重禁錮ニ處スト言

渡シタルニ被告人ハ之ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要領ハ足助元吉外十名ノ者ヘノ反物賣掛ケ
代金拾貳圓餘ハ既ニ身代限處分前ニ受取り皆濟相成タルモノニテ身代限ノ際之ヲ藏匿シタ
ルニアラス然ルヲ財産藏匿ヲ以テ處分セラレタルハ乃チ越權ナルヲ以テ原裁判ノ破毀ヲ求
ムト云フニアリ

對手人檢事補印南富彦ハ本案上告ハ事實上ニ涉リ治罪法第四百十條ニ規定セル原由ナキヲ
以テ棄却アラントテ望ムト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所原裁判ハ越權ノ處分ナリト云フト雖モ其論旨タルヤ足助元吉外十名ノ
者ヘノ反物賣掛ケ代金拾貳圓餘ハ既ニ身代限處分前ニ受取り皆濟相成タルモノニテ身代限
ノ際之ヲ藏匿シタルニアラスト云フニアリテ徒ラニ原裁判官カ判定セシ事實上ニ立入り其
當否ヲ論難スルニ止マリ原裁判ハ別ニ不法ト認ムヘキ廉アルニアラサレハ上告ノ原由ナキ
モノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

○第四百十四號

判文(詐欺取財) 明治十七年三月十二日上告
同 年十一月廿二日發付

富山縣越中國婦負郡打出村千七
十七番地平民日雇稼

荒 井 米 次 郎

明治十七年二月
二十八歲

同縣同國同郡四方新村七百十二

番地平民キン養子。

町野 幸次郎

文久元年八月生

右米次郎外一名カ被告事件ニ付キ明治十七年二月十四日富山輕罪裁判所ニ於テ被告人等ハ賣藥營業人飯野久四郎ノ行商人トナリ下野下總常陸地方行商中明治十五年七月豫テ久四郎ヨリ渡サレタル賣藥行商簿八冊ノ内花主二百八十七戸ニ關スル部分七拾枚ヲ巧ニ切取り該簿ヲ久四郎へ返還シタルハ明治十五年度ハ行商滿限ニ付爾後自カラ行商ヲ爲シ久四郎ノ花主ヲ欺キ其配付シ置タル藥ノ代價ヲ騙取スル手段ニ外ナラスト認定シ刑法第三百九十條同第三百九十七條同第三百十二條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ各重禁錮二月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ尙同第三百九十四條ニ照シ監視六月ニ付ス但帳簿ヲ毀棄シタリトノ被告事件ハ直接ニ權利義務ニ關セサル帳簿ナリト認ムルヲ以テ免訴ス毀棄シタル紙數七拾枚ノ證據品ハ被害者へ還給ス幸次郎ハ闕席ノ儘裁判ヲ爲スト言渡シタリ檢事補土屋次郎ハ此ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告セル要領ハ被告人等カ所爲ハ飯野久四郎營業ノ賣藥行商中即チ其手代タリシ時被告人等カ自由ニ支配スヘキ帳簿ノ幾分ヲ切取りシモノナレハ未タ法律ニ觸レヌ假ニ個ハ後日賣藥得意先キニ至リ久四郎ノ手代ト詐ハリ豫テ預ケアル藥ノ代金ヲ詐取セントノ手段ナリトスルモ詐欺取財ノ豫備ニ止マリ未タ其代金ヲ騙取スルコトニ着手シタルニアラサレハ法律ノ罰スヘキモノニアラス然ルチ原裁判所ニ於テ刑法第三百九十四條同第三百九十七條同

第三百十二條ヲ適用シ刑ノ言渡シヲ爲セシハ乃チ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告荒井米次郎外一名ハ答辯セズ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事安藤源五郎ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ

原裁判所カ認メシ事實ニ據レハ被告人等ハ他日金子ヲ騙取セント豫備ヲ爲シタルニ止マリ未タ其事ニ着手シタルニアラサレハ刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラスト然ルチ原裁判

所ニ於テ詐欺取財ノ未遂犯ナリトシ刑法第三百九十條同第三百九十七條同第三百十二條同第

三百九十四條ニ依リ處斷シタルハ不法ニシテ乃チ上告論旨ノ如ク治罪法第四百十條第十項

ニ相當スル擬律錯誤ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ

裁判言渡シヲ爲スノ如シ

荒井 米次郎

町野 幸次郎

前ニ判明スルカ如クナルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪且放免ノ言渡シヲ爲ス者ナリ

但シ帳簿ヲ毀棄シタリトノ被告事件ハ直接ニ權利義務ニ關セサル帳簿ナリト認ムルヲ以テ免訴ス紙數七拾枚ノ證據品ハ被害者へ還給ス

○第四百十五號

判文(詐欺取財)明治十七年三月十一日上告
同 年十一月廿二日發付

熊本縣肥後國玉名郡小原村九百
七十一番地平民農當時同郡關村
列戶長役場筆生

宮部 彌一郎

明治十七年一月
五十七年十二月生

右彌一郎并ニ外一名カ被告事件ニ付明治十七年一月十五日山鹿治安裁判所ニ開キシ熊本輕
罪裁判所ニ於テ數罪ノ内一ノ重キ地所書入借用金證書ヲ偽造シテ行使シタル罪ニ從ヒ刑法
第二百十條第一項同第八十九條同第九十條同第七十條ニ照依シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮二
月ニ處シ罰金壹圓ヲ附加シ尙同第二百十二條ニ依リ監視六月ニ付スト言渡シタルニ被告彌
一郎ハ之ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告カ赤水熊平外一名ノ爲メ横地長龍等ヨリ借
受タル百五拾圓ノ金子ヲ井上廷太ニ一時貸與ヘタルモ右ハ熊平等ノ承諾ニ出テ又菅原休次
郎借主名義ノ地所書入借用金證書ハ被告ニテ偽造シタルコトアラス個ハ同人并ニ同被告タリ
シ大倉勝次郎兩名ノ依頼ニ應シ代書シタル迄ナルヲ有罪ノ言渡シヲ爲セシハ頗ル不當ナル
ヲ以テ之レカ破毀ヲ求ムト云フコトアリ

對手人檢察官警部補伊東庫太郎ハ原裁判ハ允當ナリトノ趣旨ヲ答辯セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シタルニ立會檢事澄川拙三ハ本案上告ノ
不理ナル意見ヲ述ヘ而シテ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ニ云ク原裁判所カ認定セル事實ヲ案

スルニ被告ハ曾テ同被告タリシ大倉勝次郎ト謀リ菅原休次郎ヲ欺キ其實印等ヲ取出シ擅ニ
同人名義ナル金百五拾五圓ノ地所書入證書ヲ偽造シテ行使シタル事明カナリ然レハ其所爲
刑法第二百十條ノ外尙同第三百八條第二項ニ所謂印影盜用ノ罪ヲモ組成シタルコト固ヨリ論
ナキニ原裁判之ヲ不問ニ措キタル而已ナラス右第二百十條ノ附加罰金ハ四圓以上四拾圓以
下トアルニ之ヲ貳圓以上貳拾圓以下ト明示シ二等ヲ減シ壹圓ノ罰金ヲ科セシハ頗ル不法ニ
シテ之ヲ要スルニ共ニ擬律ヲ錯誤セシモノナレハ原裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ判決アラシ
ヲ求ムト因テ之ヲ審察スルニ
本案上告ノ論旨クルヤ原裁判官カ正當ノ職權ニ從ヒ判定セシ事實上ニ立入り不服ヲ訴フル
ニ過キサレハ固ヨリ上告ノ原由ナキモノトス然レモ被告ハ同被告タリシ大倉勝次郎ト謀リ
菅原休次郎借主名義ナル金百五拾五圓ノ地所書入證書ヲ偽造シタル當時休次郎ノ實印ヲ盜
用セシモノナレハ此廉ニ對シ尙相當ノ判決ヲ爲スヘキニ原裁判玆ニ出テス又其證書偽造罪
ヲ斷スルニ刑法第二百十條第一項ノ附加罰金ハ四圓以上四拾圓以下ナルヲ貳圓以上貳拾圓
以下ト言渡シノ理由ヲ付シ剩ヘ罰金トシテ壹圓ヲ科シタルハ乃チ附帶上告論旨ノ如ク擬律
ヲ錯誤シタルモノトス因テ原裁判ハ治罪法第四百十條第十項ニ相當スル違法ノ裁判ナリ
トス

右ノ次第ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却シ附帶上告ノ理由ニ基キ
同第四百二十九條ニ依リ原裁判言渡シノ上告入彌一郎ニ關スル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直
チニ裁判言渡シヲ爲スコト左ノ如シ

原裁判言渡シニ認メシ事實ニ據レハ被告ハ委託ノ金圓ヲ費消シ及ヒ地所書入借用金證書ヲ偽造シテ行使シ其他他人ノ印影ヲ盗用シ證書ヲ騙取セシ數罪ヲ犯シタル事明白ナリ其委託ノ金圓ヲ費消シタルハ新法實施前ニアルヲ以テ刑法第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ新法ニ在リテハ同第三百九十五條重禁錮一月以上二年以下ニ該リ舊法ニ在リテハ新律綱領雜犯律費用受寄財產條贓金百四拾圓以上懲役八十日ニ該ル之ヲ明治十四年第八十一號布告第一條及ヒ第二條ニ照スニ新法ヲ輕シトス其地所書入借用金證書ヲ偽造シテ行使シタルハ刑法第二百十條第一項重禁錮四月以上四年以下附加罰金四圓以上四拾圓以下ニ該ル他人ノ印影ヲ盗用シタルハ同第二百八條第二項重禁錮四月十五日以上三年九月以下附加罰金三圓七拾五錢以上三拾七圓五拾錢以下ニ該ル證書ヲ騙取シタルハ同第三百九十條重禁錮二月以上四年以下附加罰金四圓以上四拾圓以下ニ該ル數罪俱發シタルヲ以テ同第三百條ニ照シ他人ノ印影ヲ盗用シタルヲ情狀重キ者トナシ右第二百八條第二項ニ問擬シ情狀ヲ酌量シ刑法第八十九條同第九十條ニ照シ本刑ニ二等ヲ減シ重禁錮二月七日以上一年十月十五日以下罰金壹圓八拾七錢五厘以上拾八圓七拾七錢五厘以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮二月七日ニ處シ罰金貳圓ヲ附加シ尙同第二百十二條監視六月以上二年以下ノ範圍内ニ於テ監視六月ニ付スル者也

○第四百百十六號

明治十七年三月廿一日上告
同 年十一月廿二日發付

判文(恐喝取財)

山梨縣甲斐國西山梨郡飯沼村平
民雜業

小川佐重郎

明治十七年二月
三十六年一月

明治十七年二月二十九日甲府輕罪裁判所ニ於テ右佐重郎ハ恐喝取財未遂ノ罪アルモノトシ刑法第三百九十九條第三百九十四條第三百九十七條第七十四條第七十條ニ照シ重禁錮一年罰金拾圓ニ處シ監視一年ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス被告佐重郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ明治十六年八月三十日被告ハ森山「カヨ」方へ宿泊シ翌日歸宅シタル者ナレハ八月三十日土橋正道ヲ恐喝シ金員ヲ騙取セント試ミサル事明カナリ又豫審廷ニ於テ證人ノ喚問ヲ請求セントセシニ追テ取調フルトノ趣ニテ退席シ直チニ終結ノ言渡シヲ爲シ然シテ人違ヒナキヲ證スル調書及被告ノ利益トナルヘキ摸樣ヲ記サレス且公判廷ニ於テ證人ノ喚問ヲ請求セシニ之レヲモ採用セラレサルナリ又正道ハ金員返辨ノ義務ヲ免ント欲シ不實ノ告訴ヲ爲シタルモノニシテ正道ハ民事原告人ト同一視スヘク三ツ井和介ハ其雇人タルニ彼等ノ證言ヲ採用セラレタル等原裁判ハ越權ノ處分ナリト云ヒ尙ホ追伸書辯明書ヲ以テ前意ヲ反覆辯論スルニアリ

對手人檢事補若林爲三藏ハ原裁判允當ニシテ被告カ上告趣旨ハ其理ナキ旨答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ法式ヲ履行シ以テ判決スル左ノ如シ
被告佐重郎カ上告ノ理由トスル所土橋正道ハ民事原告人ト同一視スヘキモノナレハ正道及

ヒ其雇人ナル三ツ井和介ノ如キハ證人ノ資格ナシト云フモ正道ハ告訴人ニシテ民事原告人ニ非ラサレハ之レカ證言ヲ採ルモ敢テ越權ナリト云フヲ得ス又公判廷ニ於テ證人喚問ノ請求ヲ容レラレサルハ越權ナリト云フモ當該官ニ於テ被告カ請求スル所ノ證人タル本案ニ必要ナラスト認メ之ヲ喚問セサルニ對シ不服ヲ唱フルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス其他ノ上告主旨ハ全ク事實及探證ノ當否ヲ論難シ且豫審中ノ不服ニ止レハ是又上告ノ理由タラサルモノナリ

○第四百十七號

判文(酒造稅則犯) 明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月廿二日發付

靜岡縣遠江國敷知郡宇佐見村酒造營業

中 村 和 藏

明治十六年八月三十八年

右和藏カ酒造稅則違犯ノ被告事件ニ付明治十六年八月八日靜岡縣輕罪裁判所濱松支廳ニ於テ審理ノ末酒造稅則第二十條同第三十五條第二項ニ依リ罰金貳圓又同則第二十三條第二項同第三十六條同第三十八條ニ依リ罰金三圓ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告和藏ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ酒造稅則第二十條ノ酒桶瓶類トハ釀造用ニ供スヘキ器物ヲ云フモノニシテ決シテ賣捌用ニ供スル酒桶瓶類ヲ云フモノニアラサルヤ明灼タリ然ルニ本案ノ酒

瓶ノ如キハ數年前ヨリ小賣用ニ供シ店頭ニ陳列シ置キタルモ未ダ曾テ釀造用ニ供シタル事之レナキモノナルニ檢査官ノ告發ヲ採用シ前掲ノ如ク處斷セラレタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フコ在リ

對手人檢察官山村貫一ハ原裁判相當ニシテ上告理由ナシト答辯セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決スルコ左ノ如シ
原裁判言渡書ヲ閱スルニ 其方儀被告事件檢察官ノ公訴ニ依リ審理ヲ遂クル所其方カ使用以前管廳へ申出檢査ヲ受クヘキ酒瓶ノ檢査ヲ受ケスシテ使用シ云々トアリ又一件書類ニ就キ被告カ檢査官ニ提出シタル始末書ヲ閱スレハ小賣用ニ供シタルニアラス檢査未濟ノ酒類ヲ入置キタルモノナルヤ明カナレハ容量檢査ヲ受ケス使用シタル上ハ酒造稅則第二十條ノ違犯者タルコ勿論ナレハ之ヲ罰シタルハ相當ニシテ擬律錯誤ト云フヲ得ス因テ上告趣旨其効ナシ

以上ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス

○第四百十八號

判文(烟草稅則犯) 明治十六年十月廿五日上告
同 十七年十一月廿二日發付

福島縣岩代國大沼郡高田村二千八百四十二番地士族烟草印紙賣捌人

原 田 種 高

明治十六年九月
五十六八

右種高カ烟草印紙購求人ノ住所ヲ帳簿ニ登記セサル被告事件ニ付明治十六年九月十四日福
島輕罪裁判所若松支廳ニ於テ審理ノ末被告ハ印紙購求人ノ國郡村名ヲ登記セサルモ其町名
ヲ登記シ佐竹半右衛門ノ如キハ二口ノ一ニ上町ト記載アリテ同日ノ賣渡シナレハ之ヲ以テ
住所ヲ登記セサルモノト爲ス可ラス因テ被告ハ無罪ト言渡シタル裁判ヲ不當トシ同裁判所
檢事補伊藤助太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要點ハ烟草印紙賣捌人ハ烟草稅則第二十五條ヲ遵守
シ印紙購求人ノ氏名住所年月日ヲ登記セサル可カラサルニ被告ハ單ニ購求人ノ氏名ト該村
字名ノミヲ記載シ又ハ月日ヲ記載セサルハ印紙賣捌帳簿及被告ヨリ差出シタル手續書等ニ
據リ明瞭ナレハ烟草稅則第二十五條ヲ適用スヘキモノナルニ原判官ハ此事實ヲ認メナカラ
無罪ト言渡シタルハ不當ナリト論告スルニ在リ

對手人被告種高ハ答辯セズ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ履行シ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
明治十五年第六十三號公布烟草稅則第二十五條ノ法則タルヤ素ト其購求人ノ住所氏名及其
賣高年月日ヲシテ後日調査ノ爲メ便利ナラシムル爲メ登記スヘキモノナレハ其住所ノ如キ
モ明瞭登記スヘキハ當然ナリ然レトモ今原書類ニ徵シ原本文ヲ檢スルニ被告カ印紙ヲ賣渡
シタル其購求人ハ皆被告ト同村ノ者ニシテ其賣渡高及月日ノ如キハ明晰ニ記載シ且其住所
モ國郡村名ハナキモ其現ニ住居スル字名ハ悉ク登記アリテ該住所ハ充分知ルニ足レリ殊
ニ佐竹半右衛門ノ如キハ其氏名ノ併記ニ係ルノミナラス同日ノ賣渡シナルヲ以テ其後行ノ

住所ヲ改テ明記セサルモ烟草稅則第二十五條ノ違犯者ト爲スヘキモノニ非ラス故ニ原判官
ハ是等ノ事實ヲ認メテ犯則者ニ非ラサレハ無罪ト言渡シタルハ相當ニシテ聊カ間然スヘキ
モノニ非ラス因テ該上告ハ相立タサルモノト判定ス
右ニ辯明スルカ如クナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スル者也
○第四百十九號

判文(囚徒逃走) 明治十六年九月七日上告
同 十七年十一月廿四日發付

長崎縣肥前國北松浦郡志自岐村
平民無職業

立石伊喜平

明治十六年八月
三十一年

右伊喜平カ囚徒逃走被告事件ニ付明治十六年八月六日平戶治安裁判所ニ開ク長崎輕罪裁判
所ニ於テ審理ノ末刑法第四百二十二條ニ照シ重禁錮三月ニ處ス但被告カ曩キニ處セラレタル
重禁錮一年六月ノ刑ハ刑法第五十二條ニ依リ其逃走中ノ日數ヲ除キ已ニ就役シタル三日ト
逮捕ノ日即チ明治十六年七月二十五日ヨリ同八月六日ニ至ル十三日ハ之レテ刑期內ニ算入
シ剩ル日數而已執行スヘキモノトスト言渡シタル裁判ニ對シ警部佐藤秀夫ハ上告ヲ爲シタ
リ其要領ハ被告伊喜平ハ明治十五年十二月十五日重禁錮一年六月ニ處セラレ服役三日ヲ經
過ノ後同年十二月廿五日發長崎監獄署へ護送ノ途中同月廿九日午後八時長崎港ニテ逃走セ
シモノニテ明治十六年七月廿五日逮捕シ公訴ニ及ヒタリ依テ刑法第五十二條ニ依リ其逃走

五六九

ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ併算シ執行スヘキモノナルニ原裁判但書ニ被告カ曩キニ處セラレタル重禁錮一年六月ノ刑ハ刑法第五十二條ニ依リ其逃走中ノ日數ヲ除キ已ニ就役シタル三日ト逮捕ノ日即チ明治十六年七月廿五日ヨリ同八月六日ニ至ル十三日ハ之レヲ刑期内ニ算入シ剩ル日數而已執行スヘキモノトスト言渡シタリ之ニ依テ之レヲ親レハ明治十五年十二月廿五日發長崎監獄署ヘ護送ノ途中同月廿九日逃走ニ至ル迄ノ日數四日ハ刑期ニ算入セサルモノ、如シ果シテ然ラハ被告ノ不利益ナルノミナラス擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ望ムト云フニ在リ

對手人伊喜平ハ原裁判ノ不當ナルヲハ檢察官上告趣意書ノ通リナリト答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタルモノハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算スヘキコトハ刑法第五十二條ニ依テ明瞭ナリ故ニ明治十五年十二月二十五日ヨリ同二十九日逃走ニ至ル迄護送ノ日數モ刑期ニ計算スヘキモノナルニ原裁判ニ於テ之レヲ計算セサルハ原檢察官上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百三十一條ニ依リ原裁判但書ニ係ル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルコト左ノ如シ

立石伊喜平

右辯明ノ如クナルヲ以テ原裁判所ニ於テ認メタル事實ニ據ルニ被告カ曩キニ處セラレタル重禁錮一年六月ノ刑ハ刑法第五十二條ニ依リ其逃走中ノ日數ヲ除キ既ニ就役シタル三日ト護送途中ノ日數即チ十二月二十五日ヨリ同二十九日迄ト其逮捕ノ日明治十六年七月

二十五日ヨリ同八月六日ニ至ル日數ハ總テ之レヲ刑期内ニ算入シ剩ル日數ヲ執行スヘキモノトス

○第四百二十號

判文(證書變造及印影盜用) 明治十六年十月廿六日上告
十七年十一月廿四日發付

埼玉縣武藏國比企郡西本宿村二
十番地平民

關口三平

明治十六年九月
三十八年三月

右關口三平カ被告事件ニ付明治十六年九月二十九日浦和輕罪裁判所熊谷支廳ニ於テ審理ノ末證書變造印影盜用ノ所爲アリト認メ刑法第三百九十條第三百九十七條第百十二條第二十條第二百八條第二項ニ依リ二罪以上俱發スルヲ以テ同第百條第三項ニ照シ同第二百十條ニ從ヒ重禁錮四月十五日罰金四圓仍ホ同第二百十二條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告本人ハ上告ヲ爲シタリ
其要旨ハ堀越皆吉ヨリ請取タル借用證書ヲ變造シ同人ノ印影ヲ盜用シタルモノトアルモ如何ナル方法手段ヲ以テ變造盜用シタルヤ其理由ヲ明示セス該證書ノ十ノ字ヲ濃墨ヲ以テ再塗シ五錢印紙ハ壹錢印紙消印ノ上ニ貼用シアルモ變造ノ證據トナスニ足ラス又明治十四年ノ四ノ字ハ五ノ字ヲ描改シタルモノトスルモ告訴人證人ニ於テ熊谷治安裁判所ヘ差出シタル答辯書ニ明記シアリテ該證年月日ノ如キハ描改ナシタルニ非ラサルヤ明カナリ然ルニ犯

罪者トシ前掲ノ如ク言渡シテ爲シタルハ越權且ツ理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリ因テ原裁判ノ破毀ヲ望ムト云フニ在リ檢事補高橋良策ハ原裁判所ハ事實ヲ認メ有罪ト判定シタルモノニシテ越權且ツ理由ニ齟齬アルコトヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
上告ノ理由トスル所ハ如何ナル方法ヲ以テ證書ヲ變造シタルヤ其理由ヲ明示セサルハ越權ナリト云フト雖モ原判文ヲ閱スルニ其事實理由ハ明示シアリテ毫モ瑕瑾ノ廉アルヲ觀ス又證書ノ十ノ字ヲ再塗シ印紙ヲ重貼用シアルモ證據ト爲スニ足ラス且ツ年月日ノ如キハ告訴人等ノ答辯書アリテ描改セサルヤ明カナルヲ原裁判所ハ採ルニ足ラサル證據ニ據リ有罪者ト判定シタルハ事實齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フモ諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ノ有無ヲ判定スルハ原裁判官ノ特有スル職權ナルコトハ治罪法第四百六十六條第二項ノ定規ニ依リ明瞭ナリ故ニ其職權ヲ以テ爲シタル事實ノ判定ト證據ノ採擇上ニ對シテハ他ヨリ其當否ヲ論難スルコトヲ得ス

右ノ如クナルヲ以テ本案上告趣旨ハ總テ相立タサルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

○第四百二十一號

判文(證書偽造) 明治十六年十月三日上告
同 十七年十一月廿四日發付

福井縣越前國坂井郡堅町平民日
雇稼

川崎 仁作

明治十六年九月
二十七年十月

右仁作カ證書偽造被告事件ニ對シ明治十六年九月十三日福井輕罪裁判所ニ於テ審理ノ上刑法第二百十條ニ依リ自首スルヲ以テ同法第八十五條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ減シ一年ノ重禁錮ニ處シ拾圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同法第二百十二條ニ照シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタリ被告仁作ハ該裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタル要旨ハ松田禎之助ノ依頼ヲ受ケ切繼ギ加筆等ヲ以テ詐爲シタル證書ヲ持參シ代官人石橋榮太郎へ相渡シタルモ歸宅後悔悟ニ堪ヘス直チニ自首シタルモノナレハ假令榮太郎ヨリ該證書ハ控訴裁判所ニ呈出シタルモ該廳ハ審理中ナルヲ以テ未タ其事ヲ遂ケタルモノト云フ可カラス殊ニ斯ル情實ナレハ未遂犯ノ法章及ヒ酌量減輕テ適行セラルヘキハ勿論本件豫審終結言渡シニ對シ共犯者禎之助ハ上告セシヲ以テ其落着キ俟タサレハ被告ノ犯罪モ分明ナラサルモノト信スルヲ以テ公判ノ延期ヲ請願セシニモ拘ハラス前顯ノ如ク決放セラレタルハ不當ニシテ治罪法第四百十條第九項乃至第十一項ニ適合スル上告ノ原由アルヲ以テ破毀ヲ需ムト論告セリ原檢事補吉岡信徳ハ原裁判適法ニシテ上告ノ理由ナキコトヲ答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ審理判決スル左ノ如シ
刑法第二百十條ノ罪タル偽造行使相待テ構成スルハ論ヲ俟タス今原判文ヲ閱スルニ(署金貳百五拾圓ノ預リ證ヲ作爲シ精算上違算ヲ生セシメ)爲メ代官人石橋榮太郎ヲシテ大阪控訴裁判所へ證據物トシテ提出セシメタル事實ハ汝ノ云々證據充分ナリトアリ其後段ニ於テ

(右犯罪ヲ坂井警察署ニ自首云々)トアルヲ視レハ被告カ證書ヲ偽造シテ已ニ行使シ然ル後
ヲ首出シタルモノト判定シタルハ明瞭ニシテ治罪法第四百四十六條第二項ニ定メタル如ク該
判定ノ事實ハ徒ラニ駁撃スルヲ得サルハ勿論其目的奈何ニ論ナク行使シタル以上ハ既遂犯
タル得テ知ルヘキナリ然ラハ未遂犯ナリトノ論旨ハ其効ナキ而已ナラス酌量減輕ノ如キハ
專ラ承審官ノ心證ニ在ルモノナレハ決シテ他ノ得テ左右シ得ヘキモノニ非ラス而シテ假令
共犯者ニ於テ一回上告ヲ爲シアルモノ之ヲ以テ他ノ被告人ニ影響ヲ波及スヘキモノニ非ラサ
レハ之レヲ理由トシテ公判ヲ延期スルノ謂ハレナシ故ニ原裁判所カ其請求ヲ容レサル素ヨ
リ至當ナレハ之ヲ不當ト爲スヲ得ス以上辯明スルカ如クナレハ到底該上告ハ一モ其理由ナ
キモノト判定ス

右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ノ成法ニ則リ本案上告ハ之ヲ棄却スル者也

○四千二百二十二號

判文(證書騙取)明治十七年二月四日上告
同 年十一月廿四日發付

新潟縣越後國古志郡石田村平民

猪俣清吉妻

高橋トセ

明治十六年十二月

二十六年一月

明治十六年十二月二十五日新潟縣輕罪裁判所長岡支廳ニ於テ右「トセ」カ證書騙取被告事件ヲ
審理シ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ二月二十日ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ

附加シ六月ノ監視ニ付ス旨言渡シタル裁判ニ對シ被告「トセ」ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ證
人動山珍法吉川與八郎ハ民事原告人井上柳造ト其交情相厚キモノナレハ故サラニ事實相違
ノ證據ヲ爲シタルモノナルニ原裁判官ニ於テ之ヲ採用セラレシハ不當ナリ又石内村戶長役
場ノ公證割印帳ノ消印ニ及ハサリシハ被告カ夫清吉ニ於テ匆卒旅立ヲ爲シタルヲ以テ當時
其手續ヲ爲サ、リシニ依リ後日出先ヨリ郵便ニテ消印ヲ願出タルモノナルニ原裁判官ニ於
テ此事實ヲ審究セラレサリシハ不法ナリト云フニ在リ

同裁判所檢事補小原朝忠ハ上告論旨ハ其理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行シ之ヲ判決スルト左ノ如シ

抑證據ノ採擇事實ノ認定ハ法律上裁判官ノ職權ニ一任スル所ナリトス然ルニ本案上告論旨
ハ其職權内ニ侵入シ探證ノ當否ヲ論難スルニ過キヌシテ一モ治罪法第四百十條各項ノ規定
ニ適合セサルヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

○四千二百二十三號

判文(毆傷)明治十六年十月三十日上告
同 十七年十一月廿四日發付

京都府上區第十一組昆沙門南半

町一番戶平民版木職

波田正

明治十六年十月

二十年四月

東京府麻布區網代町十五番地士

五七五

永井 鑊三郎

明治十六年十月二十八日

右波田正外一名カ被告事件ニ付明治十六年十月九日堺治安裁判所ニ開ク大坂輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末被告正ハ市川直正ヲ毆打創傷シ休業ニ至ラシメタルモノト認メ刑法第三百一條第二項ニ依リ重禁錮一月ニ處シ被告鑊三郎ハ犯罪ノ證據充分ナラストシ治罪法第三百三十五條ニ依リ無罪ノ宣告ヲ爲シタリ同裁判所檢察官警部補近藤正大ハ該裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲ス其要領ハ被告等ハ市川直正ノ爲メニ罵詈雑言ヲアルヲ以テ憤怒ニ堪ヘズ毆打ノ念ヲ生シ豫メ用意シ使ヒテ他人ノ名ヲ僞稱セシメ直正ヲ菅原社境内へ呼寄せ毆打シタルコトハ被告正カ自供其他被害者及ヒ關係人ノ陳述ニ依リ明瞭ナレハ刑法第三百二條ニ依リ加重シ處斷スヘキヲ原裁判茲ニ出テス同法第三百一條第二項ニ依リ處斷セシノミナラス被告鑊三郎ハ證據充分ナラストシ其理由ヲ明示セス且適用セル治罪法第三百三十五條ノ如キハ違警罪事件ノ手續キニシテ本件ノ如キ輕罪事件ニ依ルヘキモノニアラス即チ治罪法第四百十條第九項第十項ニ適當スル誤謬ノ裁決ナルヲ以テ上告シ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
 上告ノ理由トスル所被告正等ニ於テ豫メ謀テ毆打創傷シタルハ自供其他ノ證據ニ據リ明晰ナルニ前掲ノ如ク處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フト雖モ諸ノ證據ヲ取捨鑑別シ犯罪ヲ判定セルハ原裁判官ニ任從スル所ナレハ其職權内ニ侵入シ濫リニ採證ノ當否ヲ非難シ輒ス
 ク之レカ事實ヲ左右スルコトヲ得サルモノトス何トナレハ治罪法第四百十六條ノ規定アレハナリ又證據充分ナラサル理由ヲ明示セスト云フモ治罪法第三百五條ニ無罪ノ證據ナキコトヲ明示スヘシトアリテ犯罪ノ證據充分ナラサル理由ヲ明示スヘシトノ法文ニアラサレハ敢テ之レヲ失當ノ處分ナリト云フヲ得ス其治罪法第三百三十五條ヲ依照セシハ上告論旨ノ如クニシテ瑕瑾ヲ免レスト雖モ到底無罪ニ歸スルモノナレハ假令之レヲ更改スルモ其結果ニ於テ毫モ差違アラサレハ破毀ノ限リニアラストス以上ノ理由ナルヲ以テ上告趣旨ハ總テ相立タサルモノトス

右ノ如クナルニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノ也

○第四百二十四號

判文〔遺失物隱匿〕明治十六年九月十四日上告
 同 十七年十一月廿四日發付

愛媛縣伊豫國風早郡中村平民農

森岡 佐平

明治十六年

六十七年

右佐平カ遺失物隱匿被告事件ニ付明治十六年八月二十一日松山輕罪裁判所ニ於テ審理ノ末
 刑法第三百九十五條末項同第三百九十條ニ照シ同第三百九十四條ニ從ヒ重禁錮二月ニ處シ
 四圓ノ罰金ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ原檢事補藤本重威
 ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ森岡清七ナルモノニ遭遇セシ所右清七ハ字古地鼻ト唱フ

五七七

ル所へ煙草入ヲ遺失セシニ付若シ該所ヲ通行セハ煙草入ヲ拾ヒ送致シ吳ル歟或ハ其有無ヲ
報知ス可キノ依頼ヲ受テ被告カ該所ニ至ル所果シテ其言ノ如ク遺失シアルヲ以テ之ヲ拾ヒ
得持歸リ爾來他人ニ竊取セラレシニ付遂ニ詐言ヲ吐露シ以テ被害者ニ還附セザリシ者ナリ
該所爲ハ刑法第三百八十五條ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判所ハ刑法第三百九十五條同第
三百九十條同第三百九十四條ニ照シ刑ヲ言渡シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリ又原判文ニ費消
ノ理由ヲ附セサルハ治罪法第三百四條ニ背戾スルモノト見込ニ併テ上告シ至當ノ判決ヲ仰
クト云フニ在リ

對手人森岡佐平ハ原裁判ノ不當ナルヲハ檢察官ノ上告ト異ナルヲ無シト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ原裁判言渡書ニ

(上)被告佐平ハ明治十六年六月八日同村森岡清七ニ出會セシニ同人ハ字古地鼻ト稱スル所
ニテ吸煙セシ儘煙草入皆具ヲ忘レ置キタルニ付見當リタラハ取歸リ拾ヒシ人アテハ知ラセ
吳レトノ頼ミヲ受ケ右古地鼻ニ到リシニ果シテ煙草入ノ在リシヲ以テ取歸リ一日ヲ經テ清
七ニ有無ヲ問ハレシニ見當ラサリシト答家内ニ隱シ置キタルモノト認定ス)トアリテ其認
メタル事實ニ據レハ遺失物ヲ拾得テ隱匿セシモノタル思索ヲ須タスシテ明カナレハ刑法第
三百八十五條ヲ適用スヘキ者ナルニ原裁判爰ニ出テ同第三百九十五條末項同第三百九十
條同第三百九十四條ニ照シ處斷シタルハ原檢察官上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス
因テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判言渡シヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スルヲ左ノ
如シ

森岡 佐平

右辯明ノ如クナルヲ以テ原裁判所ニ於テ認メシ事實ニ據リ刑法第三百八十五條ニ照シ被
告十一月ノ重禁錮ニ處スル者也

○第四百二十五號

判文(詐欺取財)明治十七年二月十五日上告
同 年十一月二十四日發付

大坂府茨田郡北島村百二十三番
地平民農

淵野市 太郎

明治十六年十二月
四十四年二月生

明治十六年十二月二十日大坂輕罪裁判所ニ於テ右淵野市太郎カ委託物費消被告事件ヲ審理
シ刑法第三百九十五條ニ依リ二月ノ重禁錮ニ處ス但既發ノ前罪ニ對スル刑ノ執行ヲ了シ當
度判決ノ刑ハ輕キヲ以テ同法第百二條ニ從ヒ更ニ執行ヲ受クルニ及ハスト言渡シタル裁判
ニ對シ同裁判所檢事補戸田荒太郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ニ於テ其賃借シタル物品
ヲ自己負債ノ爲メ他へ質入シタルハ逆其物品ノ消滅セサル限リハ之ニ刑法第三百九十五條
ヲ適用スヘキモノニ非ラス何トナレハ其物品原體ノ未ダ消滅セサルハ勿論物上權未ダ債主
即チ質取主ニ移ラサレハ期限中其義務ヲ盡スルハ何時ニテモ之ヲ取戻スヲ得ヘキモノナ
ルヲ以テ質入ハ之ヲ消費シタルモノト謂フヲ得ス然ルニ原裁判所ハ單ニ其質入ナル事實即
チ言ヲ換テ云ヘハ罪トナラサル事實ト彼ノ費消シタルモノヲ罰スル法律トヲ掲ケ以テ被告

ナ刑ニ處シタルハ事實理由ノ齟齬スル不法ノ裁判ナリト云フニ在リ
 茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ公式ヲ踐行シ判決スルコト左ノ如シ
 原裁判言渡書ヲ監査スルニ被告ハ井上「サタ」ノ名義ヲ以テ土井孫右衛門ヨリ蒲團ヲ賃借シ
 タル末之中川重五郎へ入質シタルモノト認定シアルモ被告ニ於テ之ヲ費消シタルトノ事
 實理由ヲ明示セサレハ乃チ本案擬律ハ果シテ其當ヲ得ルヤ否ヤヲ鑑別スルニ由ナク之ヲ要
 スルニ治罪法第四百十條第九項ニ適合スル破毀ノ原由アルモノトス
 右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ更ニ相當ノ審判ヲ爲サシ
 ムル爲メ之ヲ神戸輕罪裁判所へ移スモノ也

○第四百二十六號

判文(詐欺取財)明治十七年二月二十五日上告
 同 年十一月二十四日發付

和歌山縣那賀郡毛原下村平民農
 業

上畑 庄左衛門
 明治十七年一月
 三十九年

右庄左衛門カ詐欺取財及證書偽造ノ被告事件ニ付キ明治十七年一月八日和歌山輕罪裁判所
 ニ於テ被告カ行爲ハ新法實施前ニ在ルヲ以テ刑法第三條ニ基キ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ
 於テハ其詐欺取財ノ罪ハ詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金百貳拾圓以上懲役十年又
 其證書ヲ偽造シタル罪ハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲重ニ問ヒ懲役七十日仍ホ二

罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ懲役十年ニ處ス可キニ該リ新法ニ於テ
 ハ刑法第三百九十條同第三百九十四條ニ依リ處斷ス可キニ該ルヲ以テ新法ノ輕キニ從ヒ明
 治十四年第八十一號公布第六條第十條ニ照シ重禁錮十月ニ處ス其犯罪ノ用ニ供シタル證書
 貳通ハ沒收スト言渡タル裁判ニ對シ同裁判所檢事補上杉直和ハ上告ヲ爲シタリ其要領タル
 本案被告事件ハ詐欺取財及ヒ證書偽造ノ二罪ニシテ其所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ新舊
 法ニ依リ數罪ノ輕重ヲ比照スヘキニ原裁判所ハ單ニ舊法ノミヲ比照シ新法ニ於テハ偽造證
 書ノ罪ヲ不問ニ置キタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ

被告庄左衛門ハ原檢察官ノ上告論旨ハ其理由ナキ旨答辯セリ

茲ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行シ之ヲ審案スルニ原裁判官ニ於テ本
 件被告カ所爲ハ詐欺取財及ヒ證書偽造ノ二罪ヲ犯シタルモノニシテ其犯時新法實施以前ニ
 在ルヲ認メナカラ新舊法ニ依リ數罪ノ輕重ヲ比較スルニ方リ獨リ舊法ノミヲ比較シ新法ニ
 於テ證書偽造ノ罪ヲ不問ニ置キタルハ上告論旨ノ如ク擬律ノ錯誤ニ涉ル不法ノ裁判ナリト
 ス依テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

上畑 庄左衛門

被告人カ犯罪ハ原裁判官カ判定セル所ニ依リ明確ナルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治
 十四年第八十一號公布ニ從ヒ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ其他人ヲ欺罔シ金員ヲ詐
 取シタル罪ハ賊盜律詐欺取財條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金百貳拾圓以上懲役十年又其
 證書ヲ偽造シタル罪ハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲重ニ問ヒ懲役七十日ニ該ル

ヲ以テ仍ホニ罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ懲役十年ニ處ス可キモ
ノトス新法ニ於テハ刑法第二百十條同第二百十二條同第三百九十條同第三百九十四條ヲ
適用ス可キモノニ該ルヲ以テ仍ホ同第百條末項ニ照シ其犯情重キ右第二百十條ノ罪ニ從
ヒ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月以上二
年以下ノ監視ニ付ス可キモノトス依テ新法ノ輕キニ從ヒ十月ノ重禁錮ニ處ス
但シ犯罪ノ用ニ供シタル證書貳通ハ刑法第四十三條ニ照シ之ヲ沒收ス
○第四百二十六號

判文(詐欺取財)明治十六年七月廿三日上告
十七年十一月廿四日發付

廣島縣備後國沼隈郡松永村平民
雜業

石井長次郎

明治十六年六月
三十四年

右長次郎カ被告事件ニ付明治十六年六月六日廣島輕罪裁判所尾道支廳ニ於テ審理ノ末被告
長次郎ハ有田常太郎ト共謀シテ有田保兵衛ノ名ヲ詐冒シ鹽賣附ノ姿ニ偽リ約定證書ヲ偽造
シ西澤喜藏代人西澤五兵衛ヲ欺キ金千圓ヲ取得タル者ト認メ所犯新法實施前ニ在ルヲ以テ
刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ詐欺取財律贓金三百圓以上懲
役十年其證書ヲ偽造シタルハ改定律例第二百四十六條不應爲重キニ問ヒ懲役七十日ニ該リ
新法ニ於テハ詐欺取財ノ點ハ刑法第三百九十條證書偽造ノ點ハ同第二百十條ニ該當スルヲ

以テ輕キ新法ニ從ヒニ罪俱ニ發シタルヲ以テ同第百條ニ依リ一ノ情狀重キ詐欺取財ノ罪ニ
從ヒ重禁錮三年ニ處スヘキ所先キニ他ノ私文書偽造ノ科ニ依リ答三拾ニ處セラレシヲ以テ
舊法ニ罪俱發以重論律刑法第二百二條ニ依ルモ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算スヘキモノニ
シテ尙ホ明治十四年第八十一號布告ニ依リ前ニ受ケタル答三拾ヲ刑期ニ通算シ重禁錮二年
九ヶ月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告長次郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ヲ約ス
ルニ被告人ハ有田常太郎カ西澤喜藏代人西澤五兵衛ニ鹽貳千俵賣買ノ約定ヲ爲ス際保證人
トナリシモ常太郎ト共謀シ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルノ之ナク假リニ同謀シタル者トスルモ
曩キニ該件ニ付廣島裁判所ニ於テ處刑ヲ受ケ重複ナルヲ以テ今回ノ裁判ハ不當ナルニ付破
毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人原檢事補村田繼述ハ原裁判相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辯セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ハ意見ヲ述ヘ且ツ附帶上告ヲ爲シタリ其要領
ハ被告ノ犯罪ハ舊法ノ管理内ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號公
布第十二條ニ依リ先ツ舊法懲役十年ノ詐欺罪ト同七十日ノ私文書詐爲トノ二罪俱發以重論
條ニ照シ其重キニ從ヒ尙ホ前罪ニ通計シ後數ニ充テ而シテ刑法第三百九十條同第三百九十
四條同第二百十條同第二百十二條ニ擬シ同第百條同第二百二條ヲ適用シ尙ホ明治十四年第八
十一號公布第六第十條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ處分スヘキモノナリ然ルニ
原裁判爰ニ出テサルハ擬律ヲ誤リタル裁判ナルヲ以テ更正アラント望ムト云フニ在リ因
テ之ヲ審案スルニ被告長次郎ハ有田常太郎カ西澤喜藏代人西澤五兵衛ニ鹽貳千俵賣買ノ約

定ヲ爲ス際保證人トナリシモ常太郎ト共謀シ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルコト之レナシト云フニ在テ要スルニ事實ノ當否ヲ論難シテ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ之ヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ス何トナレハ證據ヲ採擇シテ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル所ナレハナリ又假リニ同謀シタル者トスルモ曩キニ該件ニ付廣島裁判所ニ於テ處刑ヲ受ケ重複ナルヲ以テ今回ノ裁判ハ不當ナリト云フト雖モ一件書類ヲ閱スルニ曩キニ廣島裁判所ニ於テ受ケタル裁判ハ手林多良兵衛鶴田清次郎ニ對スル罪ニシテ本件ト同事件ニアラサルハ明瞭ダレハ其趣旨モ亦相立タサルモノトス然レモ被告ノ犯罪タルヤ新法實施前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ改定律例第二百四十六條雜犯律不應爲條賊盜律詐欺取財條ニ照シテ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ處分スヘキ所一罪先キニ發シ已ニ答三拾ノ判決ヲ經タルヲ以テ二罪俱發以重論條ニ依リ前罪ニ通計シ後數ニ充テ新法ニ於テハ刑法第二百十條第一項同第二百十二條同第三百九十四條同第三百九十條第二項同第三百條末項ニ照シ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ從フヘキモノトス因テ新法ノ輕キ同第三百九十條ニ從ヒ仍ホ明治十四年第八十一號布告第二條第六條第十條ニ依リ處分スヘキ所已ニ答三拾ノ判決ヲ經タルヲ以テ刑法第百二條ニ照シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算スヘキモノトス然ルニ原裁判爰ニ出テサルハ本院檢事附帶上告論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ナリトス右辯明ノ如クナルヲ以テ被告ノ上告ハ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却シ附帶上告趣旨ニ基キ同第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判スル

左ノ如シ

石井長次郎

原裁判所ニ於テ認メシ事實ニ據ルニ所犯新法實施前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ約定證書ヲ偽造シタル罪ハ改定律例第二百四十六條雜犯律不應爲條ニ依リ不應爲重キニ問ヒ懲役七十日詐欺取財ノ罪ハ賊盜律詐欺取財條ニ照シ竊盜ニ準シテ論シ贓金三百圓以上ナルヲ以テ懲役十年二罪俱發シタルヲ以テ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ニ從ヒ懲役十年ノ所一罪先キニ發シ已ニ答三拾ノ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シタルヲ以テ二罪俱發以重論條ニ依リ前罪ニ通計シ後數ニ充テ懲役九年三百三十五日ニ該リ新法ニ於テハ約定證書ヲ偽造シタル罪ハ刑法第二百十條第一項ニ照シ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ同第三百十二條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ヲ付スヘキ者ニ該リ詐欺取財ノ罪ハ同第三百九十條ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加シ同第三百九十四條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキモノニ該リ仍ホ同第三百九十條第二項ニ依リ重キ詐欺取財ノ罪ニ從フヘキモノトス因テ新法ノ輕キ同第三百九十條ニ從ヒ且ツ明治十四年第八十一號布告第二條第六條第十條ニ依リ三年ノ重禁錮ニ處スヘキ所先キニ答三拾ノ判決ヲ經タルヲ以テ同第三百二條ニ照シ前發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算シ被告長次郎ヲ二年十一月ノ重禁錮ニ處スルモノナリ

○第四百二十七號

判文〔詐欺取財〕明治十六年十月十日 上告
同 十七年十一月廿四日 發付

兵庫縣淡路國津名郡志筑村平民

岡本
明治十六年九月
六十年

右岡本「リツ」カ被告事件ニ對シ明治十六年九月五日神戸輕罪裁判所洲本支廳ニ於テ審理ノ末「リツ」ハ男増太郎ノ名義ヲ以テ頼母子講ヲ企テ加入者ニアラサル井上友吉等ヲ加入人トシ明治十三年同十四年兩年分金拾五圓三拾貳錢ヲ糶リ取り其借用證書ニ本人及ヒ證人ノ名下ニ有合印ヲ押シ連中へ差入レ尙ホ明治十五年ニ至リ同様詐欺セシ者ト認メ新法實施前後ニ係リ繼續スルヲ以テ舊法ニ照スニ賊盜律詐欺取財條賊金拾圓以上七賊例圖ニ照シ懲役七十日私文書詐爲ハ改定律例第二百四十六條情狀ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツ新法實施後ニ係ル犯罪ハ刑法第二百十條第二百十二條第三百九十條ヲ適用スルニ罪ニ付同第百條第三項ニ依リ其情狀ノ重キ同第二百十條ニ比照セハ舊法ハ新法ノ短期外ナルヲ以テ同第二百十條ニ依リ處斷スヘキモ情狀ヲ原諒シ同第九十條ニ照シ二等ヲ減シ重禁錮二月十日ニ處シ罰金貳圓監視六月ヲ附加スト言渡タル裁判ヲ不當トシ檢事補江口三郎ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ被告ハ新法實施前後ニ繼續シ詐欺證書偽造行使ノ二罪ヲ犯シタレハ假令新法舊法ヨリ重キモ新法ニ依テ處斷シ果シテ其舊法ヨリ輕ケレハ新法ニ依照スヘキハ勿論ニシテ賊盜律詐欺取財條改定律例第二百四十六條名例律二罪俱發條刑法第三百十條第一項第三百十二條第三百九十條第三百九十四條第百條第三項ニ該ルヲ以テ第二百十條第一項ヲ重シトスル時

ハ重禁錮四月以上四年以下罰金四圓以上四拾圓以下トナリ酌量スヘキアリテ同第九十條ニ依リ二等ヲ減スレハ二月以上二年以下ノ重禁錮貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金トナル因テ短期寡數ニ於テ重禁錮二月罰金貳圓ニ處スヘキハ相當ナルヲ原裁判官ハ新法ノ短期ヲシテ舊法ノ刑期ヨリ下タサス輕キ新法ヲ閣キ其重キ舊法ニ從ヒ新法ノ附加刑ヲ言渡シタルハ不當ノ裁判ナレハ該裁判ノ破毀ヲ要求スト云フニ在リ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ審案スルニ上告ノ理由トスル所ハ新法實施前後ニ係ル繼續犯二罪ナレハ新法舊法ヨリ重キモ新法ヲ以テ處斷シ舊法ヲ比照スヘキニアラス然ルニ其輕キ新法ヲ閣キ舊法ノ重キニ從ヒ仍ホ新法ノ附加刑ヲ適用シタルハ不當ナリト云フニアレトモ原裁判言渡シテ閱スルニ(上)明治十三年十四年ノ兩年ニ右等ノ取分トシテ拾五圓三拾貳錢ニ糶取リ本人證人共有合印ヲ押シ跡懸ケ借用證書ヲ連中へ差入猶明治十五年ニ右同様詐取セシ事實ハ自供及ヒ證書類ニ徴シ證據充分ナリトス云々)トアリ此所爲ニ於ケル一個ノ繼續犯罪ニアラスシテ即成犯三次ノ俱發タルヲ無論ナリ而シテ假リニ之レヲ繼續犯トセハ最終ノ時施行スル所ノ法律ニ從ヒ處斷スルモノニシテ新法實施後ニ繼續シタル罪ハ舊法ノ管理スヘキモノニアラサレハ上告論旨ハ其當ヲ得スト雖モ原裁判モ亦擬律ノ錯誤アルモノトス何トナレハ被告カ明治十三年十四年中ノ二罪ハ新舊法ヲ比照シ其輕キニ從フヘキモ明治十五年ノ犯罪ハ單ニ新法ノミヲ以テ處斷スルモノニシテ其三罪ノ情狀等キニ依リ新法ニ從ヒ處斷スヘキモノナレハナリ然ルニ原裁判茲ニ出テス繼續犯罪ナリト論擬シタルノミナラス新舊法ヲ比照シ處斷シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ

原由アルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡シテ破毀シ本院ニ於テ直チニ判決スルコト左ノ如シ

岡本リッ

原裁判所カ認メタル事實ニ據リ其所爲明瞭ナリトス之ヲ法律ニ照スニ明治十三年及ヒ十四年詐欺取財ノ犯罪ハ新法實施前ニアルヲ以テ刑法第三條第二項ニ照シ新舊法ヲ比照スルニ新法ニアツテハ刑法第三百九十四條ニ依リ六月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金仍ホ同第三百九十四條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス舊法ニアツテハ賊盜律詐欺取財條賊金拾圓以上七贓例圖ニ照シ懲役七十日私文書詐爲ノ犯罪ハ新法ニアツテハ刑法第二百十條ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金仍ホ同第二百十二條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス舊法ニアツテハ改定律例第二百四十六條ニ依リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツ右數罪俱發スルヲ以テ新法ニ於テハ刑法第百條第三項ニ照シ同第二百十條ニ從ヒ舊法ニ於テハ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ詐欺取財條ニ從ヒ懲役七十日ニ該ルヲ以テ其輕キ舊法ニ基キ處斷スヘキ者トス明治十五年ノ詐欺取財ノ犯罪ハ刑法第三百九十四條ニ依リ六月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金仍ホ同第三百九十四條ニ依リ二月以上二年以下ノ監視ニ付ス私文書詐爲ノ犯罪ハ同第二百十條ニ依リ四月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四拾圓以下ノ罰金仍ホ同第百十二條ニ依リ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス二罪俱發スルニ付同第百條第三項ニ照シ同第二百十條ニ從ヒ處分スヘキ所犯情狀原諒スヘキアルヲ以テ同第八十九條第九十條ニ依リ同第七十條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ三月以上三年以下ノ重禁錮三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ該ルヲ以テ仍ホ新法實施前後三次ノ二罪俱發スルニ依リ同第百條第三項ニ照シ犯情ノ重キ新法實施後ノ證書偽造罪ニ依リ同第二百十條ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮三圓以上三拾圓以下ノ罰金範圍内ニ於テ重禁錮三月ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ監視六月ニ付スル者也

○第四百二十八號

判文(器物毀棄)同 明治十六年十月廿三日上告
十七年十一月廿四日發付

鳥取縣因幡國高草郡下村平民農業

岩本 豐八

明治十六年九月
三十一年生月不詳

同村平民農業

加藤 幸藏

明治十六年九月
二十八年生月不詳

同村平民農業

德永 儀之藏

明治十六年九月
十八年六月
五八九

周

明治十六年九月
十七年十月

右岩本豊八外三名カ被告事件ニ付明治十六年九月廿八日鳥取輕罪裁判所ニ於テ器物ヲ毀棄シタル所爲アリト認メ刑法第四百二十一條ニ依リ豊八幸藏ハ各罰金四圓儀之藏庄藏ハ二十歳未滿ナルヲ以テ同第四百二十一條ニ依リ第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ各罰金貳圓ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告岩本豊八外三名ハ上告ヲ爲シタリ其趣意書及ヒ退申書ノ要領ハ公判廷ニ於テ戸長及警察官上申書ヲ朗讀アリシモ船體檢査アリタルヲナク戸長ハ告訴人ト師弟ノ間柄ナルヲ以テ不實ヲ上申シ又證人小林又十郎ハ他村ノモノニテ證人トナルヘキモノニアラス竹田與太郎ハ告訴人ト同村ニシテ當時寄留者ナレハ戸長ヨリ強テ押印ナサシメ被告等ヲ陷害セシモノナリ其毀棄シタリトスル小船ハ素ヨリ破損シ藁繩又ハ赤土ヲ塗リ以テ漸ク使用シ來リ下段村字角ノ古瀬堰下ニ繫キアリシモ被告等ハ現場ヘ同行ナシタルヲナキノミナラス石ヲ打付タル痕跡アラサルヲ以テ該船ヲ檢査アラハ明瞭ナリ斯ル審理不盡ノ裁判ナレハ原言渡シヲ取消シ公明ノ覆審ヲ仰クト云フニ在リ

檢事補安藤眞一ハ該上告ハ其理由ナキモノト答辯セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

上告ノ理由トスル所ハ告訴人及證人等ノ偽證僞言ヲ採リ他ノ所有ニ係ル小船ヲ毀棄シタル者ト判定セシハ審理不盡ニシテ其當ヲ得サルヲ以テ現物檢査ノ上覆審ヲ求ムト云フニアレ

大審院ハ法律適用ノ當否ヲ監査スル所ニシテ覆審ヲナス所ニアラズ加之諸般ノ證據ヲ取捨シ事實ノ有無ヲ判定スルハ原裁判官カ職權ニシテ事實ノ判定ト證據ノ取捨ニ對シテハ他ヨリ其當否ヲ非難スルヲ得ス何トナレハ治罪法第四百十六條第二項ノ定規アレハナリ要スルニ該上告ハ治罪法第四百十條各項以外ニ渉ルヲ以テ上告ノ原由トナスヲ得サルモノトス右ノ如クナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

○第四百二十九號

明治十七年二月廿日上告
判文(無届不參)同 年十一月廿四日發付

德島縣阿波國麻植郡山田村平民

安倍 小三郎

右小三郎ニ對シ明治十七年一月廿五日脇町治安裁判所ニ於テ被告ハ同裁判所ノ呼出當日無届不參シタルモノトシ明治十年第五號布告ニ照シ罰金貳圓ヲ科スル旨言渡シタル所被告小三郎ハ之ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲スノ要領タルヤ被告ハ明治十七年一月二十五日ノ呼出ヲ受ケタルヲナキニ無届不參者ナリトシテ罰金ヲ言渡サレタルハ不法ナリト云フニ在リ

原檢察官堀口順逸ハ上告趣旨ハ其理由ナキ旨答辯セリ

玆ニ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ踐行シ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ

本案上告論旨ハ偏ヘニ法律上裁判官ニ特任スル所ノ事實判定上ニ對シ不服ヲ鳴スニ止マリテ更ニ上告適法ノ原由ナキモノナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ